

調查結果

調査結果

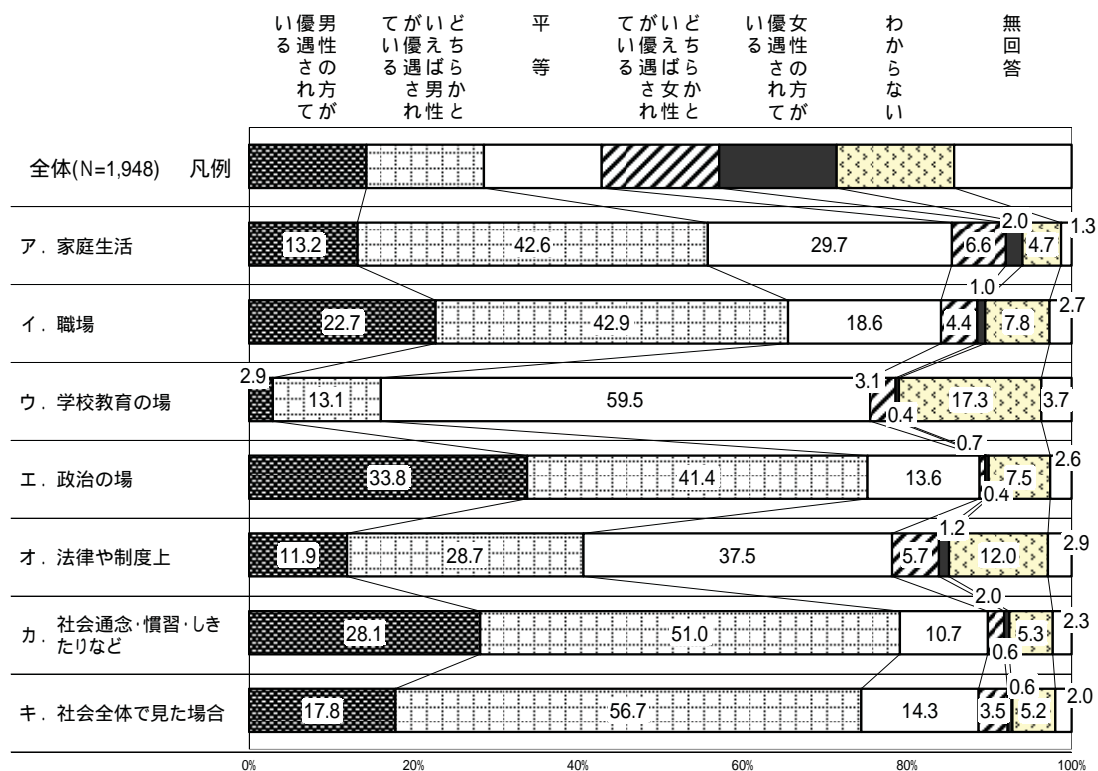
1. 男女平等に関する考え方について

(1) 様々な分野における男女の地位の平等感

問1. あなたは、下表のア～キの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。ア～キまでのそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号をつけてください。

男女の地位の平等感についてみると、「ウ. 学校教育の場」は「平等」(59.5%)と答えた人の割合が最も高くなっているが、その他はいずれも『男性が優遇されている』(=『男性の方が優遇されている』+『どちらかといえば男性が優遇されている』)の方が「平等」を上回っている。『男性が優遇されている』の割合が最も高いのは「カ. 社会通念・慣習・しきたりなど」(79.1%)、次いで「エ. 政治の場」(75.2%)、「イ. 職場」(65.6%)、「ア. 家庭生活」(55.8%)などの順になっており、「キ. 社会全体で見た場合」の男女の地位の平等感については、『男性が優遇されている』と感じる人が74.5%で、「平等」と答えた人は14.3%にとどまっている。なお「オ. 法律や制度上」は『男性が優遇されている』(40.6%)と「平等」(37.5%)の差が他の項目に比べて小さくなっている。

図 様々な分野における男女の地位の平等感【全体】

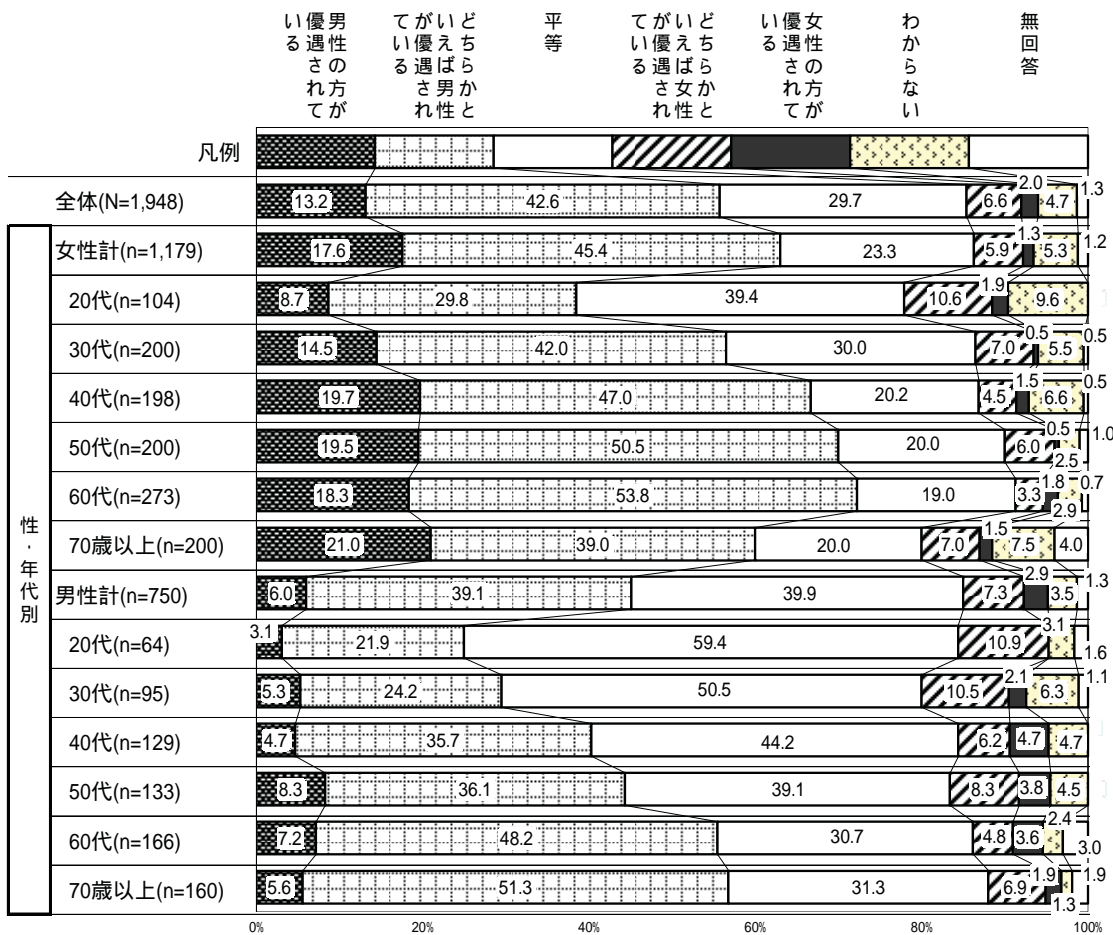


ア．家庭生活

家庭生活における男女の地位の平等感について性別にみると、女性は『男性が優遇されている』が63.0%なのに対して『平等』は23.3%となっている。一方、男性は『男性が優遇されている』が45.1%なのに対して『平等』は39.9%となっており、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』との考えが強い傾向がみられる。

年代別にみると、女性は30代以上は『男性が優遇されている』が5割以上みられ、特に60代女性は『男性が優遇されている』が7割を超えて最も高い。なお、男性は60代、70歳以上で『男性が優遇されている』が5割以上みられ、他の年代よりも高くなっている。

図 家庭生活の男女の地位の平等感【性・年代別】

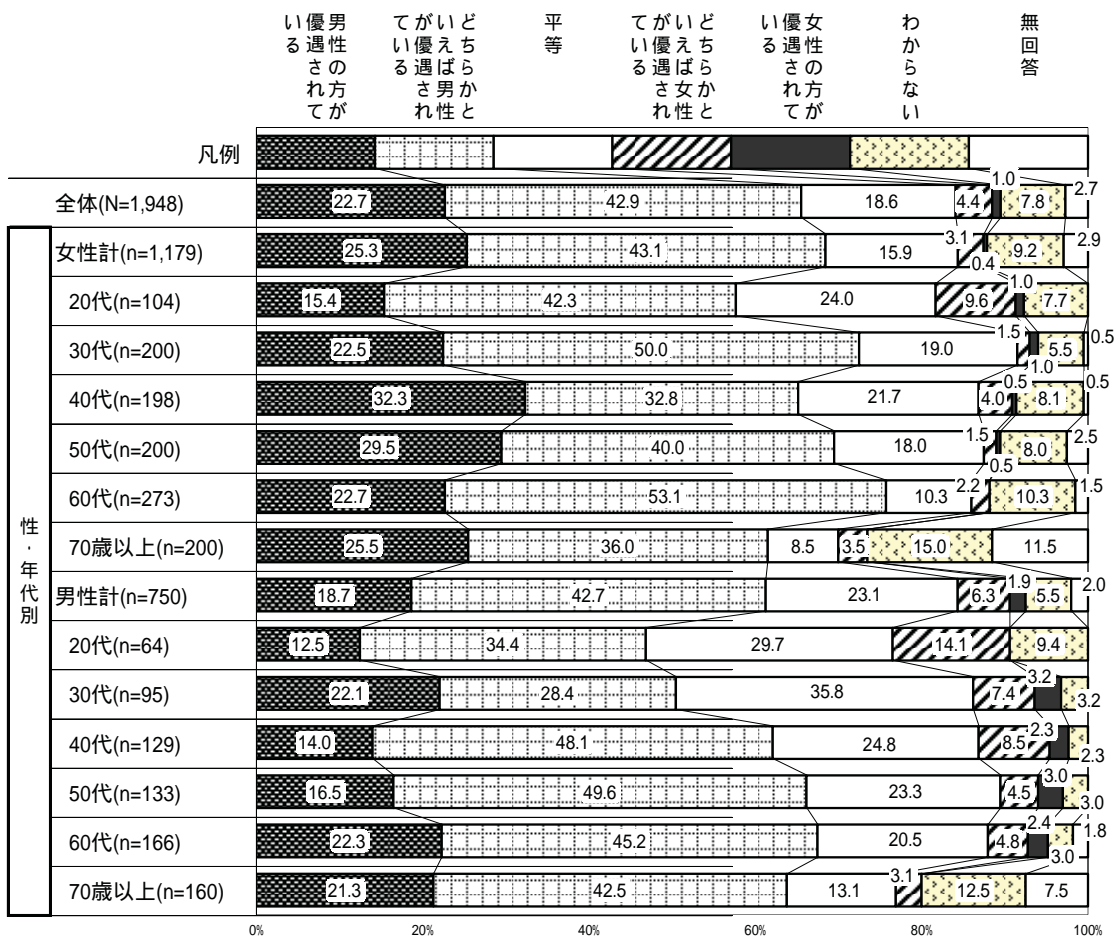


イ．職場

職場における男女の地位の平等感について性別にみると、女性は『男性が優遇されている』が68.4%なのに対して『平等』は15.9%となっている。一方、男性は『男性が優遇されている』が61.4%なのに対して『平等』は23.1%となっており、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』との考えが強い傾向がみられる。

年代別にみると、女性はいずれの年代も『男性が優遇されている』との考えが過半数を占めており、特に60代と30代は『男性が優遇されている』が7割以上みられ、他の年代よりも高くなっている。

図 職場の男女の地位の平等感【性・年代別】

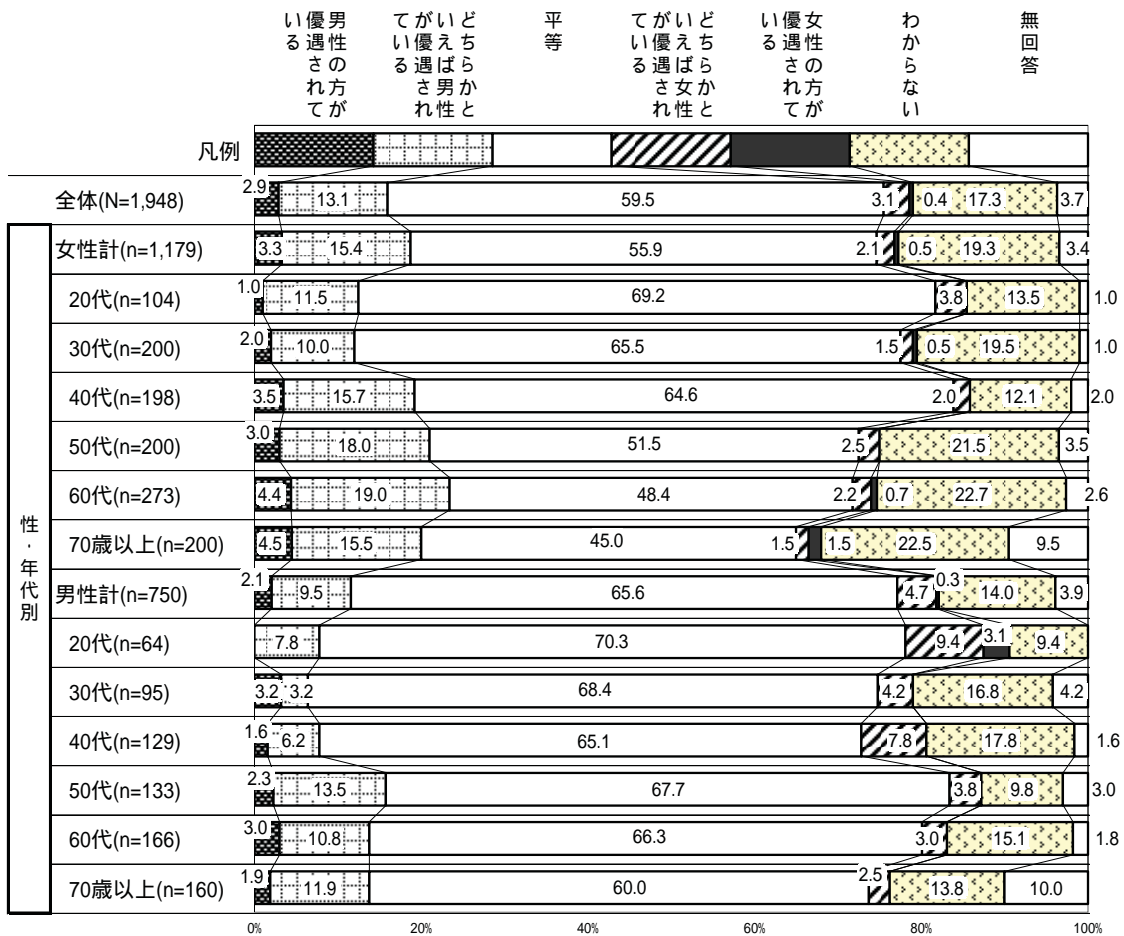


ウ．学校教育の場

学校教育の場における男女の地位の平等感について性別にみると、男女ともに「平等」が最も多く、女性 55.9%、男性 65.6%と、男性の方が高くなっているものの、いずれも過半数を占めている。

年代別にみると、いずれの性・年代においても「平等」の割合が最も多いものの、50代から年代があがるにつれて男女ともに減少する傾向がみられる。

図 学校教育の場の男女の地位の平等感【性・年代別】

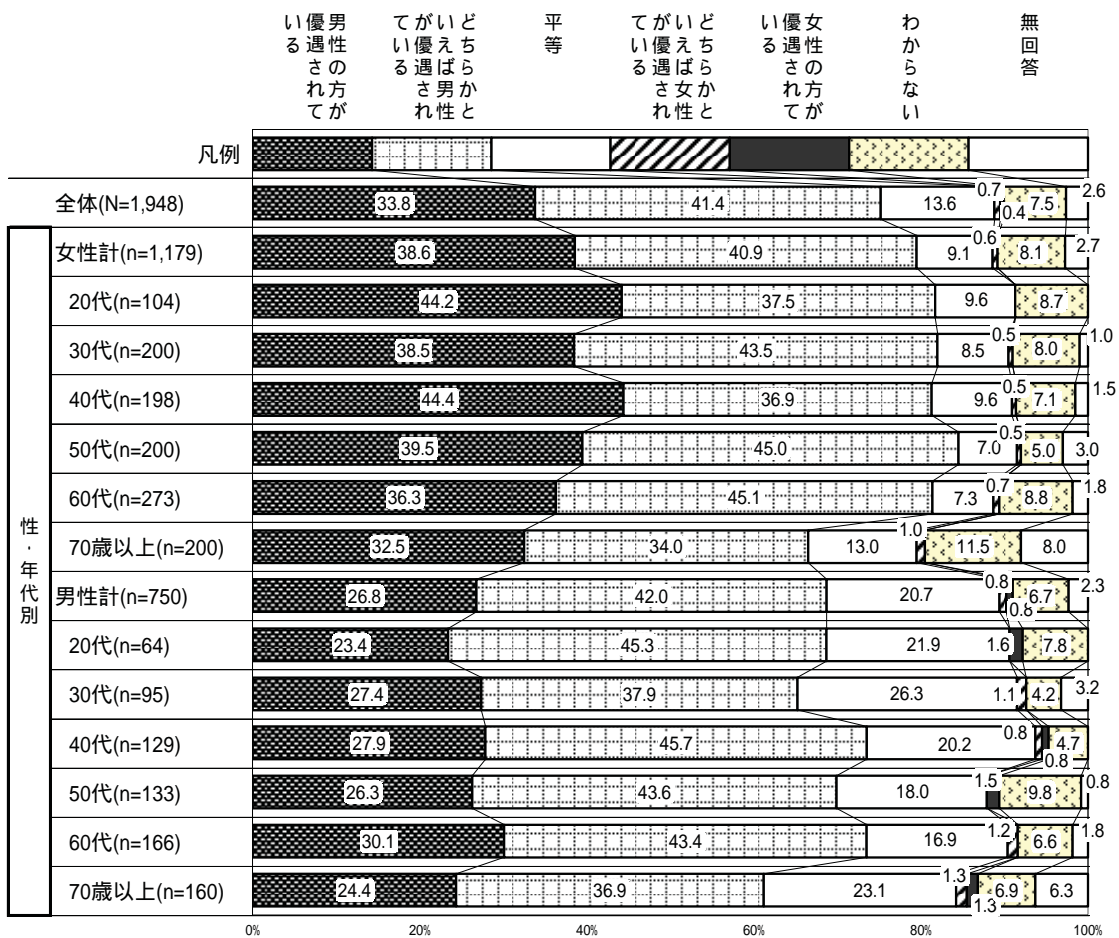


エ．政治の場

政治の場における男女の地位の平等感について性別にみると、女性は『男性が優遇されている』が79.5%なのに対して『平等』は9.1%となっている。一方、男性は『男性が優遇されている』が68.8%なのに対して『平等』は20.7%となっており、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』との考えが顕著である。

年代別にみると、いずれの年代においても『男性が優遇されている』との考えが強く、女性の割合が男性の割合を上回っている。

図 政治の場の男女の地位の平等感【性・年代別】

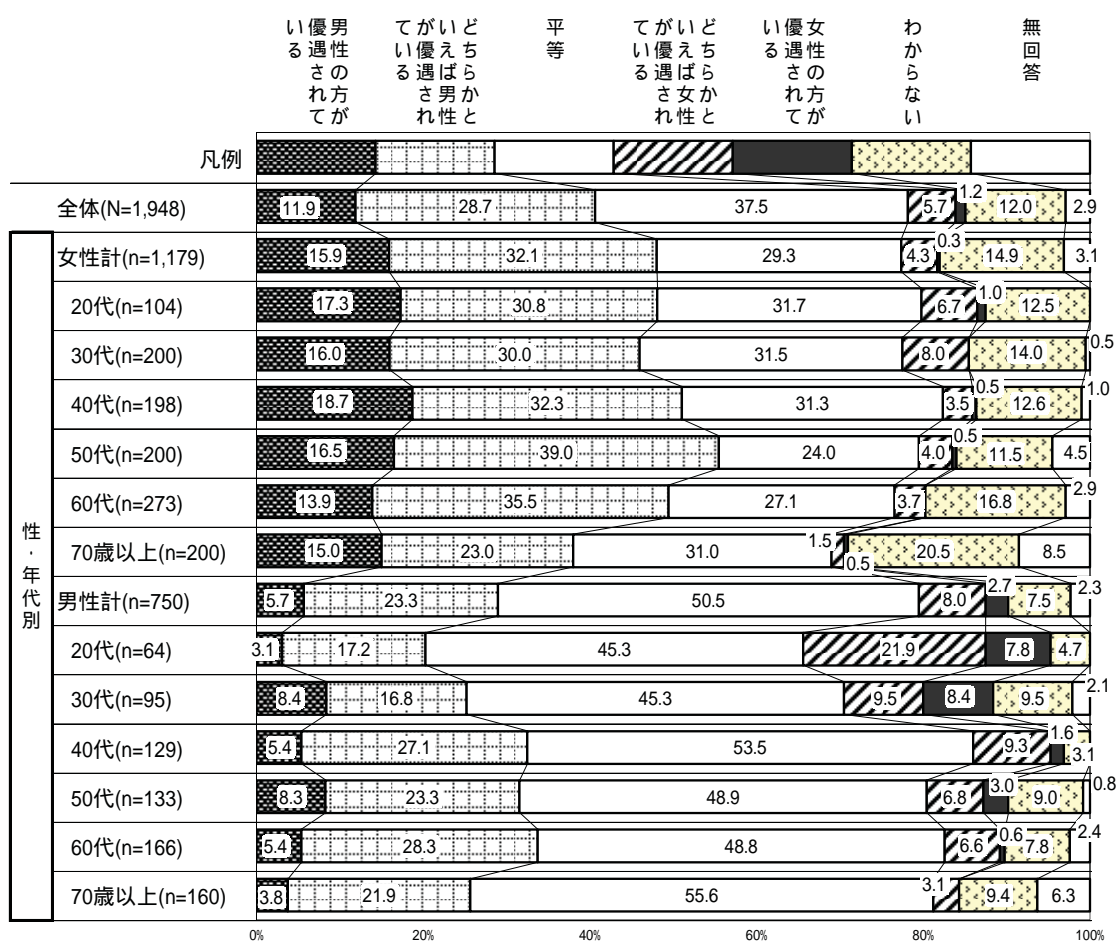


オ．法律や制度上

法律や制度上での男女の地位の平等感について性別にみると、女性では『男性が優遇されている』が48.0%なのに対して『平等』が29.3%となっている。一方、男性は『男性が優遇されている』が29.0%なのに対して『平等』が50.5%となっており、女性は『男性が優遇されている』との考えが強いのにに対して、男性は『平等』との考えが強い傾向がみられる。

年代別にみても、女性はいずれの年代も『男性が優遇されている』との考えが強いのにに対して、男性はいずれの年代も『平等』の割合が最も多くなっている。

図 法律や制度上での男女の地位の平等感【性・年代別】

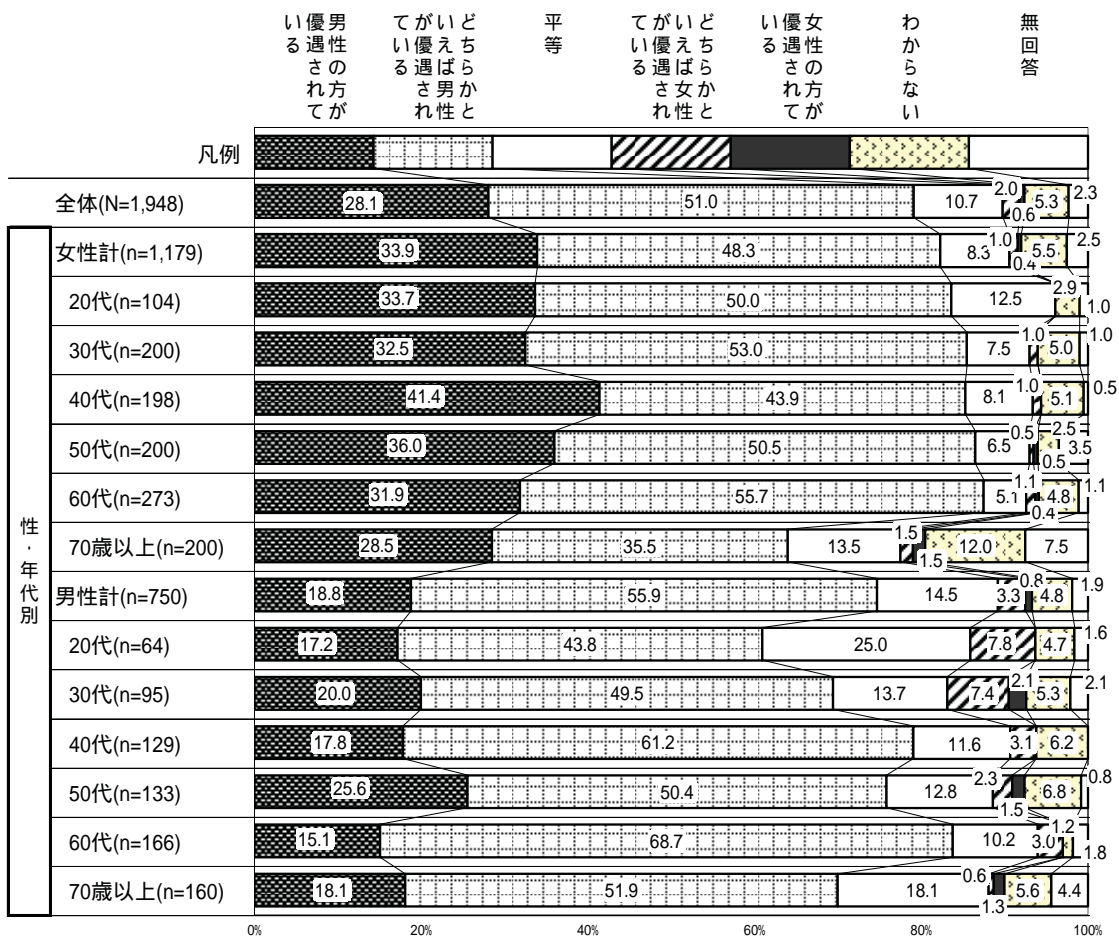


カ．社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感について性別にみると、女性は『男性が優遇されている』が 82.2%なのに対して『平等』は 8.3%となっている。また、男性も『男性が優遇されている』が 74.7%なのに対して『平等』は 14.5%となっており、男女ともに『男性が優遇されている』との考えが強く、特に女性はその傾向が男性よりも強い。

年代別にみると、いずれの年代においても『男性が優遇されている』との考えが強く、60代までは女性の割合が男性の割合を上回っている。

図 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感(性・年代別)

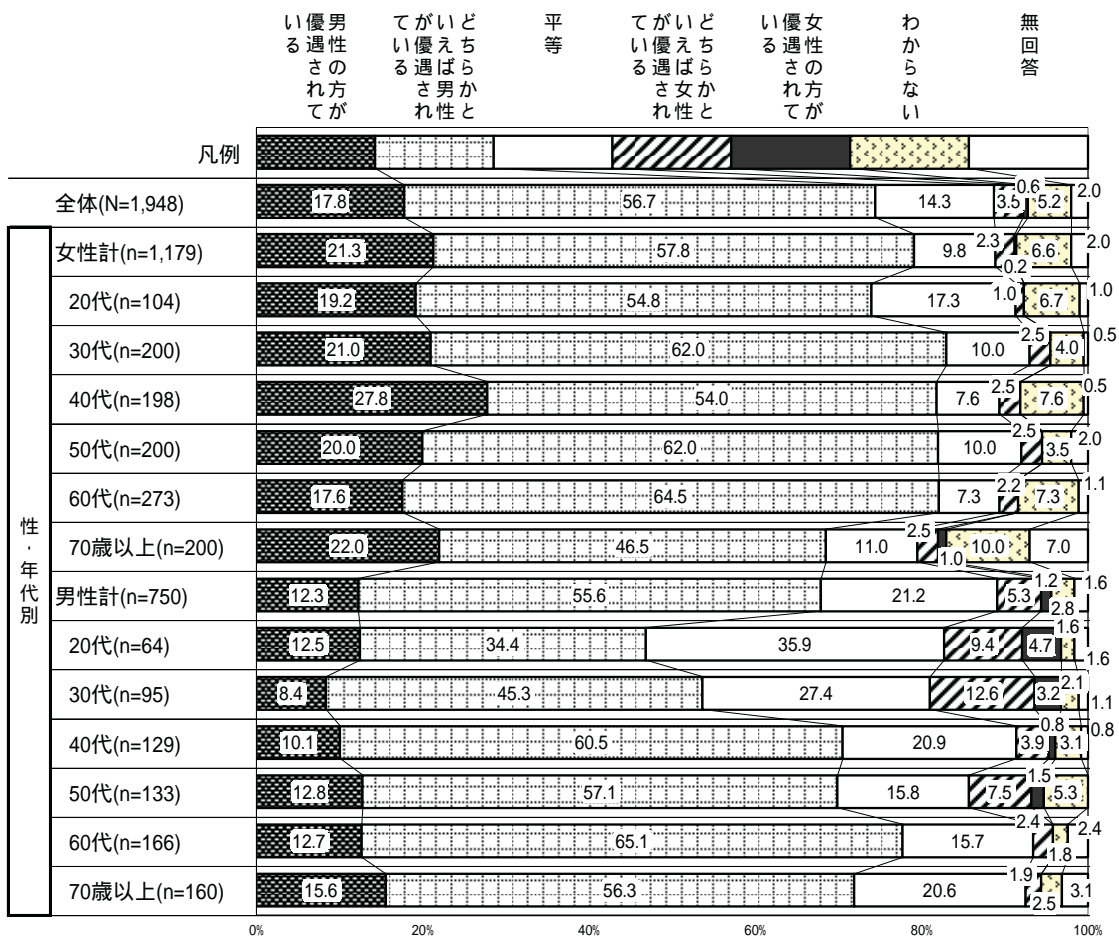


キ．社会全体で見た場合

社会全体で見た場合の男女の地位の平等感について性別にみると、女性は『男性が優遇されている』が79.1%なのに対して『平等』は9.8%となっている。また、男性も『男性が優遇されている』が67.9%なのに対して『平等』は21.2%となっており、男女ともに『男性が優遇されている』との考えが強く、特に女性はその傾向が男性よりも強い。

年代別にみると、いずれの年代においても『男性が優遇されている』との考えが強く、60代までは女性の割合が男性の割合を上回っている。

図 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感〔性・年代別〕



平成 15 年に本市で実施した福岡市男女共同参画社会に関する市民意識調査(以下、「平成 15 年調査」と記述)、平成 20 年に本市で実施した市政に関する意識調査のうち、男女共同参画社会に関する質問(以下、「平成 20 年調査」と記述)と比較すると、男女ともに全ての項目において、平成 20 年調査では減少していた『男性が優遇されている』と考える人の割合が増加している。

図 様々な分野における男女の地位の平等感[平成 15 年、20 年調査との比較]

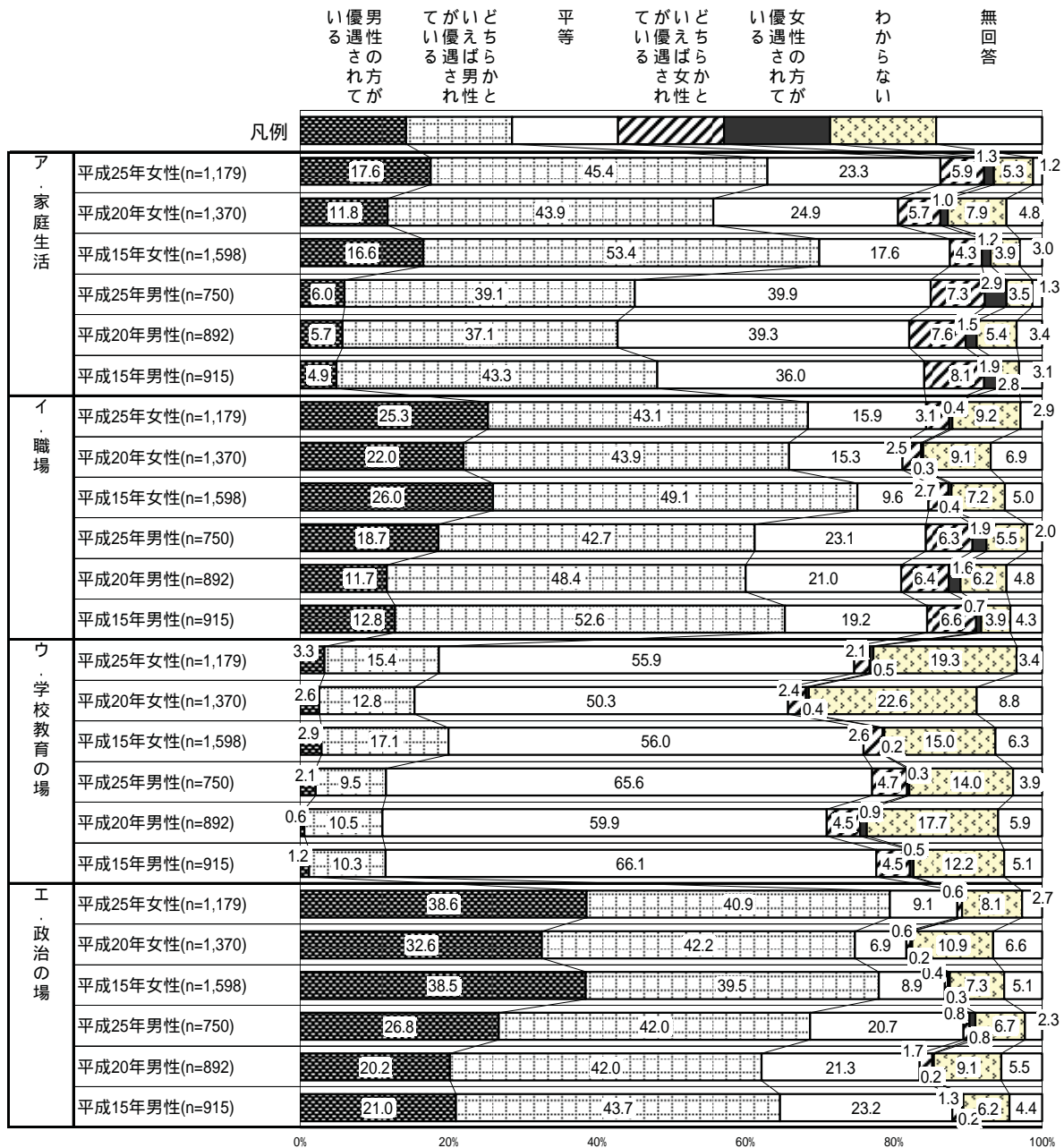
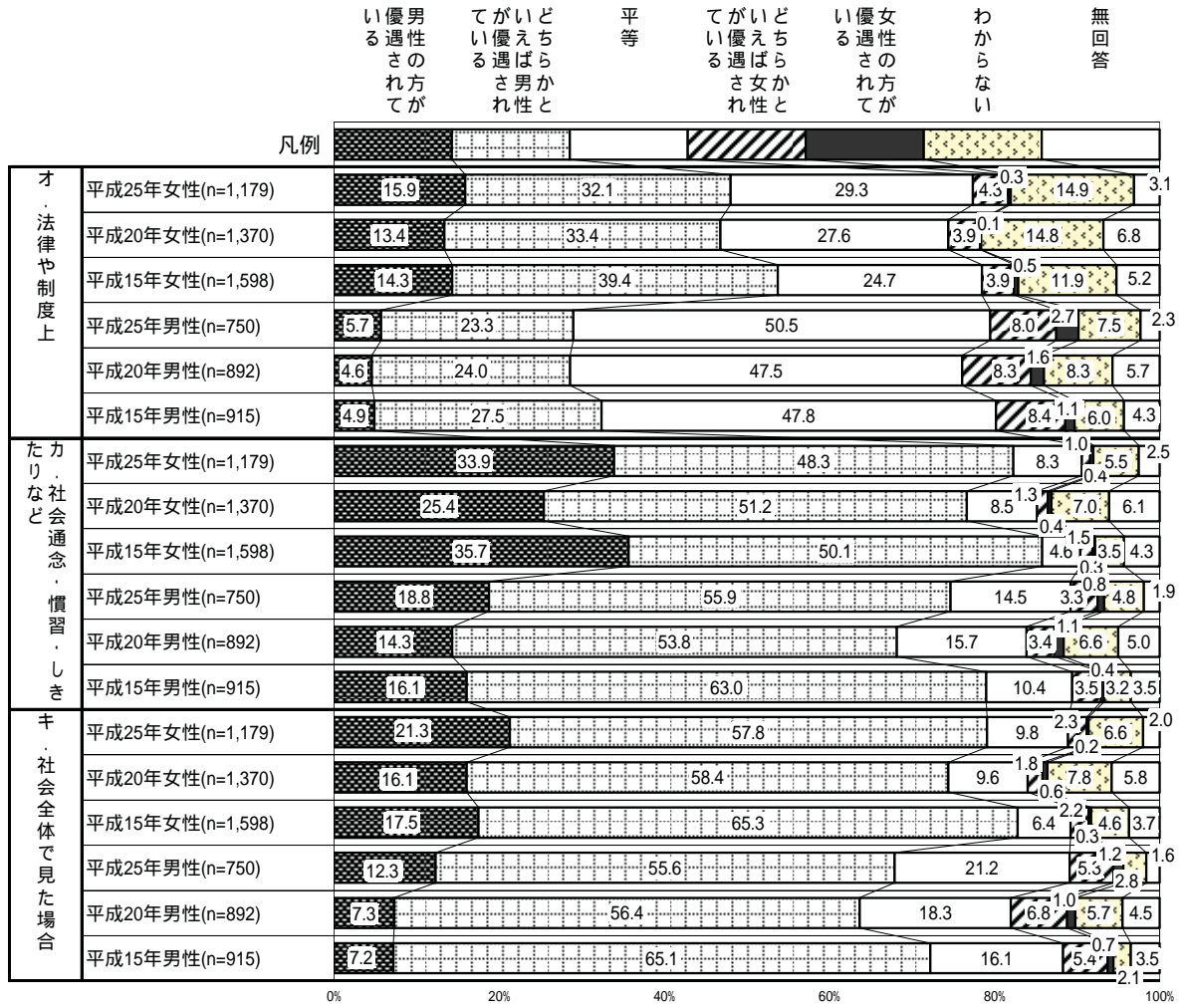


図 様々な分野における男女の地位の平等感[平成 15 年、20 年調査との比較]



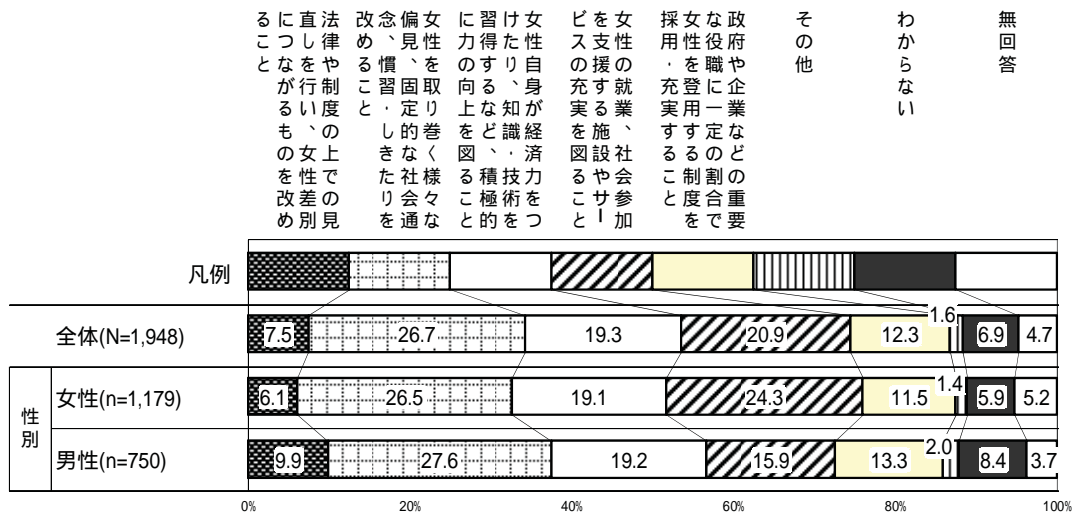
(2) 男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なこと

問2. あなたが、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に をつけてください。

男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なことについてみると、全体では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(26.7%)の割合が最も多く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(20.9%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(19.3%)の順となっている。

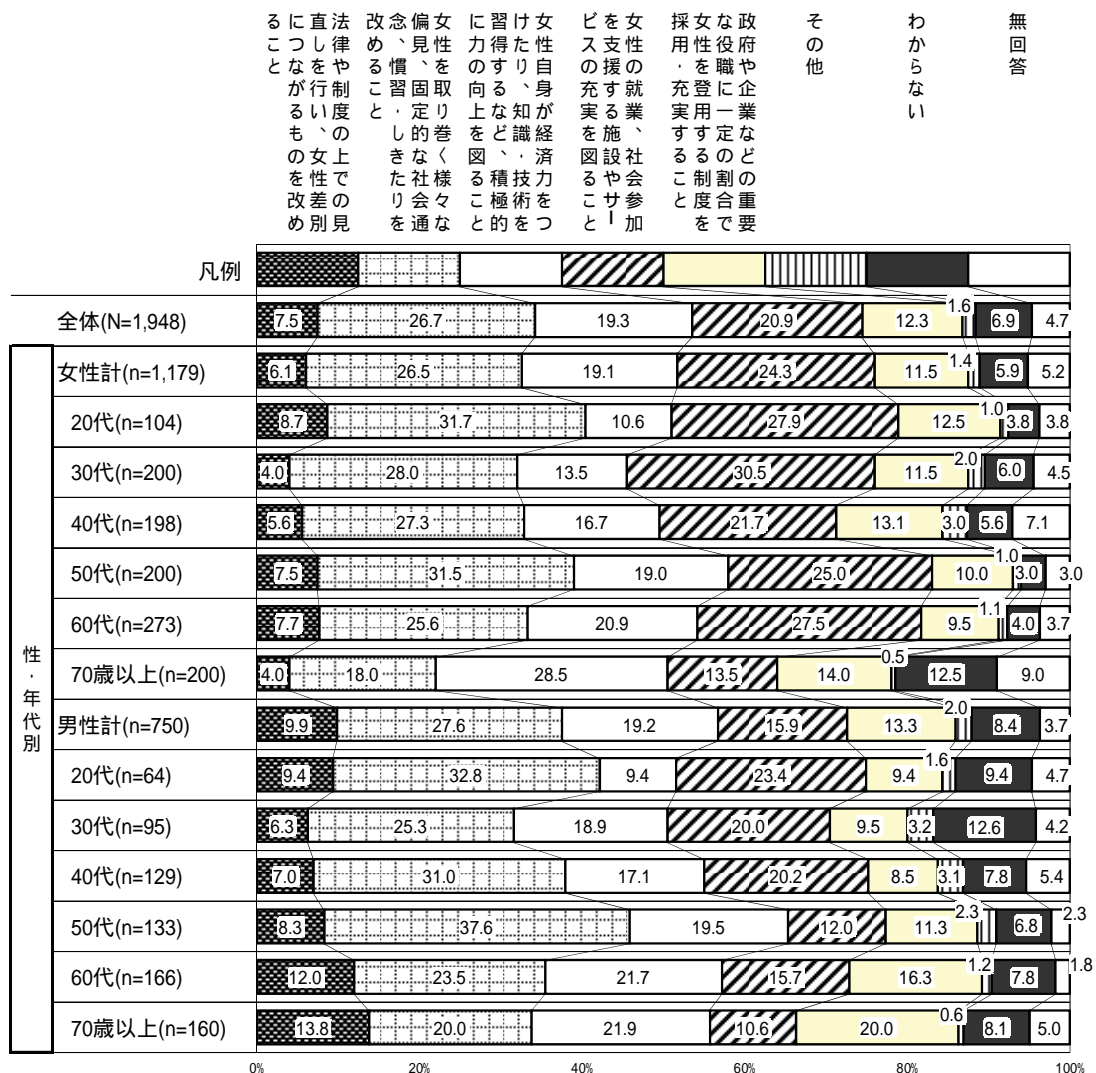
性別にみると、女性は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(26.5%)が最も多く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(24.3%)の順となっている。一方、男性は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(27.6%)が最も多いのは女性と同じであるが、次いで多いのは「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(19.2%)となっており、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(15.9%)の割合は女性よりも約8ポイント下回っている。

図 男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なこと【性別】



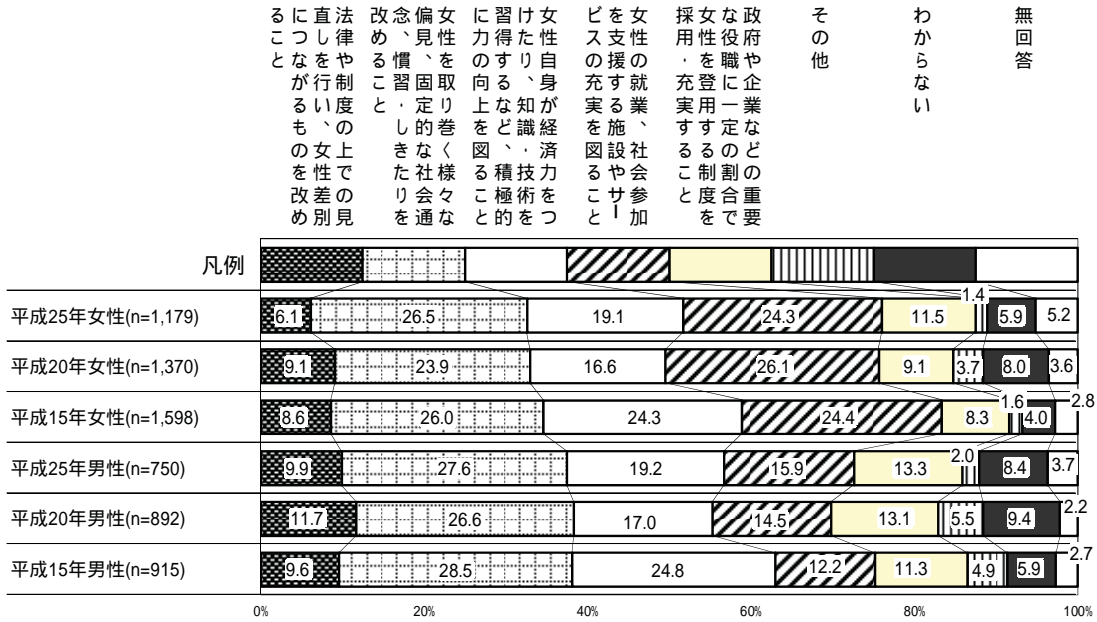
年代別にみると、女性は20代、40代と50代で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く、特に20代、50代で3割を超えて他の年代よりも高くなっている。また、30代は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(30.5%)が3割を占めて他の年代よりも高くなっている。なお、70歳以上は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(28.5%)が最も多く、他の年代よりも高くなっている。男性についても、70歳以上を除いて「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く、特に20代、40代、50代で3割を超えて他の年代よりも高くなっている。また、20代は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(23.4%)が他の年代よりも高くなっている。なお、70歳以上は「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」(20.0%)が他の年代よりも高くなっている。

図 男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なこと【性・年代別】



平成 15 年調査、20 年調査の結果と比較すると、男女いずれも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が、平成 20 年調査の女性を除いて最も多く、次いで多いのは女性が「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」、男性は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の順となる傾向が、平成 15 年調査、20 年調査から続いており、特に大きな変化はみられない。

図 男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なこと[平成 15 年、20 年調査との比較]



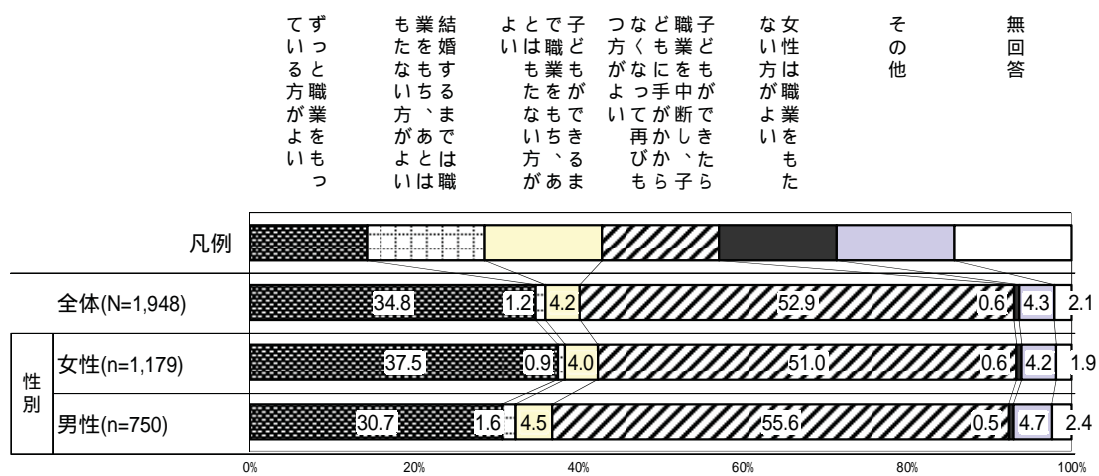
2. 就業と仕事以外の活動について

(1) 「女性が職業をもつ」ことについて

問3. あなたは、「女性が職業をもつ」ことについて、どのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び番号に をつけてください。

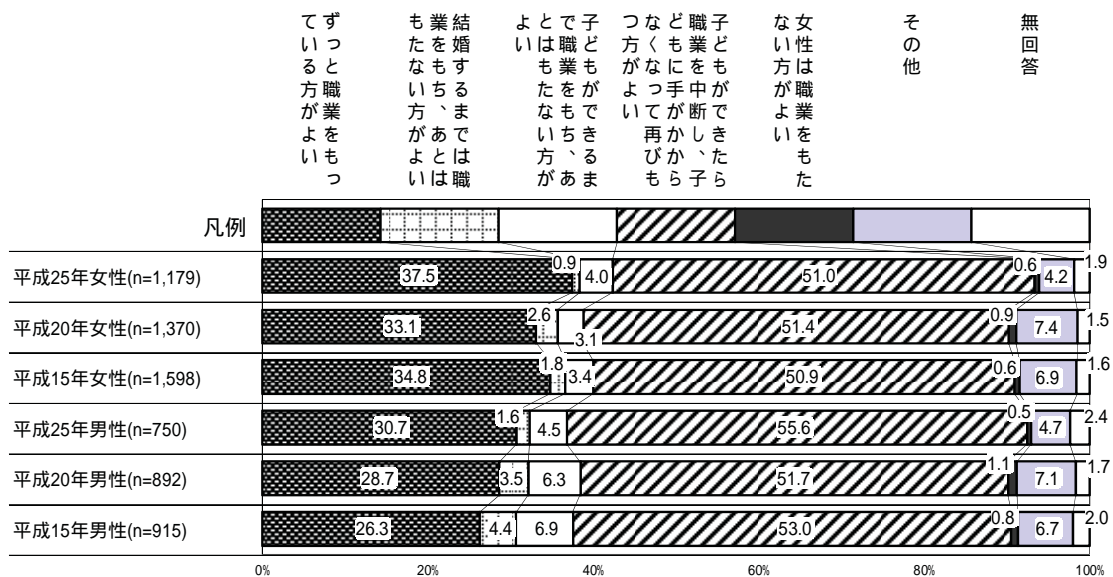
「女性が職業をもつ」ことについて性別にみると、「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が女性51.0%、男性55.6%で、いずれも5割を超えている。また、「ずっと職業をもっている方がよい」が女性37.5%、男性30.7%で、女性の方が高く、男女いずれも3割を超えている。

図 「女性が職業をもつ」ことについて【性別】



平成 15 年調査、20 年調査の結果と比較すると、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が全体の半数を占めている傾向が、平成 15 年、20 年から続いているものの、「ずっと職業をもっている方がよい」が男女いずれも平成 20 年に比べて増加している。

図 「女性が職業をもつ」ことについて【平成 15 年、20 年調査との比較】



(2) 現在の職場における男女差別の内容

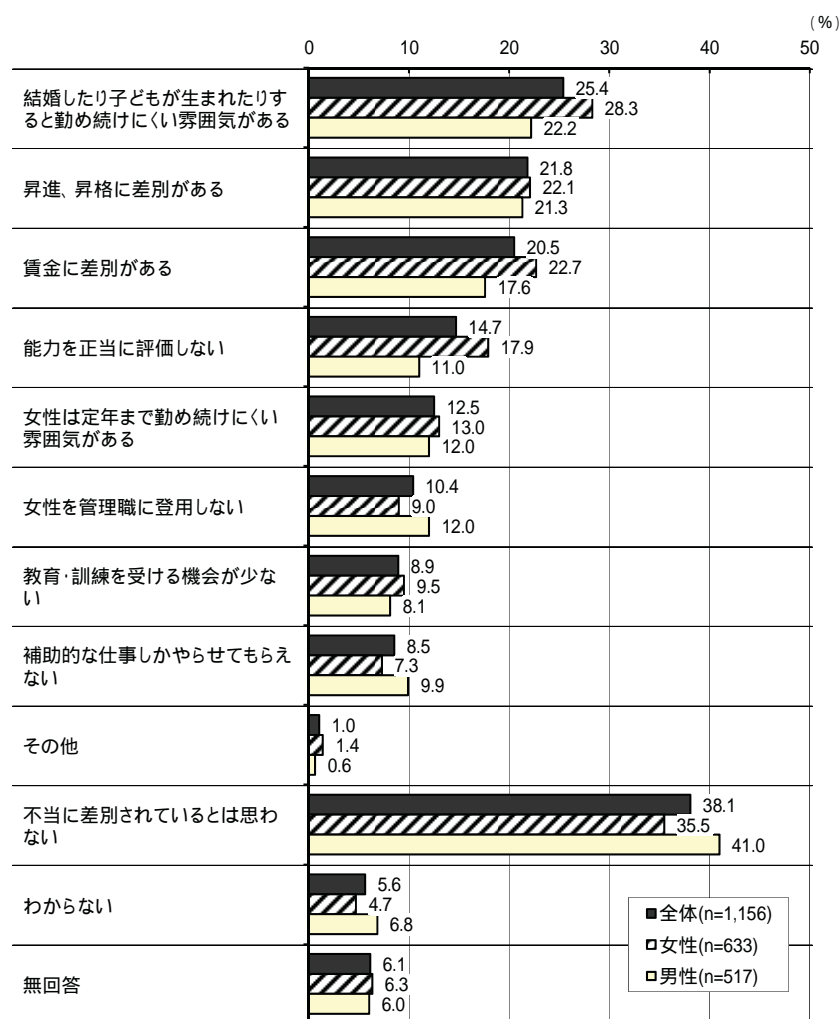
【問4は、現在職業をもっている方におたずねします。】

問4. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思うことがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

現在の職場における男女差別の内容についてみると、「不当に差別されているとは思わない」の割合が男女とも最も多い。なお、差別されている内容については、全体では「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(25.4%)が最も多く、次いで「昇進、昇格に差別がある」(21.8%)、「賃金に差別がある」(20.5%)の順となっている。

差別されている内容について性別にみると、男女いずれも「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が最も多いものの、女性(28.3%)は男性(22.2%)よりも6ポイント上回っており、女性の方が強く思っている傾向がみられる。このほかにも、「賃金に差別がある」、「能力を正に評価しない」なども、女性の方が男性よりも5ポイント以上上回っており、女性の方が男女差別を強く感じている。

図 現在の職場における男女差別の内容【性別】



年代別にみると、女性は30代を除いて「不当に差別されているとは思わない」が最も多くなっている。なお、30代は「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が35.9%で最も多くなっている。一方、男性は50代まで「不当に差別されているとは思わない」が最も多く、60代は「昇進、昇格に差別がある」(35.2%)、70歳以上は「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」および「賃金に差別がある」(いずれも25.0%)が最も多くなっている。

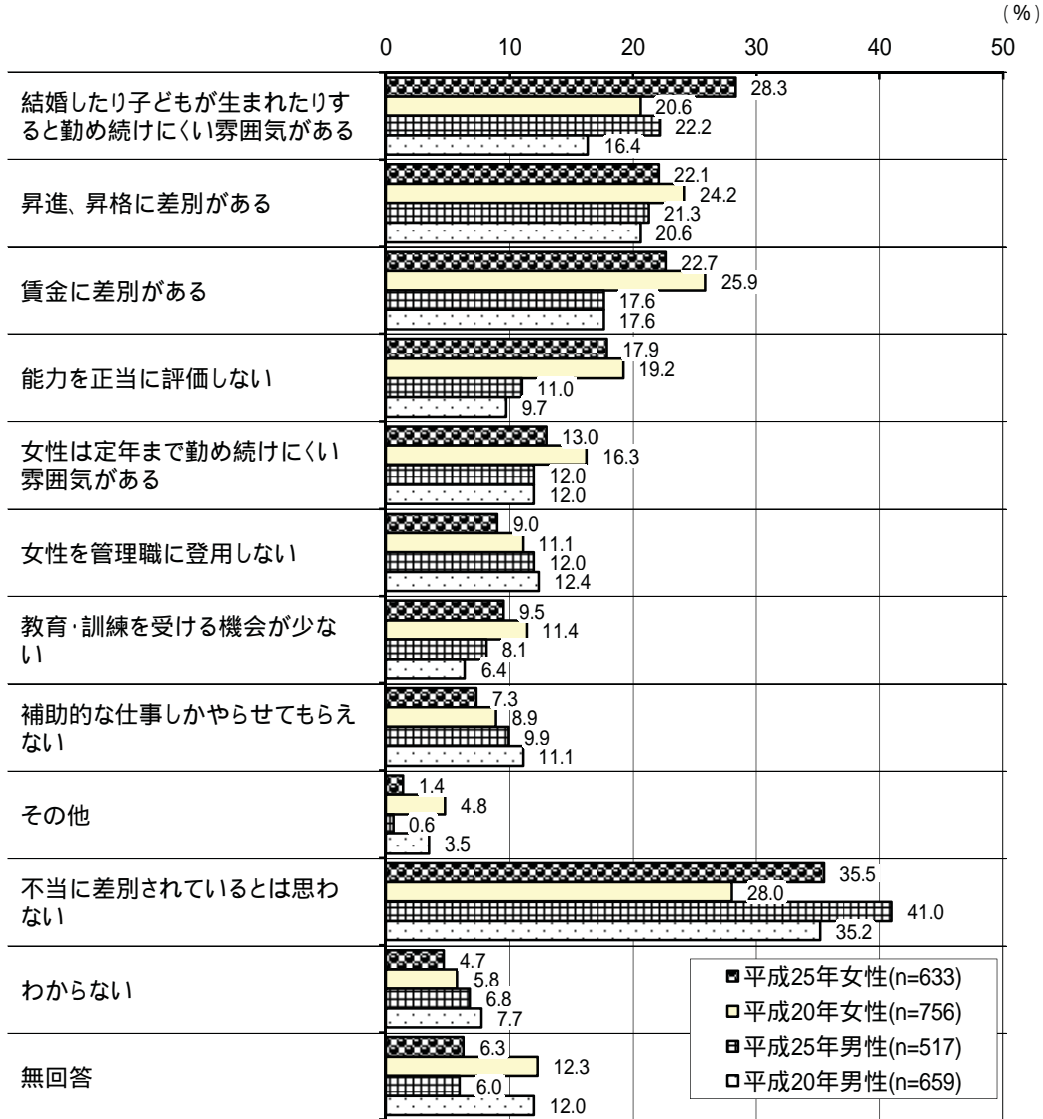
表 現在の職場における男女差別の内容【性・年代別】

単位：%

		サンプル数	雰囲気が続けたり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	昇進、昇格に差別がある	賃金に差別がある	しなやかな力を正当に評価	女性が定年まで働けなくなる	女性が管理職に登用されない	教育・訓練を受けにくい	いやらしい補助的な仕事しかない	その他	不当に差別されているとは思われない	わからない	無回答
全体		1,156	25.4	21.8	20.5	14.7	12.5	10.4	8.9	8.5	1.0	38.1	5.6	6.1	
性・年代別	女性計	633	28.3	22.1	22.7	17.9	13.0	9.0	9.5	7.3	1.4	35.5	4.7	6.3	
	20代	81	37.0	22.2	14.8	11.1	19.8	13.6	6.2	4.9	-	40.7	1.2	2.5	
	30代	142	35.9	17.6	17.6	15.5	15.5	7.7	7.7	4.2	4.9	34.5	4.2	2.1	
	40代	132	32.6	22.0	22.7	14.4	13.6	7.6	10.6	9.1	0.8	36.4	4.5	3.8	
	50代	135	21.5	27.4	31.1	24.4	11.1	10.4	12.6	10.4	0.7	34.1	4.4	6.7	
	60代	113	20.4	23.0	24.8	21.2	8.8	8.0	9.7	7.1	-	32.7	8.0	14.2	
	70歳以上	27	7.4	18.5	25.9	18.5	3.7	7.4	7.4	7.4	-	40.7	7.4	18.5	
	男性計	517	22.2	21.3	17.6	11.0	12.0	12.0	8.1	9.9	0.6	41.0	6.8	6.0	
	20代	43	25.6	16.3	9.3	9.3	18.6	16.3	4.7	7.0	-	58.1	2.3	-	
	30代	90	18.9	12.2	8.9	3.3	13.3	8.9	5.6	6.7	1.1	46.7	10.0	4.4	
	40代	116	23.3	15.5	12.9	11.2	11.2	12.1	6.0	9.5	0.9	46.6	5.2	2.6	
	50代	122	15.6	24.6	18.9	13.1	8.2	10.7	8.2	10.7	-	44.3	5.7	6.6	
60代	108	29.6	35.2	29.6	15.7	13.9	16.7	14.8	13.9	0.9	27.8	7.4	7.4		
70歳以上	36	25.0	16.7	25.0	11.1	11.1	2.8	5.6	5.6	-	19.4	8.3	22.2		

平成 20 年調査の結果と比較すると、男女いずれも「不当に差別されているとは思わない」の割合が平成 20 年より増加している一方、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が、男女いずれも平成 20 年よりも増加している。

図 現在の職場における男女差別の内容 [平成 20 年調査との比較]

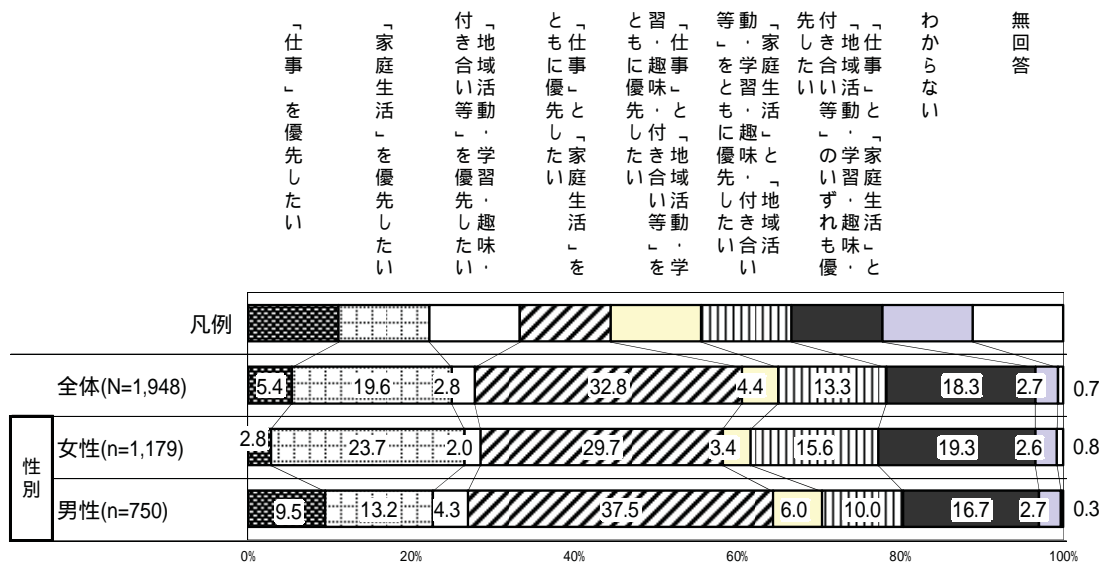


(3) - 1 希望する生活の中での優先度

問5. 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・学習・趣味・付き合い等」の優先度についてお聞きします。
 (1)まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけ選び、番号に をつけてください。

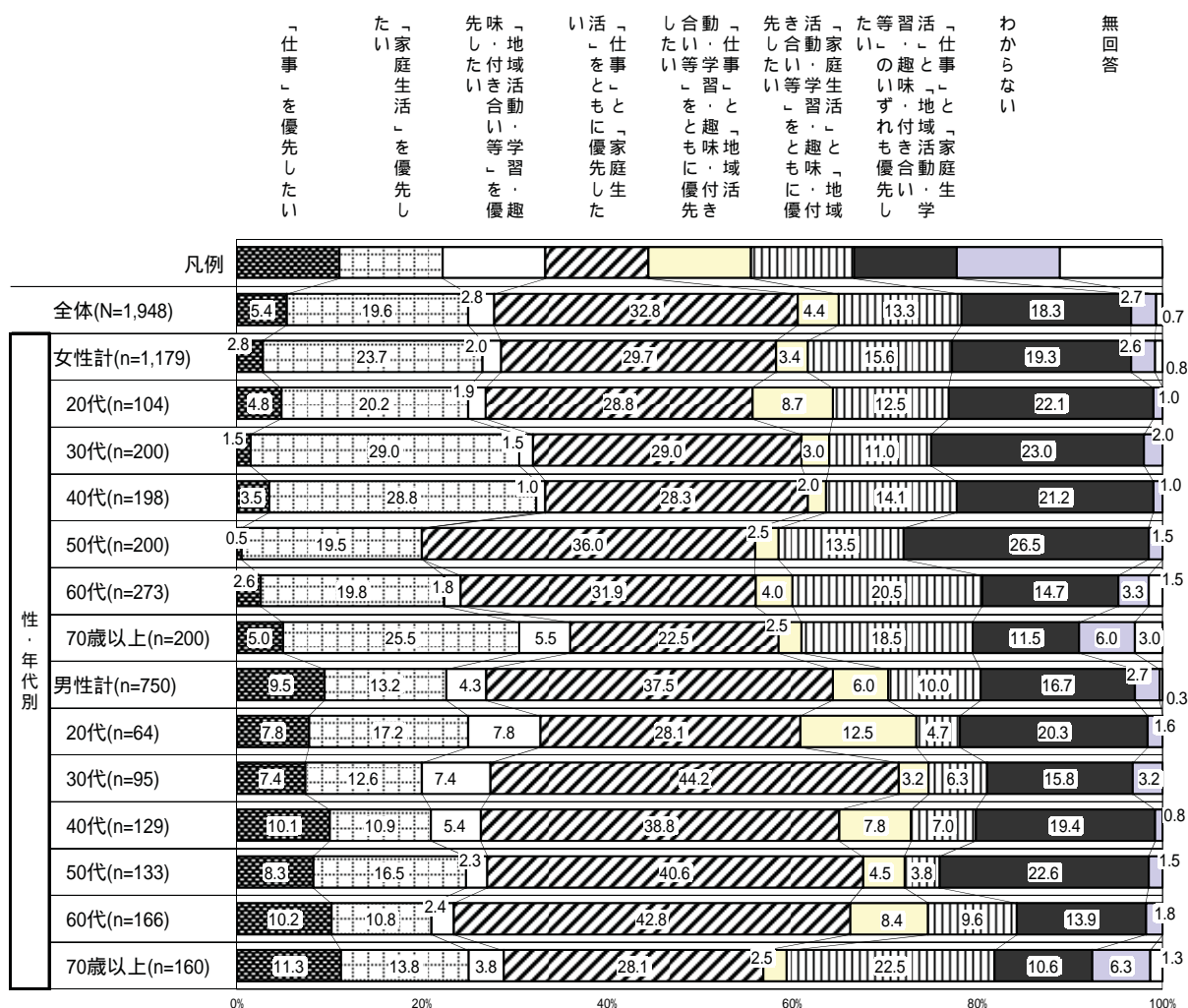
生活の中での優先度について、希望に最も近いものをみると、女性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(29.7%)の割合が最も多く、次いで「家庭生活」を優先したい(23.7%)の順となっている。男性も「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(37.5%)の割合が最も多いものの、女性よりも約8ポイント上回っており、女性よりも「仕事」と「家庭生活」の両立を希望する傾向が強い。

図 希望する生活の中での優先度(希望に最も近いもの)【性別】



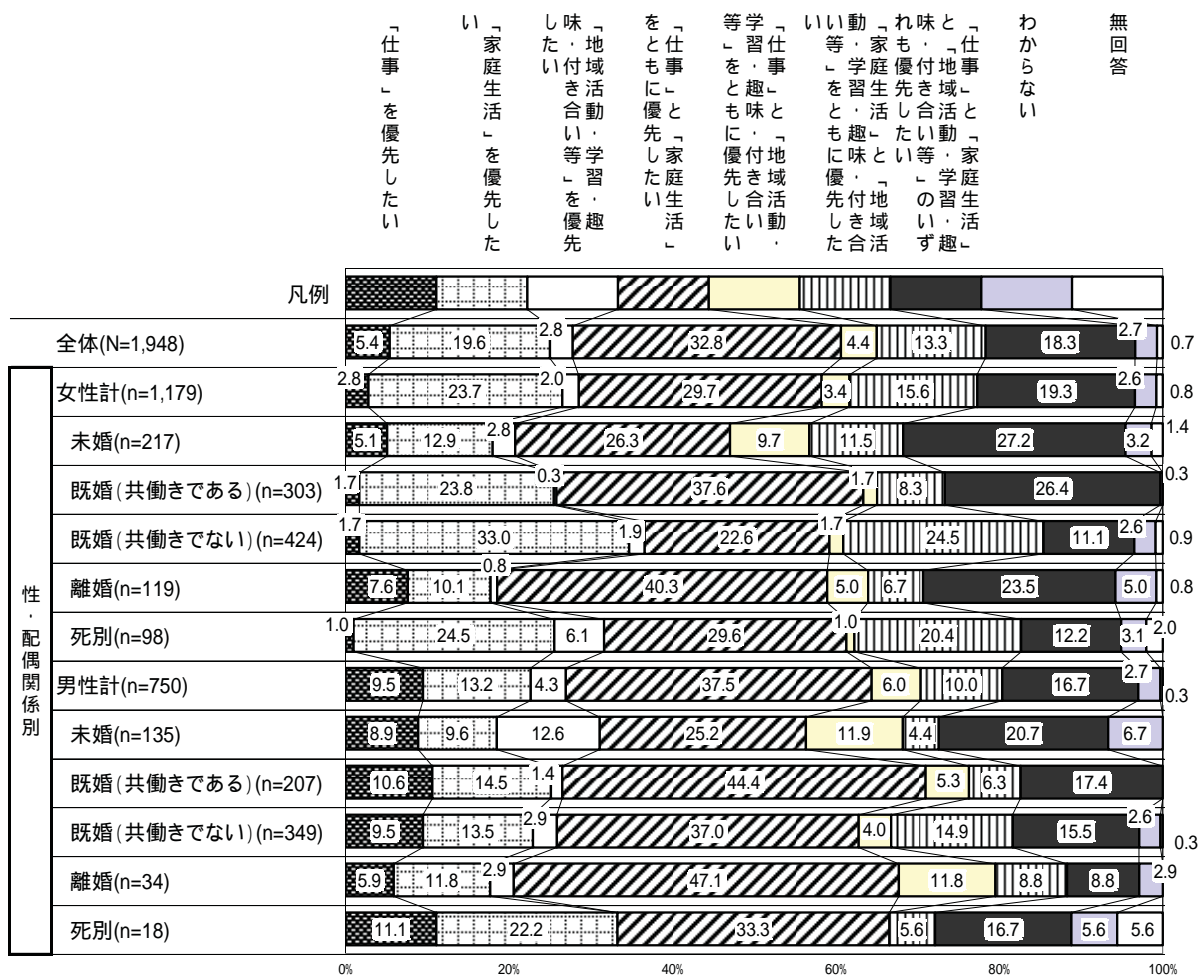
年代別にみると、女性は30代で「家庭生活」を優先したい」と「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が約3割を占めて最も多く、50代、60代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が3割以上を占めて最も多くなっており、年代によって傾向が異なる。一方、男性はいずれの年代も「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も多く、特に30代から60代までは4割前後を占めており、女性よりも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と強く考えている傾向がみられる。なお、男性70歳以上は「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先したい」が22.5%と、他の年代に比べて高くなっている。

図 希望する生活の中での優先度(希望に最も近いもの)【性・年代別】



配偶関係別にみると、女性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も多くなっているのは離婚者(40.3%)、次いで共働き既婚者(37.6%)の順となっており、共働きでない既婚者は「家庭生活」を優先したい」(33.0%)が3割を超えて最も多くなっている。一方、男性はいずれも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も多く、既婚者においても、配偶者が働いているか否かにかかわらず、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も多くなっている。このほか、女性の未婚者、共働き既婚者、離婚者は「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」のいずれも優先したい」が2割を超えて、男性の未婚者、共働き既婚者、離婚者よりも割合が上回っている。

図 希望する生活の中での優先度(希望に最も近いもの)【性・配偶関係別】

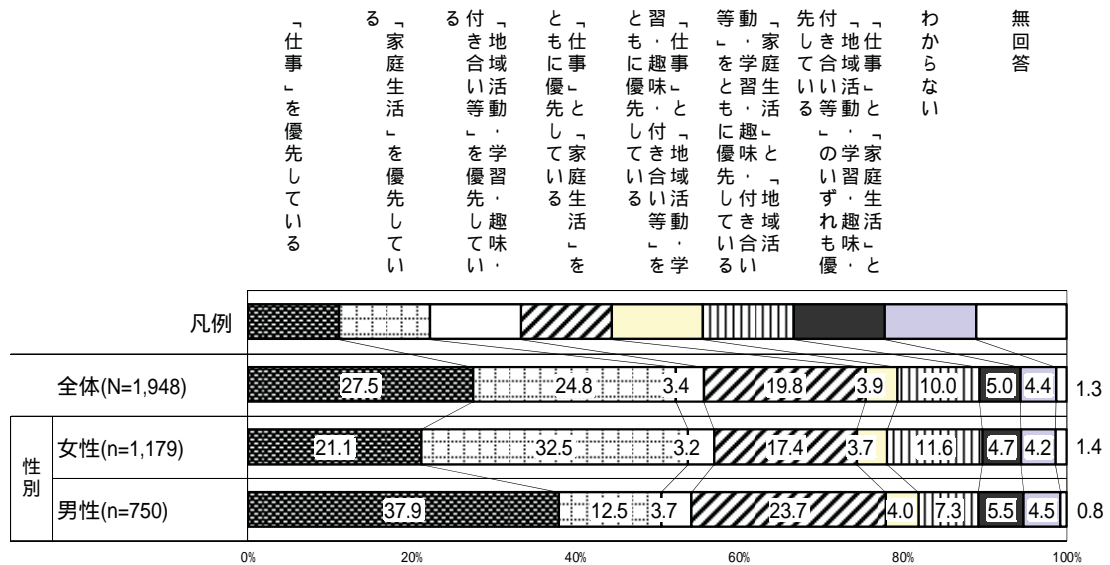


(3) - 2 実際の生活の中での優先度

問5 . 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・学習・趣味・付き合い等」の優先度についてお聞きします。
 (2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものをこの中から1つだけ選び、番号に をつけてください。

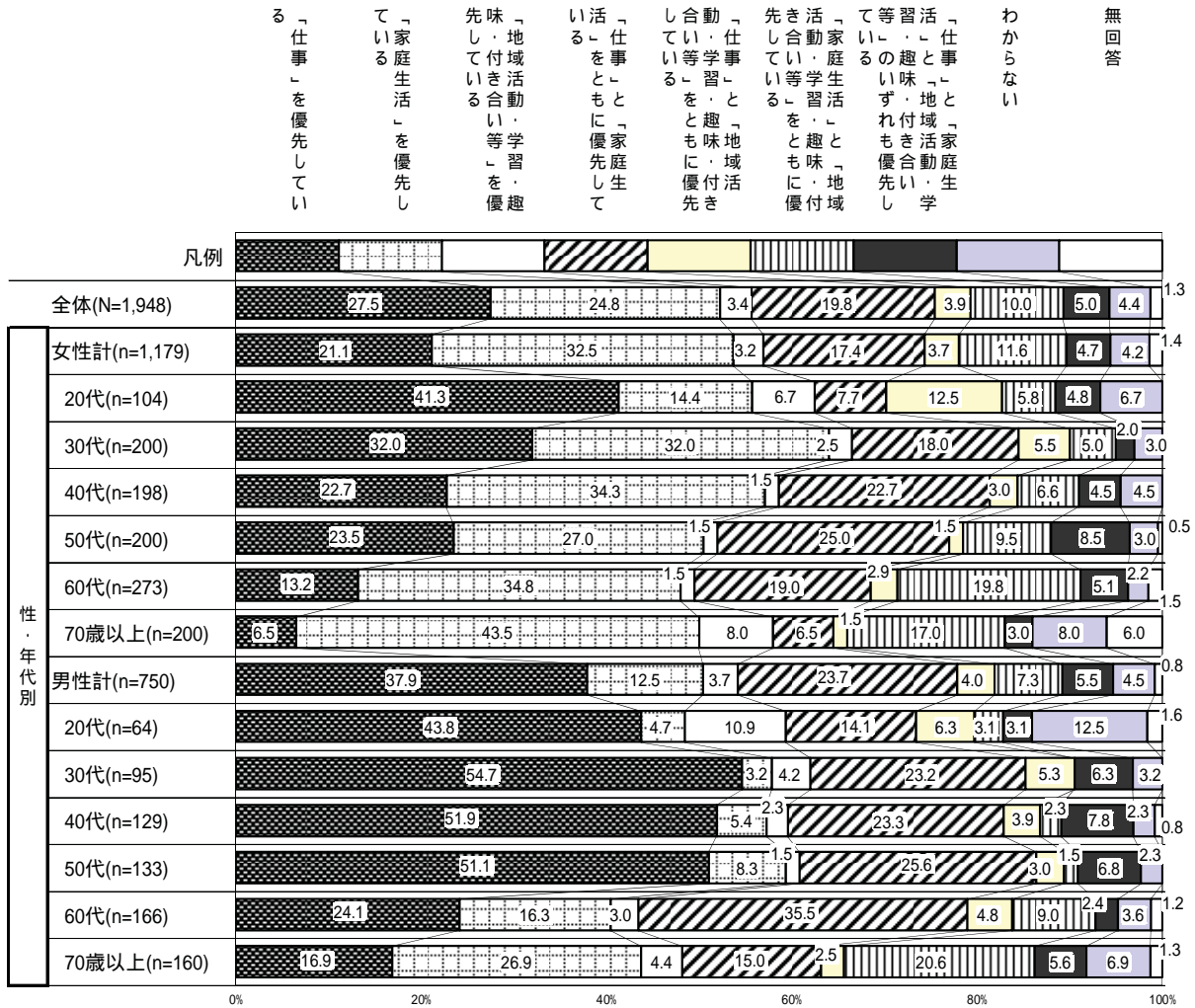
生活の中での優先度について、現実(現状)に最も近いものをみると、女性は「家庭生活」を優先している(32.5%)の割合が最も多く、次いで「仕事」を優先している(21.1%)の順となっている。一方、男性は「仕事」を優先している(37.9%)の割合が最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」ともに優先している(23.7%)の順となっている。

図 実際の生活の中での優先度(現実に最も近いもの)【性別】



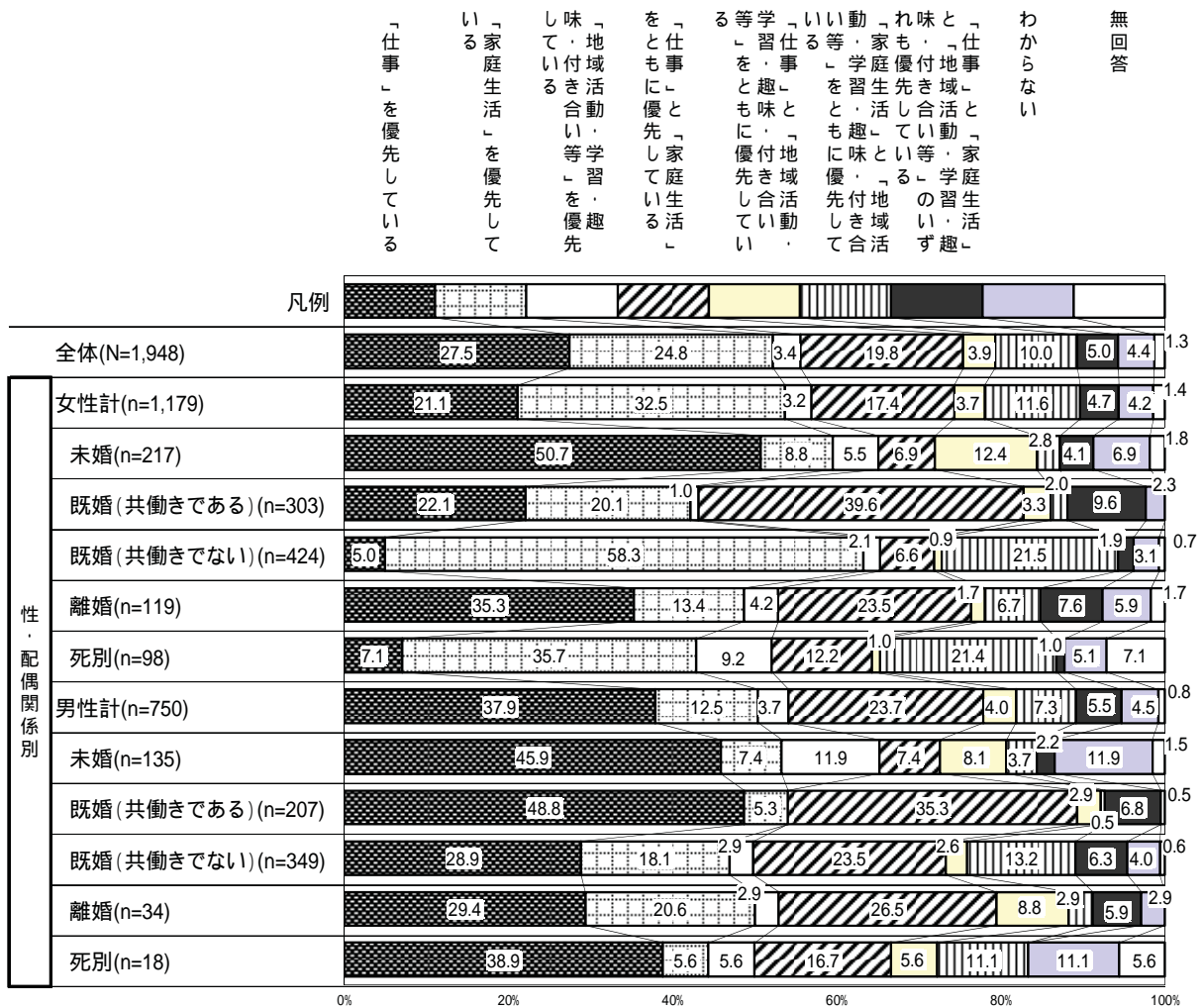
年代別にみると、女性は 20 代で「仕事」を優先している(41.3%)の割合が最も多く、30 代で「仕事」を優先している」と「家庭生活」を優先している(いずれも 32.0%)が同程度、40 代以上は「家庭生活」を優先しているが最も多くなっている。一方、男性は 50 代まで「仕事」を優先しているの割合が最も多く、30～50 代は 5 割を超える。60 代は「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(35.5%)が最も多く、70 歳以上は「家庭生活」を優先している(26.9%)が最も多くなっている。

図 実際の生活の中での優先度(現実に最も近いもの)【性・年代別】



配偶関係別にみると、女性では、「仕事」を優先しているの割合が最も多いのは未婚者(50.7%)、次いで離婚者(35.3%)で、共働き既婚者は「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(39.6%)が最も多く、共働きでない既婚者は「家庭生活」を優先している(58.3%)が最も多くなっている。女性の未婚者、離婚者は、実際の生活の中では仕事優先で、仕事以外の活動を優先する割合は低くなっている。一方、男性はいずれも「仕事」を優先しているの割合が最も多く、希望する生活の中での優先度との乖離がみられる。特に、共働きでない既婚者は「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているが23.5%と、希望よりも14ポイント下回っているほか、共働き既婚者も「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているが35.3%と、希望よりも約9ポイント下回っている。

図 実際の生活の中での優先度(現実に最も近いもの)【性・配偶関係別】



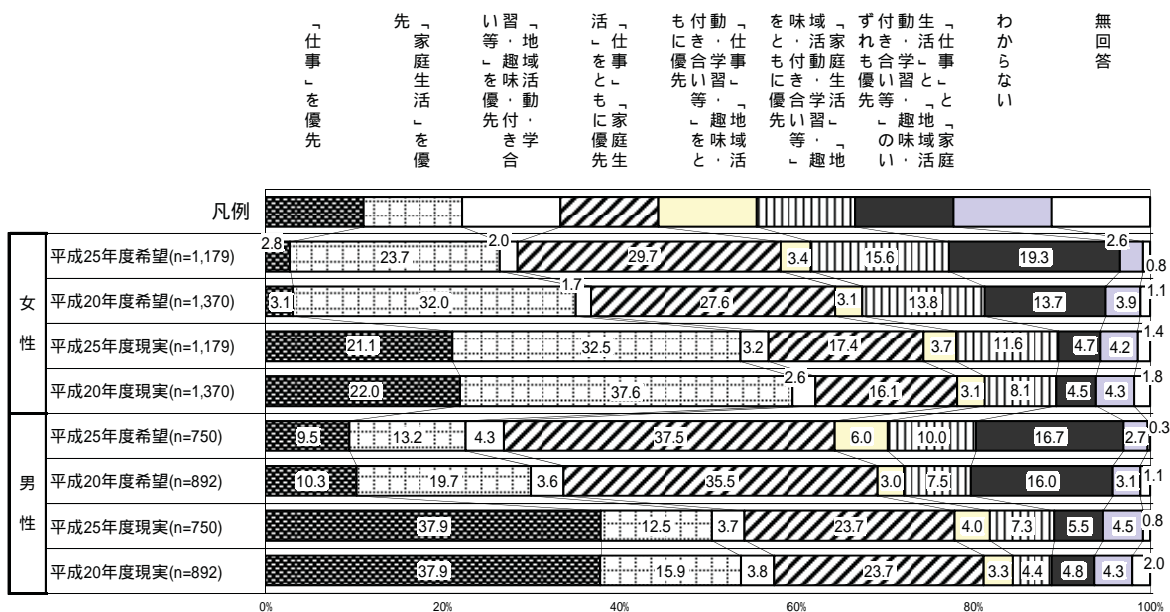
生活の中での優先度について、希望と現実(現状)を比較すると、男女ともに希望に反して仕事を優先せざるを得ない現状がうかがえる。

性別にみると、女性は「仕事」を優先、「家庭生活」を優先で、希望よりも現実の割合が上回っている一方、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は、希望よりも現実の割合が下回っている。

男性は「仕事」を優先で、希望よりも現実の割合が上回っている一方、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は、希望よりも現実の割合が下回っているほか、「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」のいずれも優先も、希望よりも現実の割合が下回っている。

平成20年調査の結果と比較すると、男女ともに希望に反して仕事を優先せざるを得ない現状は平成20年調査の結果から変わっていない。なお、女性は「家庭生活」を優先の希望が平成20年よりも減少している一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」のいずれも優先を希望する割合が平成20年から増加している。

図 実際の生活の中での優先度[平成20年調査との比較]



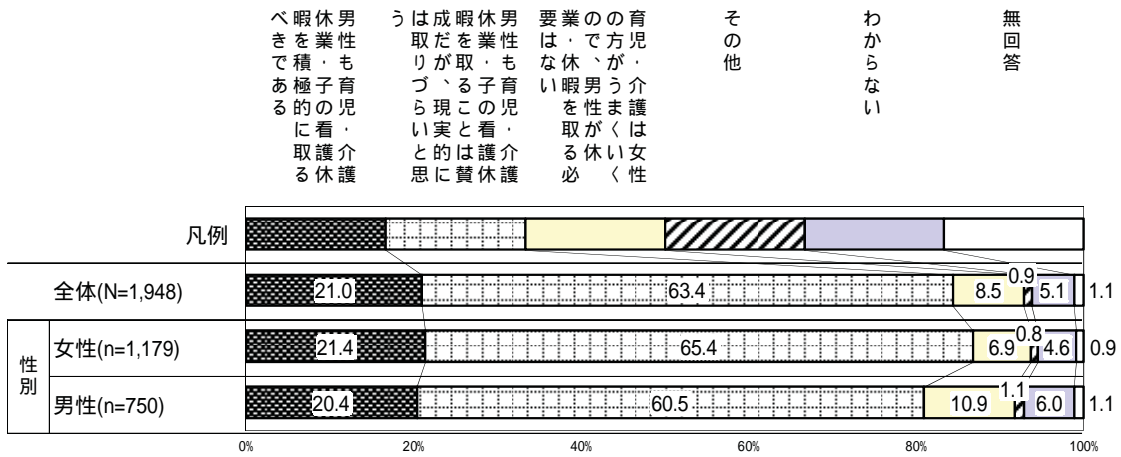
注:分析の性格上、設問文を省略して記載している。

(4) 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて

問6. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に をつけてください。

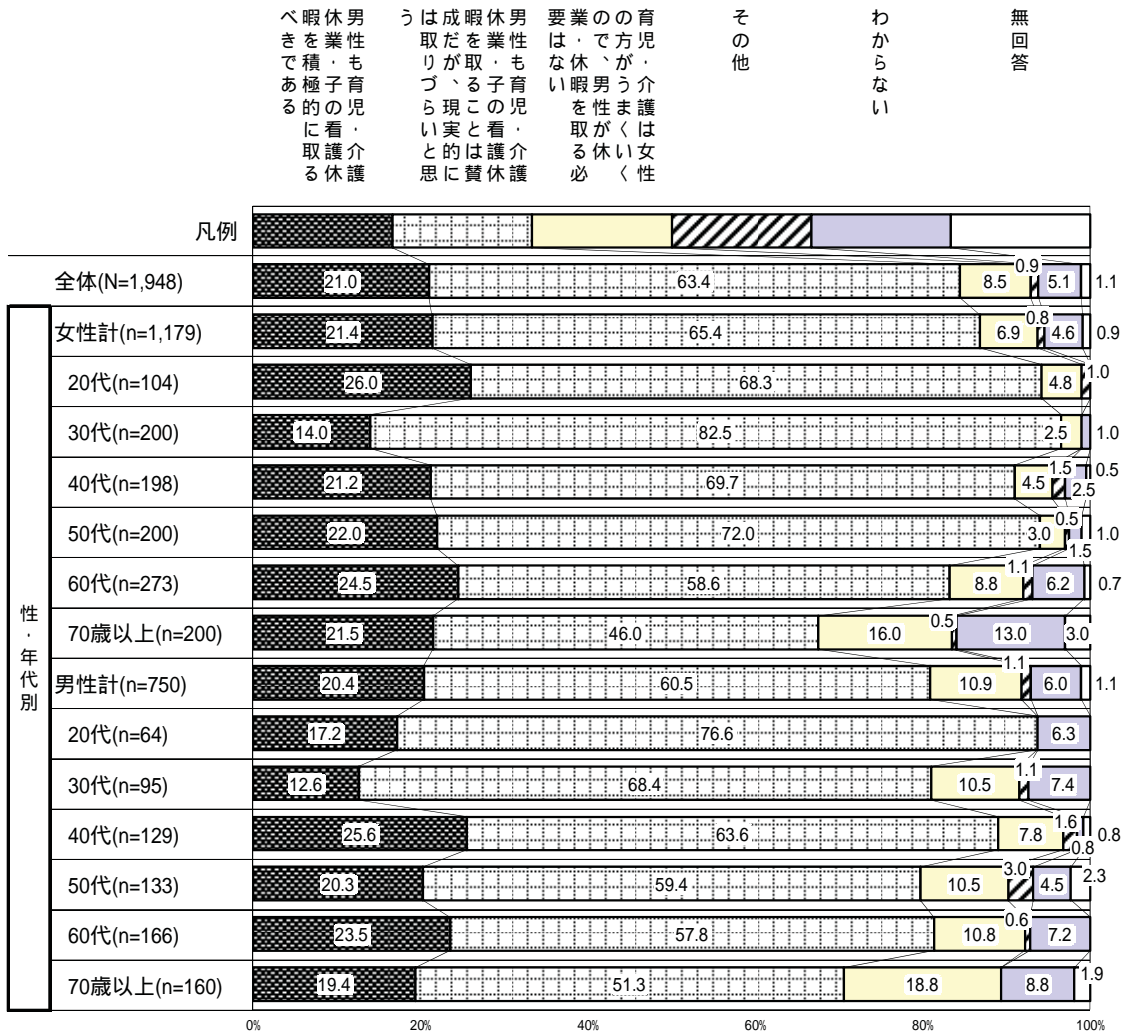
男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて性別にみると、男女ともに「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(女性 65.4%、男性 60.5%)の割合が最も多くなっているが、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」も全体で 21.0%を占めている。

図 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて【性別】



年代別にみると、男女ともに、いずれの年代も「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の割合が最も多くなっている。なお、男女ともに70歳以上は「育児・介護は女性の方がうまくいくので、男性が休業・休暇を取る必要はない」の割合が1割以上みられ、他の年代よりも高くなっている。

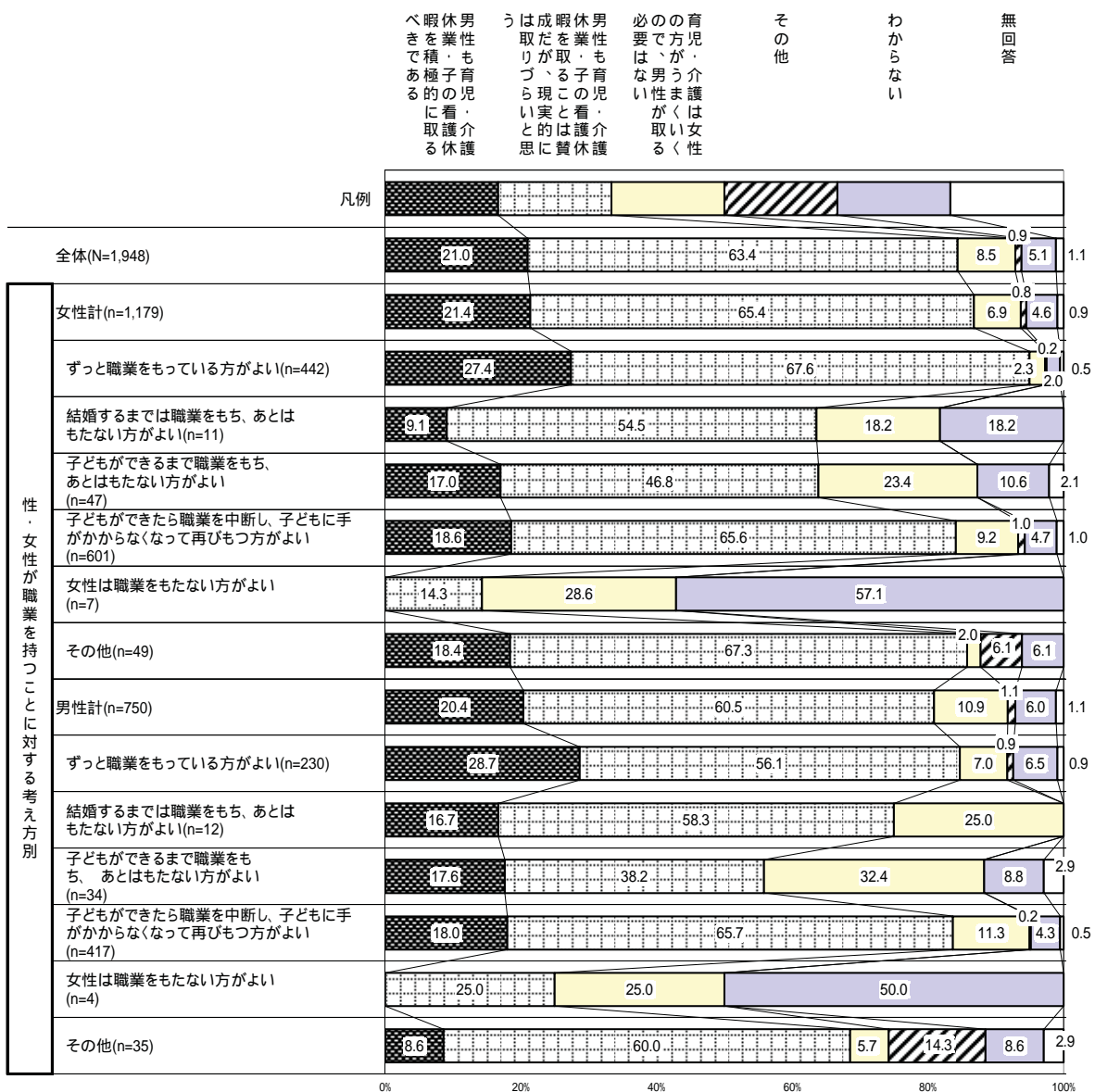
図 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて【性・年代別】



女性が職業をもつことに対する考え方別にみると、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」という考えの割合が最も多いのは、男女ともに「ずっと職業をもっている方がよい」と考えるグループである(女性 27.4%、男性 28.7%)。

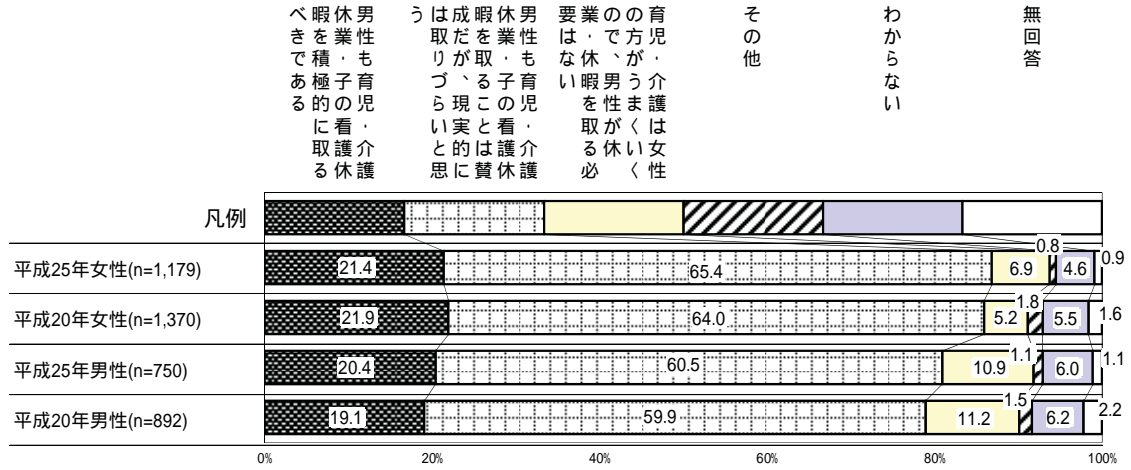
一方、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取ることは賛成だが、現実的には取りづらと思う」と考える人の割合をみると、女性は「ずっと職業をもっている方がよい」(67.6%)と考えるグループが最も多く、次いで「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなってから再びもつ方がよい」(65.6%)の順となっている。一方、男性は「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなってから再びもつ方がよい」(65.7%)と考えるグループが最も多くなっている。

図 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて【性・女性が職業をもつことに対する考え方別】



平成 20 年調査の結果と比較すると、男女ともに「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が全体の半数以上を占めている傾向は変わっておらず、特に大きな変化はみられない。

図 男女があらゆる分野で平等になるために最も必要なこと【平成 20 年調査との比較】



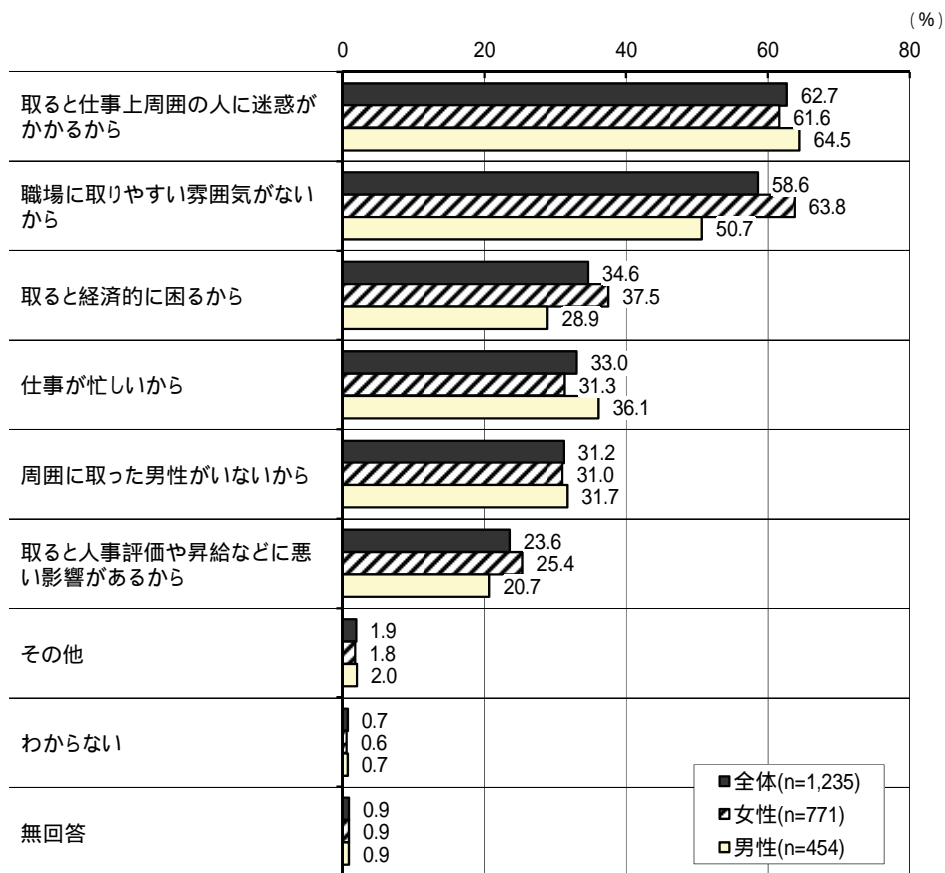
(5) 現実的には取りづらいと思う理由

問6-1.(問6で「2 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した方へ)
 その理由は何だと思えますか。あてはまるものを3つまで選び、番号に をつけてください。

「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」理由についてみると、全体では「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」(62.7%)の割合が最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」(58.6%)の順となっており、これら2項目は過半数を超えている。

性別にみると、女性は「職場に取りやすい雰囲気がないから」(63.8%)の割合が最も多く、男性に比べて約13ポイント上回っている。次いで「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」(61.6%)の順となっている。一方、男性は「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」(64.5%)の割合が最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」(50.7%)の順となっている。なお、女性は「取ると経済的に困るから」(37.5%)の割合が男性に比べて約9ポイント上回っているほか、「取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから」(25.4%)も男性に比べて約5ポイント上回っている。

図 現実的には取りづらいと思う理由【性別】



年代別にみると、女性は20～40代で「職場に取りやすい雰囲気がないから」の割合が最も多く、50代以上は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」の方が多くなっている。一方男性は、いずれの年代も「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」の割合が最も多くなっている。なお、女性の20代、30代、および男性の30～50代は、「周囲に取った男性がいないから」が4割前後みられ、他の年代よりも高くなっている。

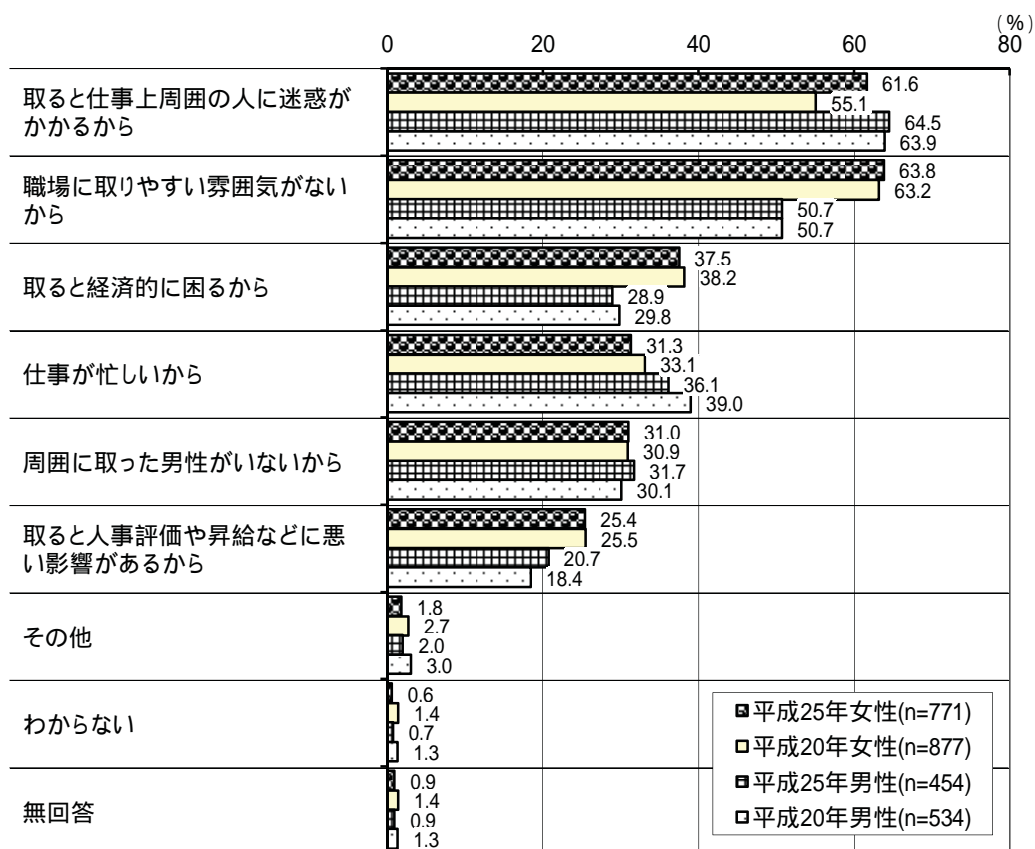
表 現実的には取りづらいと思う理由〔性・年代別〕

単位：%

		サンプル数	取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	職場に取りやすいから	取ると経済的に困るから	仕事が忙しいから	周囲に取った男性がいないから	昇給など人に悪い影響があるから	その他	わからない	無回答
全体		1,235	62.7	58.6	34.6	33.0	31.2	23.6	1.9	0.7	0.9
性・年代別	女性計	771	61.6	63.8	37.5	31.3	31.0	25.4	1.8	0.6	0.9
	20代	71	49.3	63.4	39.4	31.0	49.3	23.9	5.6	-	-
	30代	165	53.3	73.9	38.8	29.7	43.0	26.7	3.6	-	0.6
	40代	138	55.8	63.0	40.6	36.2	31.9	31.2	0.7	-	0.7
	50代	144	69.4	64.6	39.6	34.0	25.0	22.2	0.7	-	-
	60代	160	73.8	63.1	36.9	26.9	18.8	28.8	0.6	0.6	-
	70歳以上	92	60.9	46.7	27.2	29.3	25.0	15.2	1.1	4.3	5.4
	男性計	454	64.5	50.7	28.9	36.1	31.7	20.7	2.0	0.7	0.9
	20代	49	55.1	46.9	30.6	30.6	26.5	32.7	-	2.0	2.0
	30代	65	61.5	47.7	32.3	32.3	44.6	21.5	6.2	-	-
	40代	82	67.1	43.9	30.5	53.7	39.0	17.1	2.4	-	-
50代	79	68.4	55.7	29.1	35.4	38.0	15.2	-	-	-	
60代	96	67.7	59.4	26.0	31.3	26.0	29.2	2.1	-	1.0	
70歳以上	82	62.2	46.3	26.8	31.7	17.1	12.2	1.2	2.4	2.4	

平成 20 年調査の結果と比較すると、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」、「職場に取りやすい雰囲気がないから」の 2 項目が他の項目に比べて抜きん出ている傾向は変わっていないものの、女性は、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」の割合が平成 20 年から約 7 ポイント増加している。

図 現実的には取りづらいと思う理由【平成 20 年調査との比較】

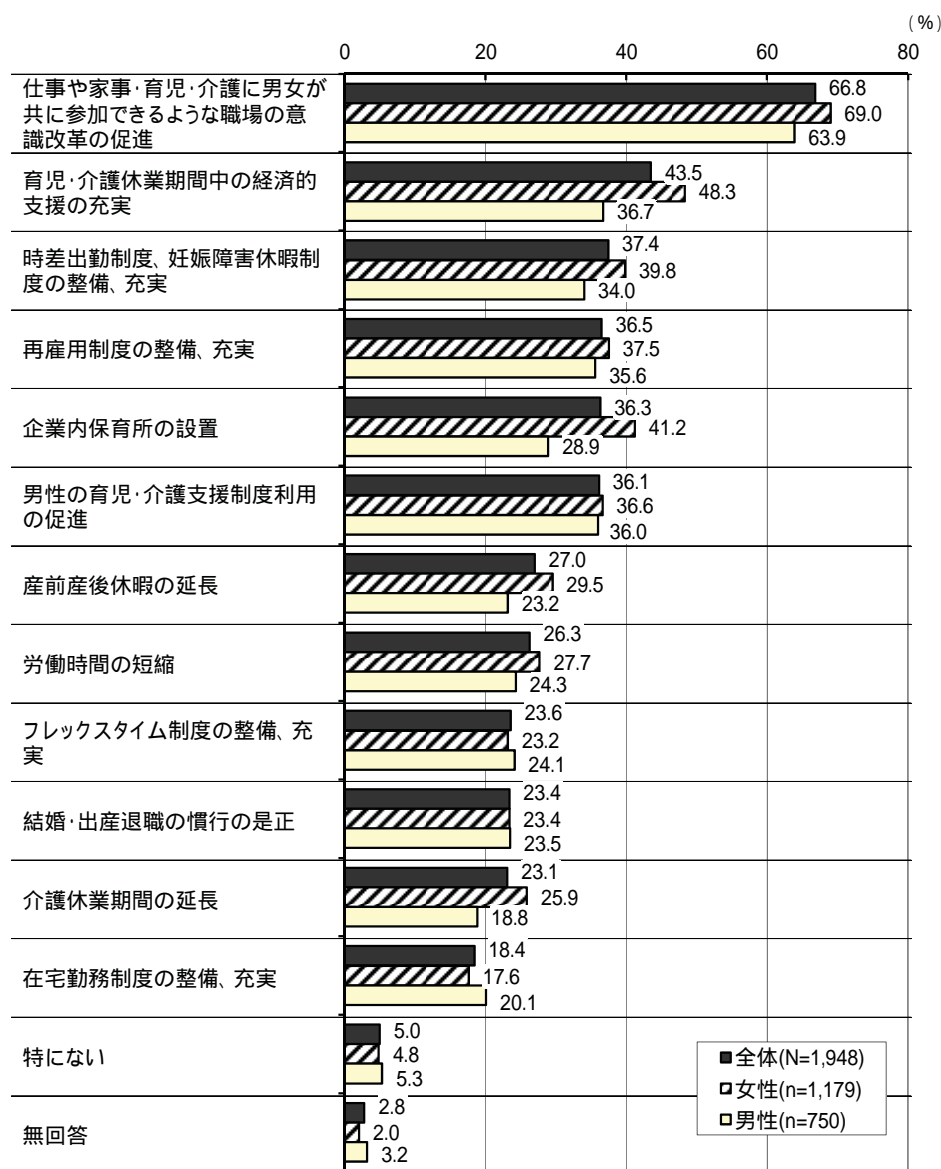


(6) 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと

問7. 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して何を希望しますか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むことについて性別にみると、男女ともに「仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進」(女性 69.0%、男性 63.9%)の割合が最も多く、他の項目に比べて抜きん出ている。なお、女性は「育児・介護休業期間中の経済的支援の充実」(48.3%)が男性に比べて約12ポイント上回っているほか、「企業内保育所の設置」(41.2%)も男性に比べて約12ポイント上回っている。

図 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと【性別】



配偶関係別にみると、男女いずれも「仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進」の割合が最も多くなっている。なお、女性の共働き既婚者、離婚者は「育児・介護休業期間中の経済的支援の充実」の割合が5割を超えて全体よりも高くなっている。また、女性の未婚、共働き既婚者は「時差出勤制度、妊娠障害休暇制度の整備、充実」が4割を超えているほか、女性の既婚者は共働きの有無にかかわらず「企業内保育所の設置」が4割を超えて全体よりも高くなっている。

表 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと

【性・配偶関係別】

単位：%

	サンプル数	改革の促進	仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識	育児・介護休業期間中の経済的支援の充実	時差出勤制度、妊娠障害休暇制度の整備、充実	再雇用制度の整備、充実	企業内保育所の設置	男性の育児・介護支援	産前産後休暇の延長	労働時間の短縮	フレックスタイム制度の整備、充実	結婚・出産退職の慣行の是正	介護休業期間の延長	在宅勤務制度の整備、充実	特になし	無回答
全体	1,948	66.8	43.5	37.4	36.5	36.3	36.1	27.0	26.3	23.6	23.4	23.1	18.4	5.0	2.8	
性・配偶関係別	女性計	1,179	69.0	48.3	39.8	37.5	41.2	36.6	29.5	27.7	23.2	23.4	25.9	17.6	4.8	2.0
	未婚	217	65.0	49.3	45.6	41.0	38.2	41.0	29.5	32.7	27.2	25.3	24.9	16.6	2.8	0.9
	既婚（共働きである）	303	68.3	52.1	45.5	34.0	43.9	38.0	27.7	27.4	29.0	21.1	24.8	19.8	3.0	0.3
	既婚（共働きでない）	424	72.9	44.8	38.9	40.3	44.6	35.4	33.7	28.8	21.7	26.9	25.2	16.0	5.2	1.9
	離婚	119	73.9	52.1	31.1	37.8	37.0	34.5	21.8	23.5	21.0	22.7	30.3	20.2	6.7	2.5
	死別	98	61.2	44.9	25.5	25.5	32.7	33.7	26.5	19.4	8.2	14.3	28.6	14.3	10.2	7.1
	男性計	750	63.9	36.7	34.0	35.6	28.9	36.0	23.2	24.3	24.1	23.5	18.8	20.1	5.3	3.2
	未婚	135	59.3	34.8	31.1	36.3	26.7	38.5	28.1	28.9	23.7	23.0	20.7	21.5	7.4	3.0
	既婚（共働きである）	207	69.1	37.2	40.1	33.3	26.1	44.0	21.7	26.6	28.0	23.2	21.3	22.2	3.9	1.0
	既婚（共働きでない）	349	64.8	36.7	33.2	35.5	30.7	32.4	22.3	22.6	23.8	23.2	17.2	18.6	5.4	3.7
離婚	34	55.9	47.1	26.5	47.1	32.4	26.5	17.6	17.6	14.7	26.5	14.7	20.6	2.9	5.9	
死別	18	50.0	33.3	22.2	38.9	50.0	27.8	33.3	11.1	11.1	33.3	16.7	22.2	5.6	11.1	

女性が職業をもつことに対する考え方別にみると、男女ともいずれの項目においても「仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進」の割合が最も多くなっており、女性の「ずっと職業をもっている方がよい」と考えるグループは73.3%と、特に割合が高くなっている。なお、女性の「ずっと職業をもっている方がよい」と考えるグループは「企業内保育所の設置」が44.1%と、他に比べて割合が高くなっている一方、女性の「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」と考えるグループは「育児・介護休業期間中の経済的支援の充実」が5割に達している。

表 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと

【性・女性が職業をもつことに対する考え方別】

単位：%

	サンプル数	改革の促進	子育て・介護の意識	育児・介護休業期間中の経済的支援の充実	実害差出制度の整備	再雇用制度の整備	企業内保育所の設置	男性の育児・介護支援	産前産後休業の延長	労働時間の短縮	フレックスタイム制度の整備・充実	結婚・出産退職の慣行	介護休業期間の延長	在宅勤務制度の整備	特になし	無回答
全体	1,948	66.8	43.5	37.4	36.5	36.3	36.1	27.0	26.3	23.6	23.4	23.1	18.4	5.0	2.8	
性・女性が職業を持つことに対する考え方別	女性計	1,179	69.0	48.3	39.8	37.5	41.2	36.6	29.5	27.7	23.2	23.4	25.9	17.6	4.8	2.0
	ずっと職業をもっている方がよい	442	73.3	47.7	41.2	35.1	44.1	39.8	26.0	26.5	25.1	29.6	24.0	17.6	2.9	1.8
	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	11	45.5	36.4	18.2	36.4	27.3	18.2	36.4	36.4	45.5	18.2	18.2	9.1	9.1	-
	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	47	44.7	27.7	23.4	27.7	27.7	19.1	23.4	25.5	17.0	14.9	29.8	14.9	23.4	4.3
	子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	601	69.7	50.2	40.8	40.1	40.3	35.3	32.9	28.3	21.8	19.6	28.1	17.1	4.0	1.5
	女性は職業をもたない方がよい	7	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	42.9	14.3
	その他	49	65.3	61.2	46.9	44.9	49.0	42.9	32.7	36.7	26.5	32.7	20.4	30.6	6.1	2.0
	男性計	750	63.9	36.7	34.0	35.6	28.9	36.0	23.2	24.3	24.1	23.5	18.8	20.1	5.3	3.2
	ずっと職業をもっている方がよい	230	69.6	38.7	37.4	33.5	33.9	38.7	25.2	20.4	24.8	28.7	22.2	20.0	4.3	3.0
	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	12	33.3	25.0	8.3	25.0	16.7	8.3	25.0	16.7	8.3	25.0	16.7	25.0	25.0	8.3
子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	34	41.2	23.5	14.7	23.5	14.7	5.9	20.6	26.5	8.8	11.8	11.8	14.7	11.8	8.8	
子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	417	66.2	39.1	34.3	39.3	28.8	38.1	23.5	26.1	24.9	22.3	18.7	19.9	2.9	2.2	
女性は職業をもたない方がよい	4	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	50.0	25.0	
その他	35	57.1	25.7	48.6	31.4	28.6	42.9	17.1	34.3	37.1	28.6	14.3	34.3	8.6	2.9	

実際の優先度別にみても、男女ともにいずれの項目においても「仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進」の割合が最も多くなっている。

表 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと

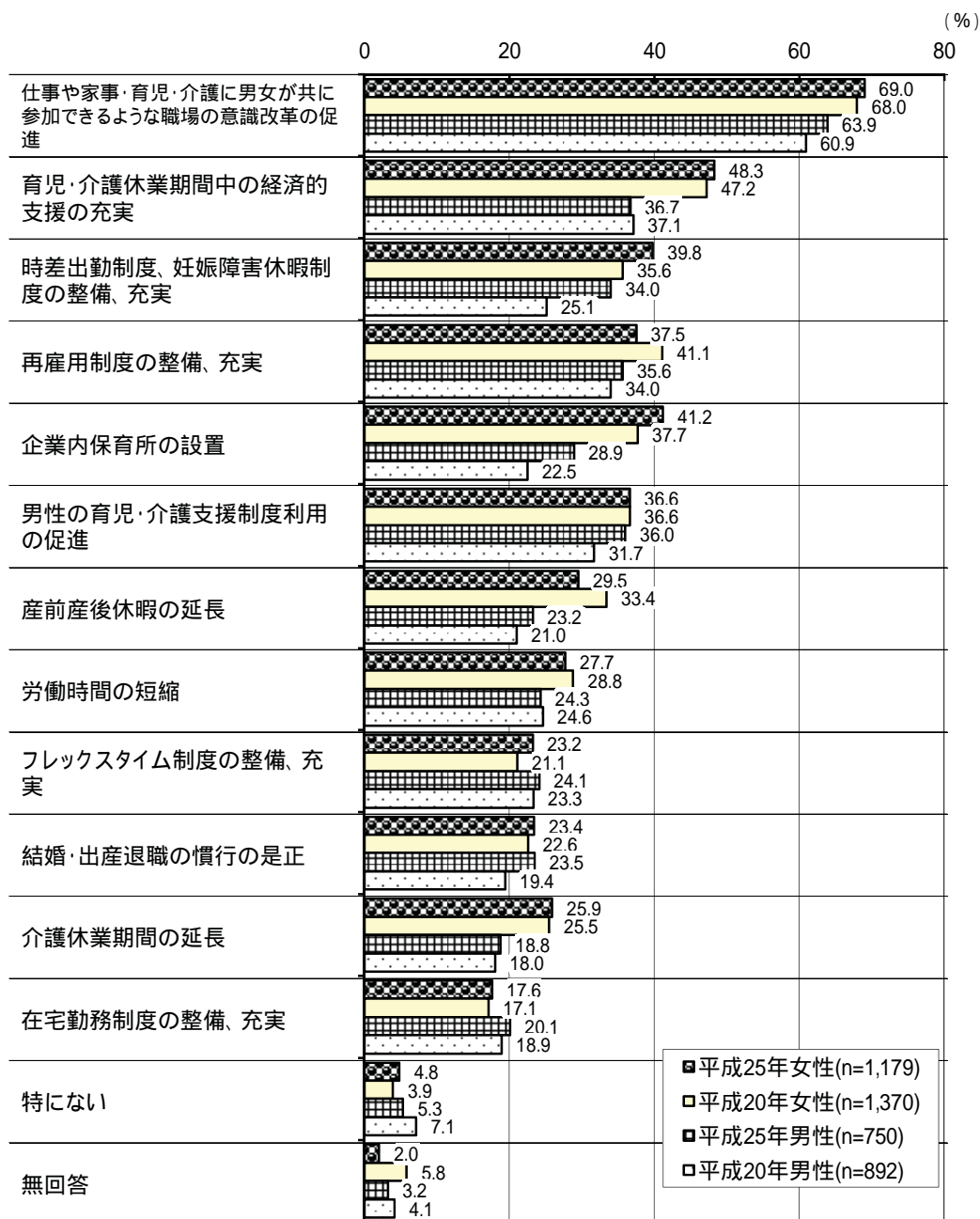
【性・実際の優先度別】

単位：％

	サンプル数	仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進	育児・介護休業期間中の経済的支援の充実	時差出勤制度の整備 妊娠障害休暇の充実	再雇用制度の整備 充実	企業内保育所の設置	男性の育児・介護支援制度の促進	産前産後休暇の延長	労働時間の短縮	フレックスタイム制度の整備・充実	正結婚・出産退職の慣行の是正	介護休業期間の延長	在宅勤務制度の整備 充実	特になし	無回答	
全体	1,948	66.8	43.5	37.4	36.5	36.3	36.1	27.0	26.3	23.6	23.4	23.1	18.4	5.0	2.8	
性・実際の優先度別	女性計	1,179	69.0	48.3	39.8	37.5	41.2	36.6	29.5	27.7	23.4	25.9	17.6	4.8	2.0	
	「仕事」を優先している	249	68.3	48.6	43.0	40.6	41.8	38.6	27.3	33.3	28.5	29.3	27.7	18.5	3.2	0.4
	「家庭生活」を優先している	383	70.5	48.3	37.9	35.5	41.3	35.0	34.5	26.6	21.1	25.8	27.7	18.0	4.4	1.8
	「地域活動・学習・趣味・付き合い等」を優先している	38	63.2	55.3	50.0	39.5	34.2	36.8	36.8	18.4	26.3	15.8	26.3	18.4	5.3	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	205	68.8	53.7	37.1	36.6	41.0	37.1	25.9	25.4	22.0	20.0	27.8	16.1	3.9	1.5
	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	44	79.5	56.8	54.5	56.8	40.9	40.9	36.4	25.0	34.1	15.9	27.3	18.2	-	-
	「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	137	72.3	44.5	43.1	46.0	43.8	41.6	28.5	37.2	19.7	20.4	19.0	21.9	5.8	0.7
	「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	56	67.9	42.9	41.1	30.4	41.1	33.9	26.8	19.6	26.8	19.6	23.2	10.7	5.4	5.4
	わからない	50	58.0	40.0	28.0	20.0	46.0	30.0	20.0	16.0	18.0	18.0	18.0	16.0	18.0	6.0
	男性計	750	63.9	36.7	34.0	35.6	28.9	36.0	23.2	24.3	24.1	23.5	18.8	20.1	5.3	3.2
	「仕事」を優先している	284	62.3	36.3	33.5	36.6	28.2	40.1	25.4	25.0	22.2	22.5	17.3	19.4	4.9	1.4
	「家庭生活」を優先している	94	68.1	34.0	29.8	28.7	20.2	27.7	20.2	26.6	20.2	24.5	24.5	17.0	6.4	4.3
	「地域活動・学習・趣味・付き合い等」を優先している	28	64.3	46.4	32.1	21.4	39.3	25.0	21.4	17.9	25.0	21.4	25.0	25.0	-	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	178	66.3	34.8	35.4	33.7	28.7	37.6	18.0	26.4	24.7	20.8	16.9	19.7	5.1	4.5
	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	30	60.0	30.0	26.7	46.7	36.7	36.7	16.7	16.7	30.0	33.3	20.0	30.0	6.7	3.3
	「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	55	60.0	38.2	30.9	40.0	29.1	32.7	36.4	10.9	29.1	27.3	23.6	23.6	5.5	5.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合い等」をともに優先している	41	68.3	46.3	51.2	39.0	39.0	39.0	19.5	26.8	34.1	19.5	14.6	19.5	2.4	4.9	
わからない	34	55.9	41.2	38.2	47.1	29.4	29.4	29.4	29.4	23.5	32.4	17.6	20.6	14.7	2.9	

平成 20 年調査の結果と比較すると、男女いずれも「仕事や家事・育児・介護に男女が共に参加できるような職場の意識改革の促進」の割合が最も多く、他の項目に比べて抜き出ている傾向は変わっていない。

図 女性と男性がともに働き、仕事と家庭を両立させていく環境をつくるため、企業に対して望むこと
[平成 20 年調査との比較]

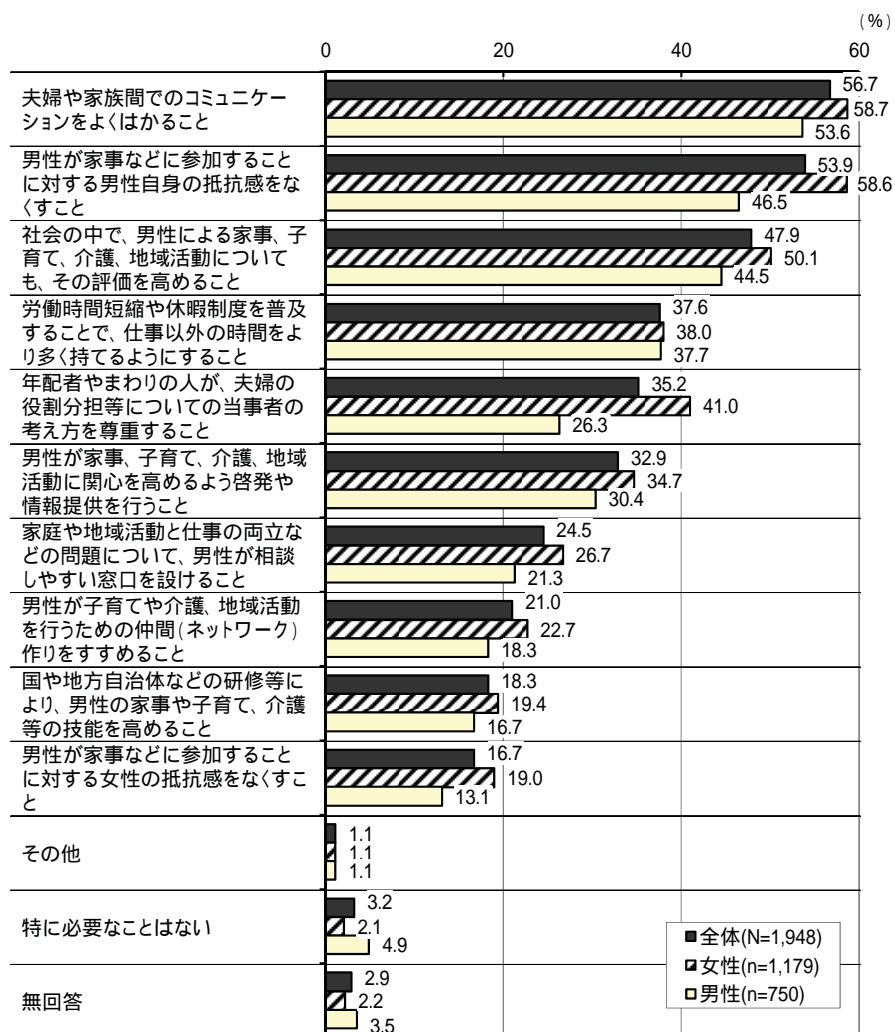


(7) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問8. 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

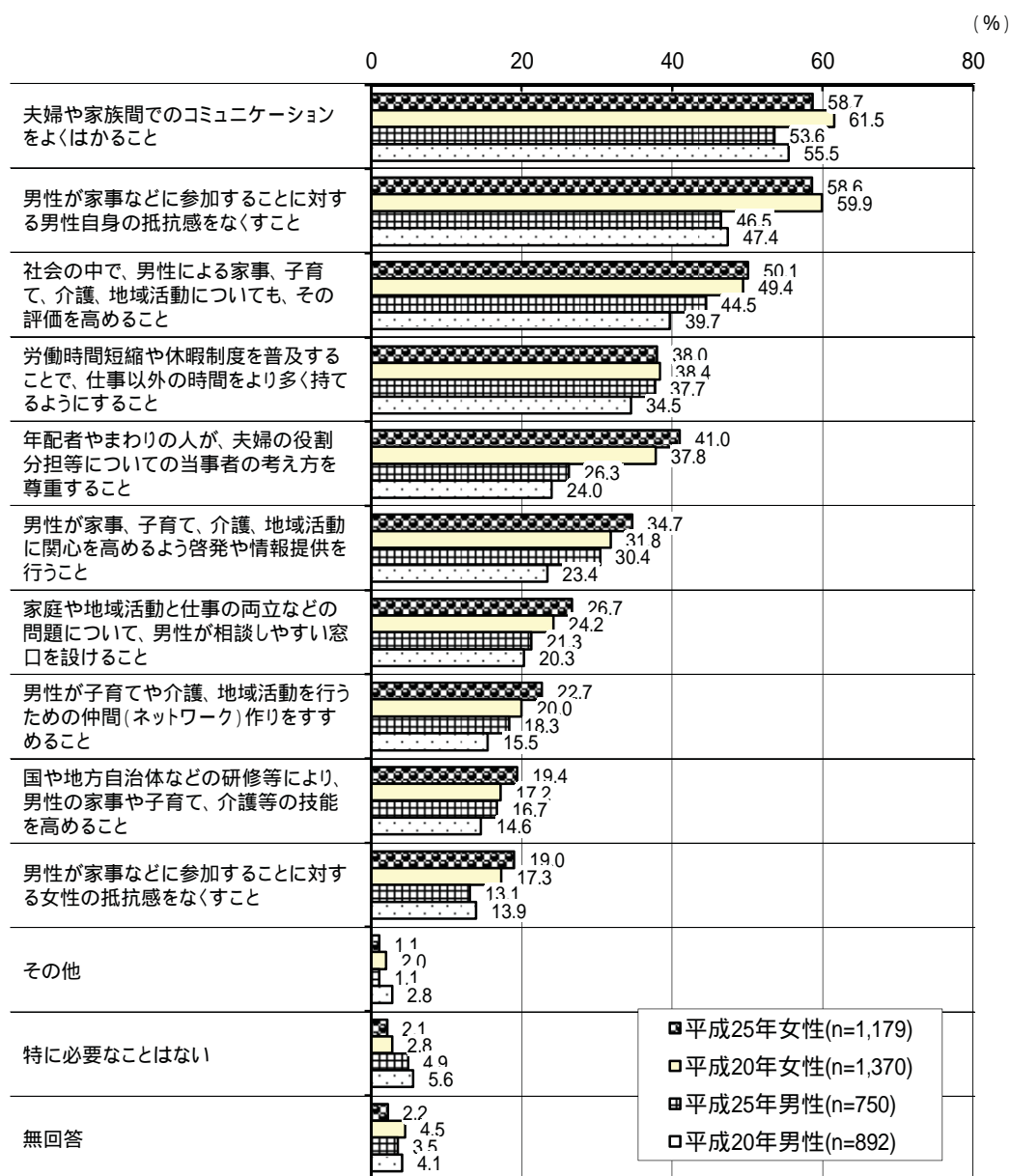
男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて性別にみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(女性 58.7%、男性 53.6%)の割合が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性 58.6%、男性 46.5%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(女性 50.1%、男性 44.5%)の順となっている。なお、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が男性に比べて約12ポイント上回っている。また、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」も女性(41.0%)が男性(26.3%)よりも約15ポイント上回っており、男女で差がみられる。

図 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと【性別】



平成 20 年調査の結果と比較すると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかると」の割合が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」の順となっている傾向は変わっていない。なお、男性の「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」は、平成 20 年から 7 ポイント増加している。

図 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
[平成 20 年調査との比較]



3. 家庭生活について

(1) 家庭内の役割分担状況

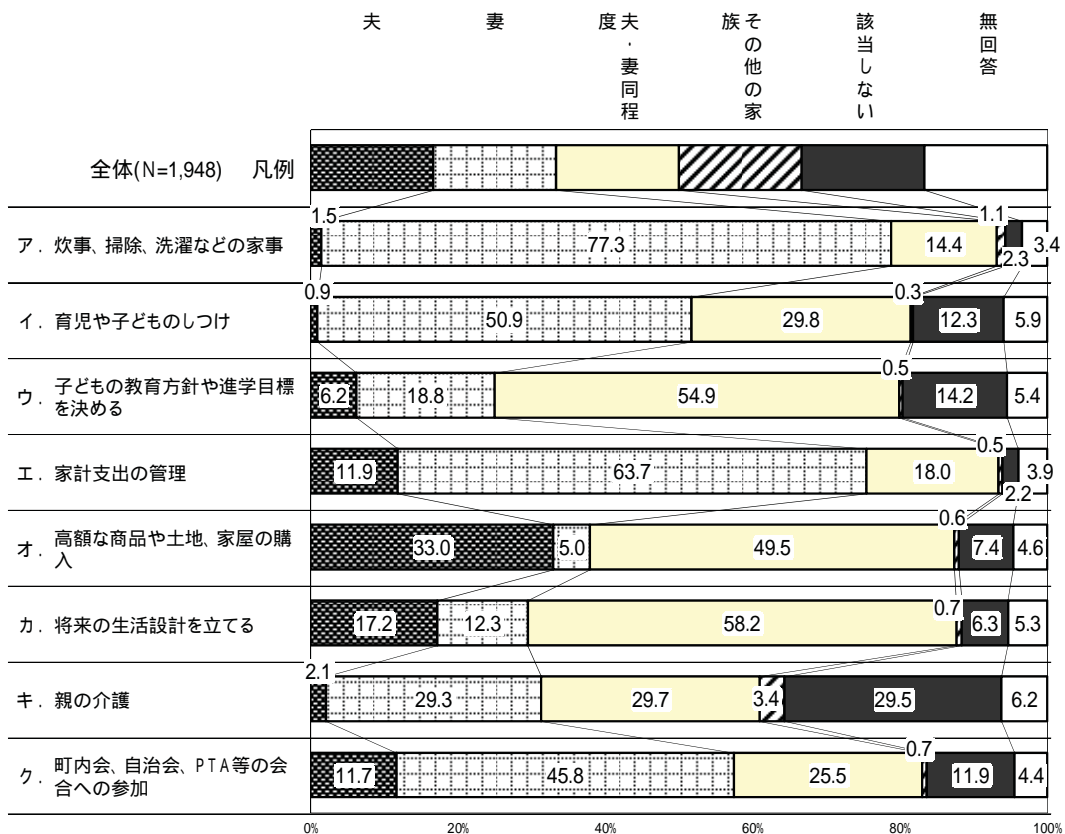
問9. あなたの家庭では、次のような事柄を「夫」、「妻」のどちらが主にされていますか(されていきましたか)。
 次のア～クまでのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つだけ選び、番号に をつけてください。未婚の方も、一般的にどう思われるかお答えください。

以下の8つの分野における家庭内の役割分担状況についてみると、「妻」が担う割合が多い項目は、「炊事、掃除、洗濯などの家事」(77.3%)、「家計支出の管理」(63.7%)、「育児や子どものしつけ」(50.9%)、「町内会、自治会、PTA等の会合への参加」(45.8%)などである。

「夫・妻同程度」の割合が多い項目は、「将来の生活設計を立てる」(58.2%)、「子どもの教育方針や進学目標を決める」(54.9%)、「高額な商品や土地、家屋の購入」(49.5%)などである。

「夫」が担う割合が最も多くなっている項目はないが、「高額な商品や土地、家屋の購入」(33.0%)は他の項目に比べて割合が高くなっている。

図 家庭内の役割分担状況[全体]

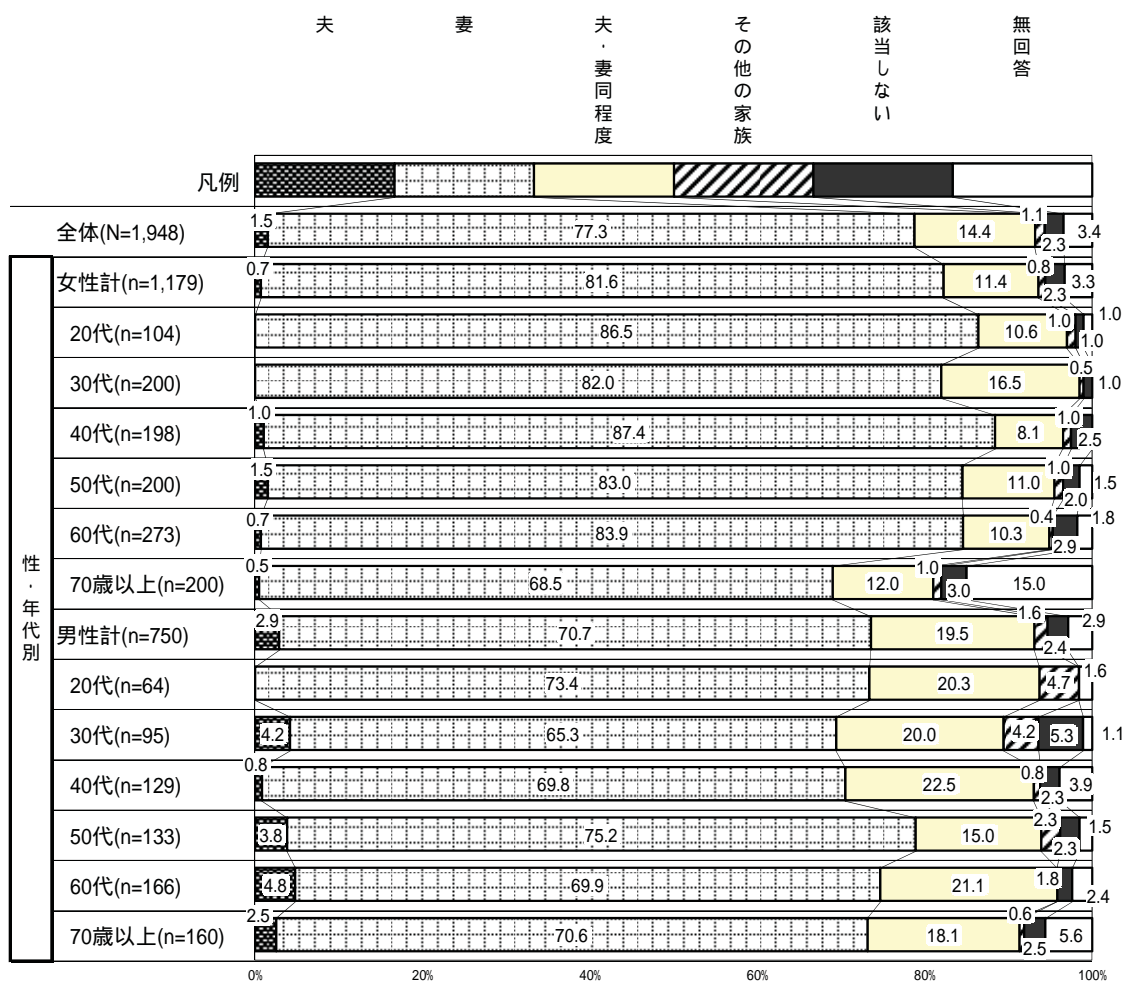


ア．炊事、掃除、洗濯などの家事

炊事、掃除、洗濯などの家事について性別にみると、男女とも「妻」の割合が大半を占めている。

年代別にみると、男女いずれの年代も「妻」の割合が大半を占めている。また、女性の方が男性よりも「妻」の割合が高く、男性の方が女性よりも「夫・妻同程度」の割合が高くなっており、男女で意識の差がみられる。

図 炊事、掃除、洗濯などの家事【性・年代別】

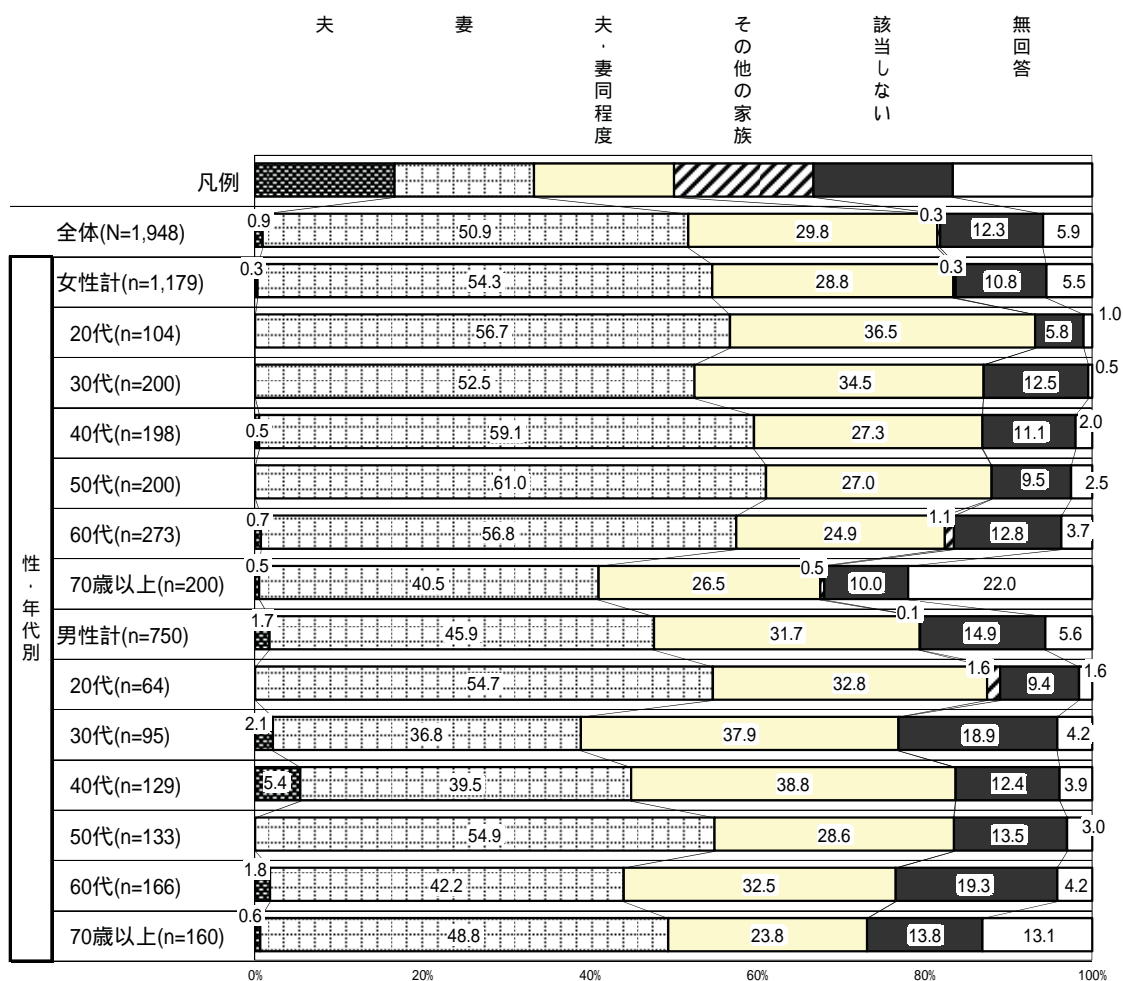


イ．育児や子どものしつけ

育児や子どものしつけについて性別にみると、男女とも「妻」の割合が最も多く、次いで「夫・妻同程度」の順となっている。

年代別にみると、男性 30 代を除いて「妻」の割合が最も多く、次いで「夫・妻同程度」の順となっているが、男性の 30 代、40 代は「妻」と「夫・妻同程度」が同程度の割合となっている。

図 育児や子どものしつけ【性・年代別】

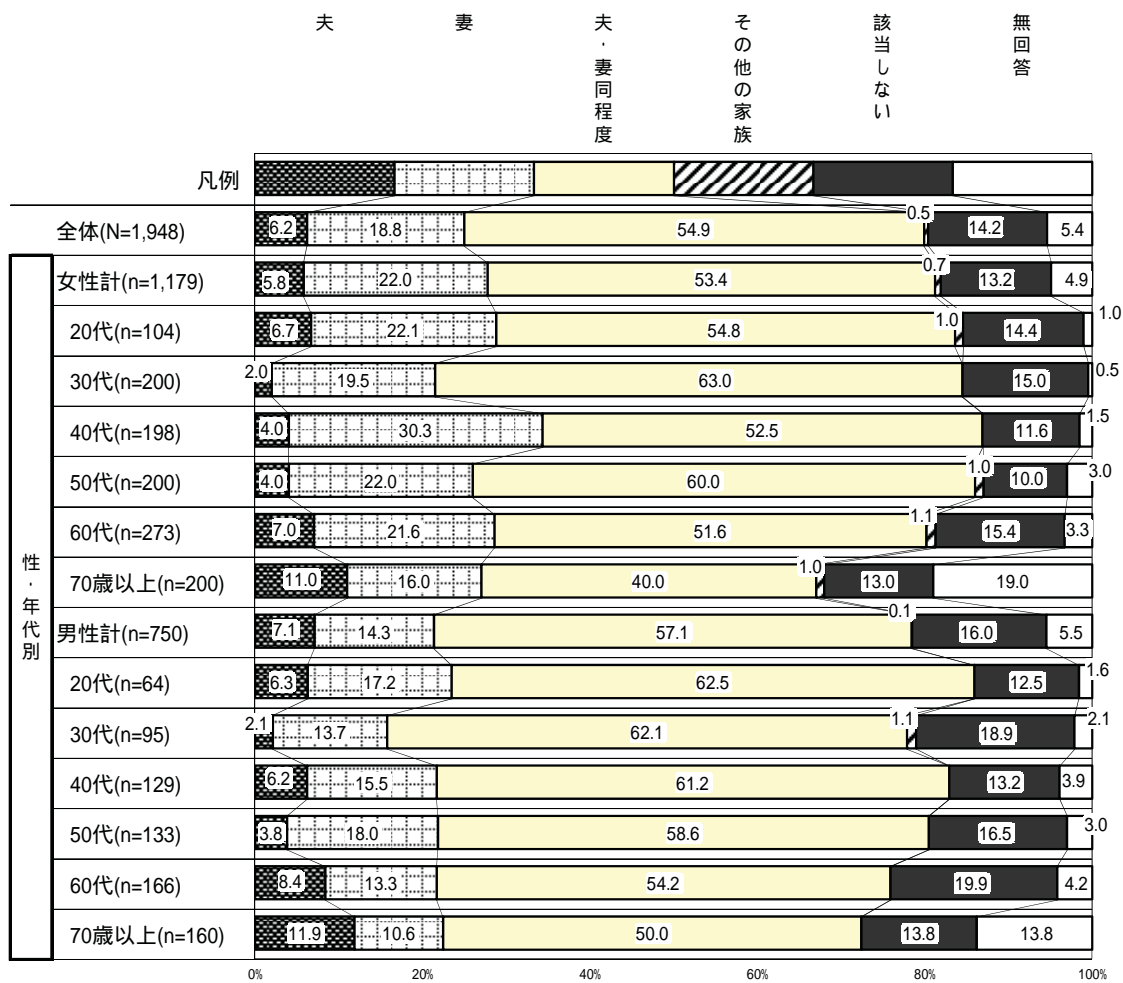


ウ．子どもの教育方針や進学目標を決める

子どもの教育方針や進学目標を決めることについて性別にみると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が最も多く、半数程度を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「夫・妻同程度」の割合が最も多く、半数程度を占めている。

図 子どもの教育方針や進学目標を決めること【性・年代別】

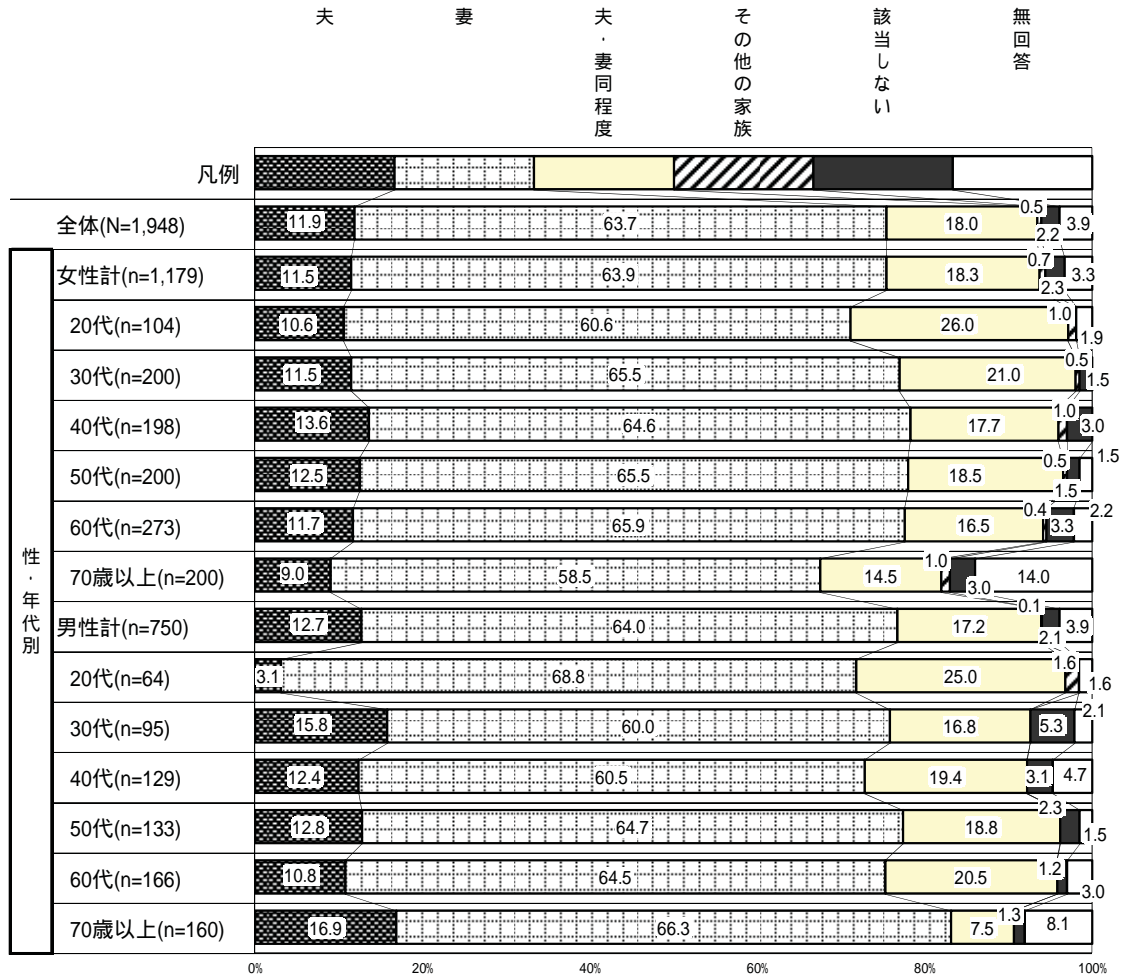


エ．家計支出の管理

家計支出の管理について性別にみると、男女とも「妻」の割合が大半を占めている。

年代別にみると、男女いずれの年代も「妻」の割合が大半を占めている。

図 家計支出の管理【性・年代別】

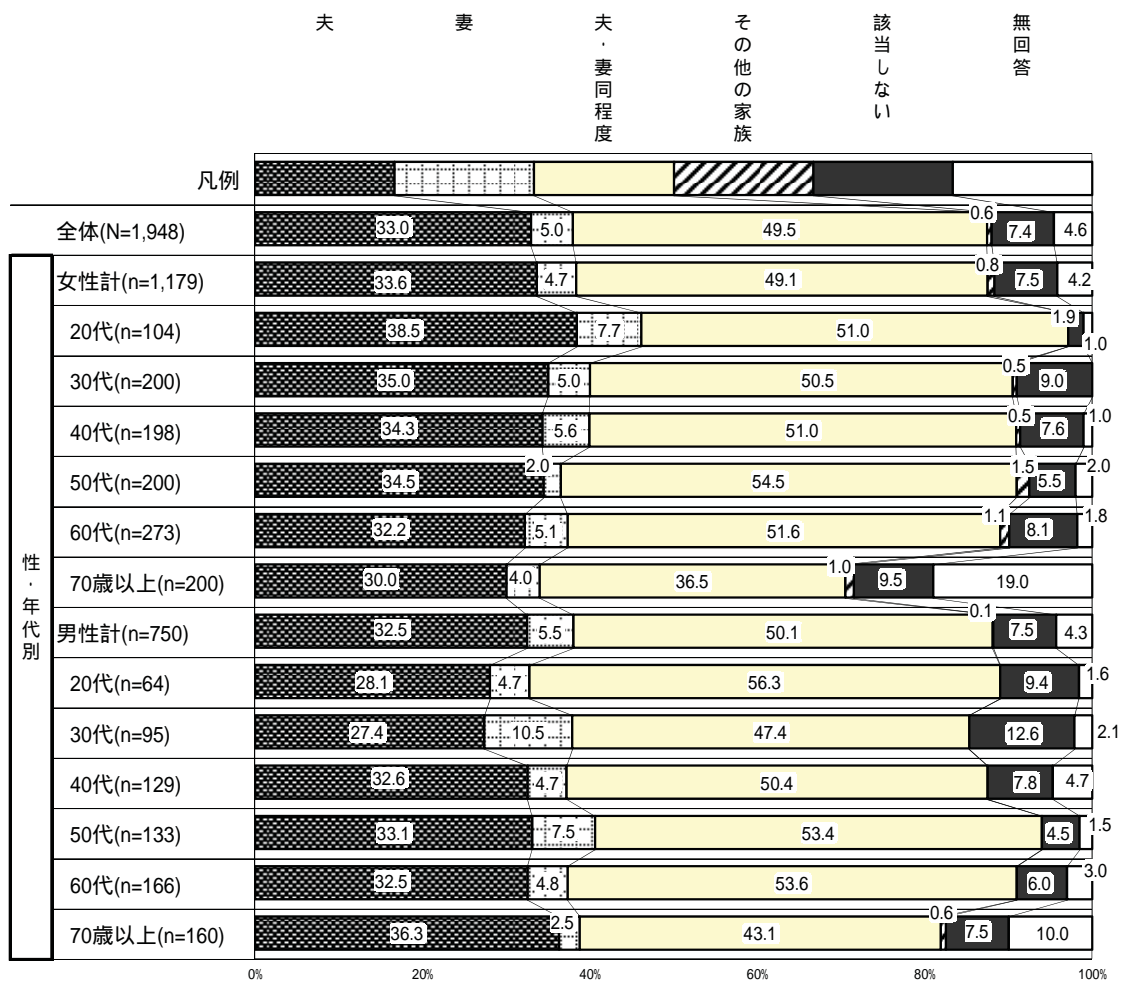


オ．高額な商品や土地、家屋の購入

高額な商品や土地、家屋の購入について性別にみると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が最も多く、半数程度を占め、次いで「夫」の順となっている。

年代別にみると、いずれの年代も「夫・妻同程度」の割合が最も多く、次いで「夫」の順となっている。

図 高額な商品や土地、家屋の購入【性・年代別】

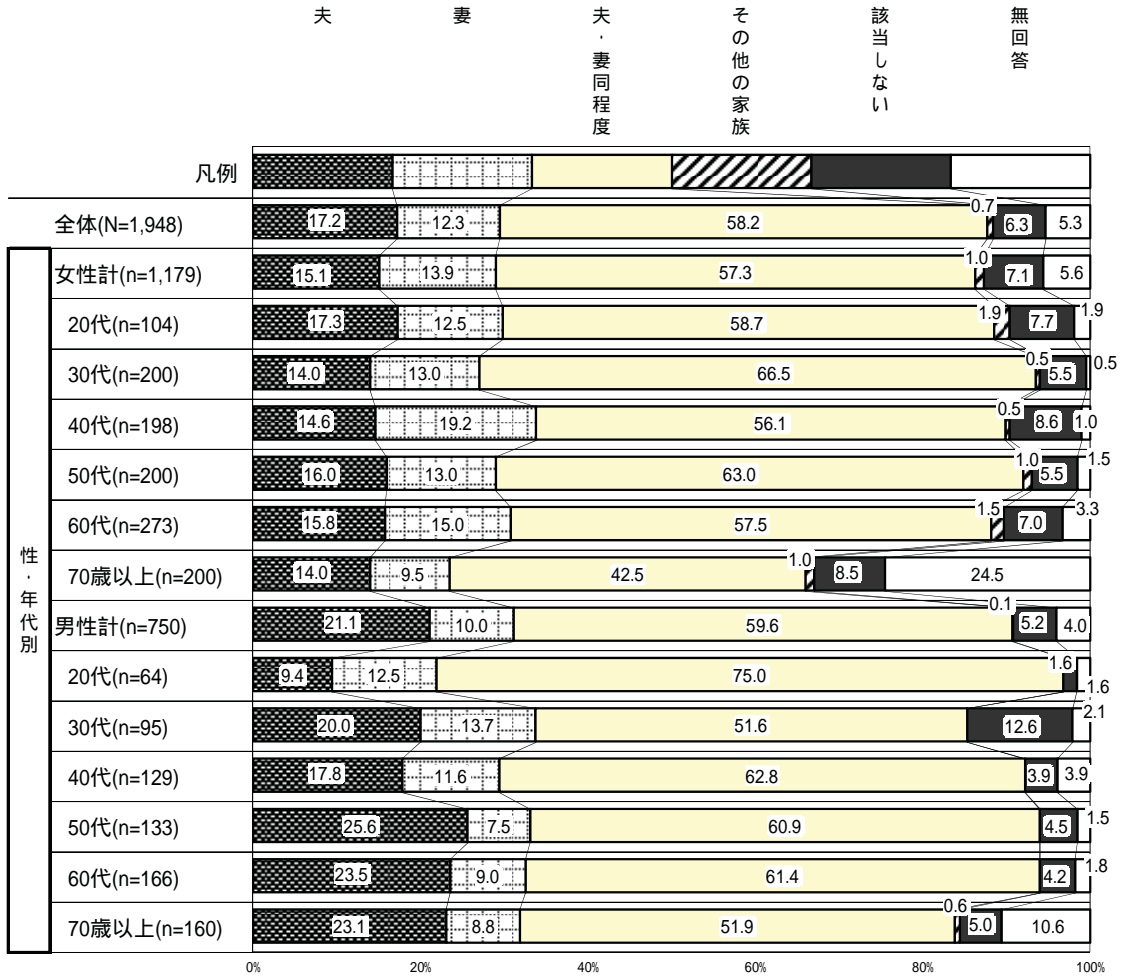


カ．将来の生活設計を立てる

将来の生活設計を立てることについて性別にみると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が最も多く、半数以上を占めている。

年代別にみると、男女いずれの年代も「夫・妻同程度」の割合が最も多く、半数程度を占めている。

図 将来の生活設計を立てる【性・年代別】

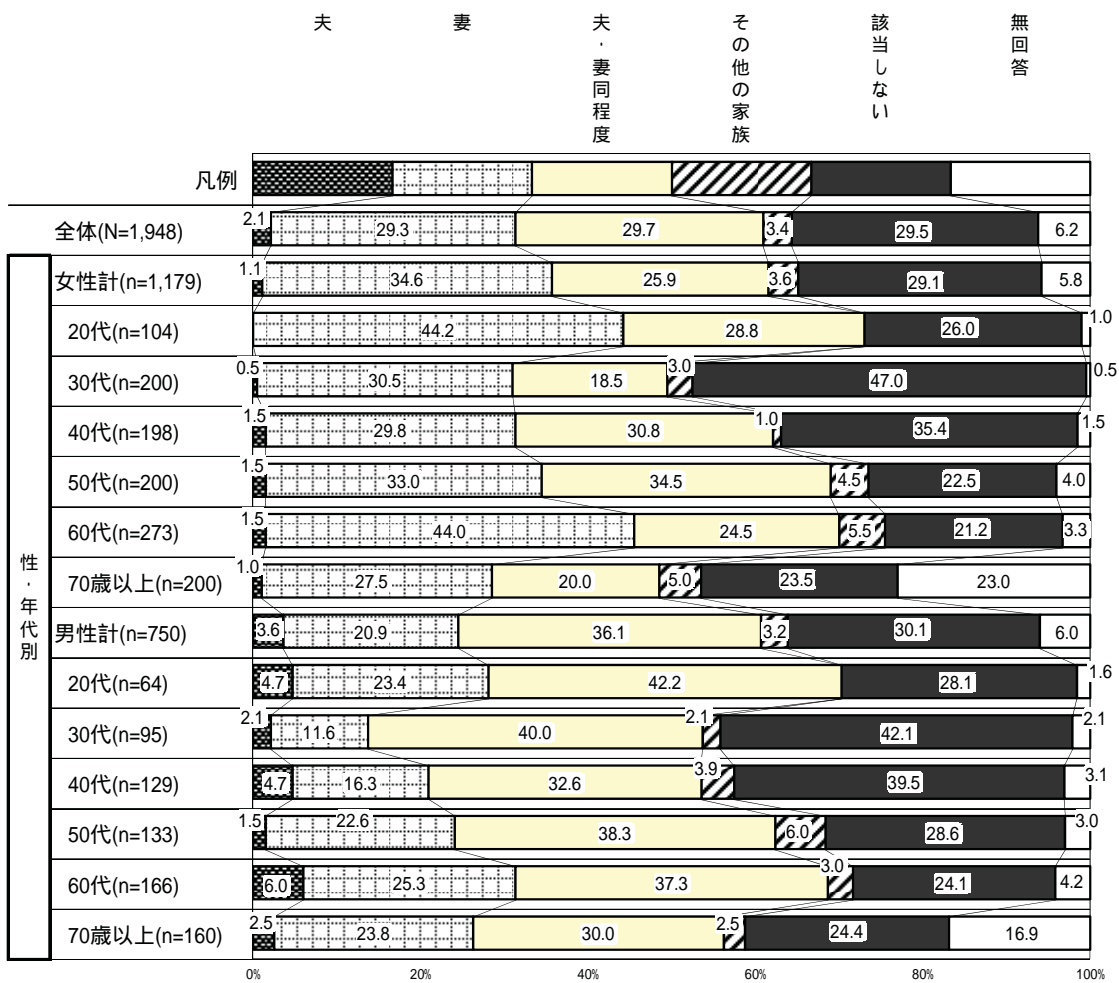


キ．親の介護

親の介護について性別にみると、女性は「妻」(34.6%)の割合が最も多く、次いで「夫・妻同程度」(25.9%)の順となっている。一方、男性は「夫・妻同程度」(36.1%)の割合が最も多く、次いで「妻」(20.9%)の順となっている。

年代別にみると、「夫・妻同程度」の割合が最も多いのは男性 20 代(42.2%)、次いで男性 30 代(40.0%)の順となっている。一方、「妻」の割合が最も多いのは女性 20 代(44.2%)、次いで女性 60 代(44.0%)の順となっている。

図 親の介護【性・年代別】

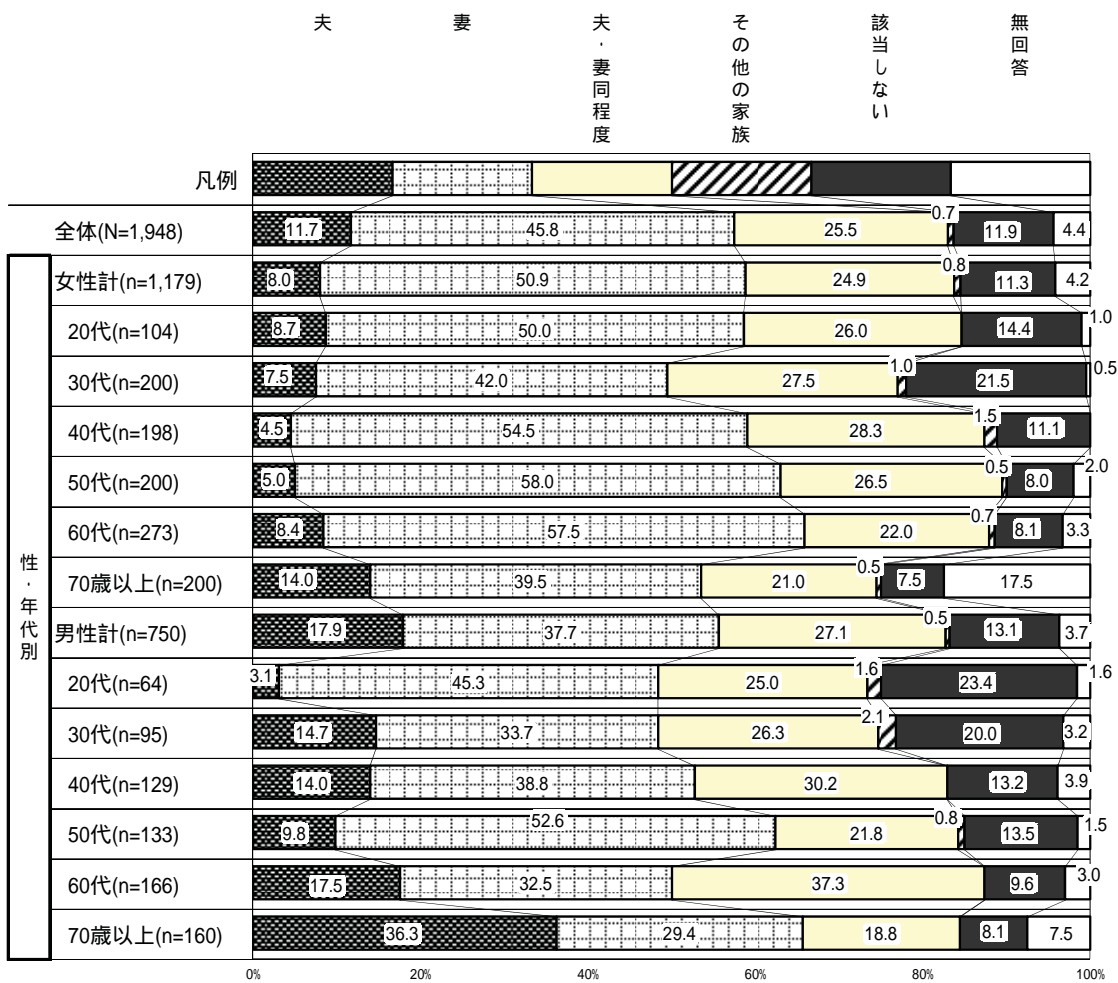


ク．町内会、自治会、PTA等の会合への参加

町内会、自治会、PTA等の会合への参加について性別にみると、男女とも「妻」の割合が最も多く、次いで「夫・妻同程度」の順となっている。

年代別にみると、男性60代と70歳以上を除いて「妻」の割合が最も多く、次いで「夫・妻同程度」の順となっている。なお、男性60代は「夫・妻同程度」(37.3%)の割合が最も多く、次いで「妻」(32.5%)、「夫」(17.5%)の順となっており、男性70歳以上は「夫」(36.3%)の割合が最も多く、次いで「妻」(29.4%)、「夫・妻同程度」(18.8%)の順となっている。

図 町内会、自治会、PTA等の会合への参加【性・年代別】



平成20年調査の結果と比較すると、割合が5ポイント以上増加しているのは、男性の「育児や子どものしつけ」の「妻」の割合、男性の「町内会、自治会、PTA等の会合への参加」の「夫」の割合、女性の「親の介護」の「妻」の割合となっている。逆に、5ポイント以上減少しているのは、男性の「育児や子どものしつけ」の「夫・妻同程度」の割合、男女とも「親の介護」の「夫・妻同程度」の割合、女性の「将来の生活設計を立てる」の「夫・妻同程度」の割合、女性の「子どもの教育方針や進学目標を決める」の「夫・妻同程度」の割合となっている。

図 家庭内の役割分担状況【平成20年調査との比較】

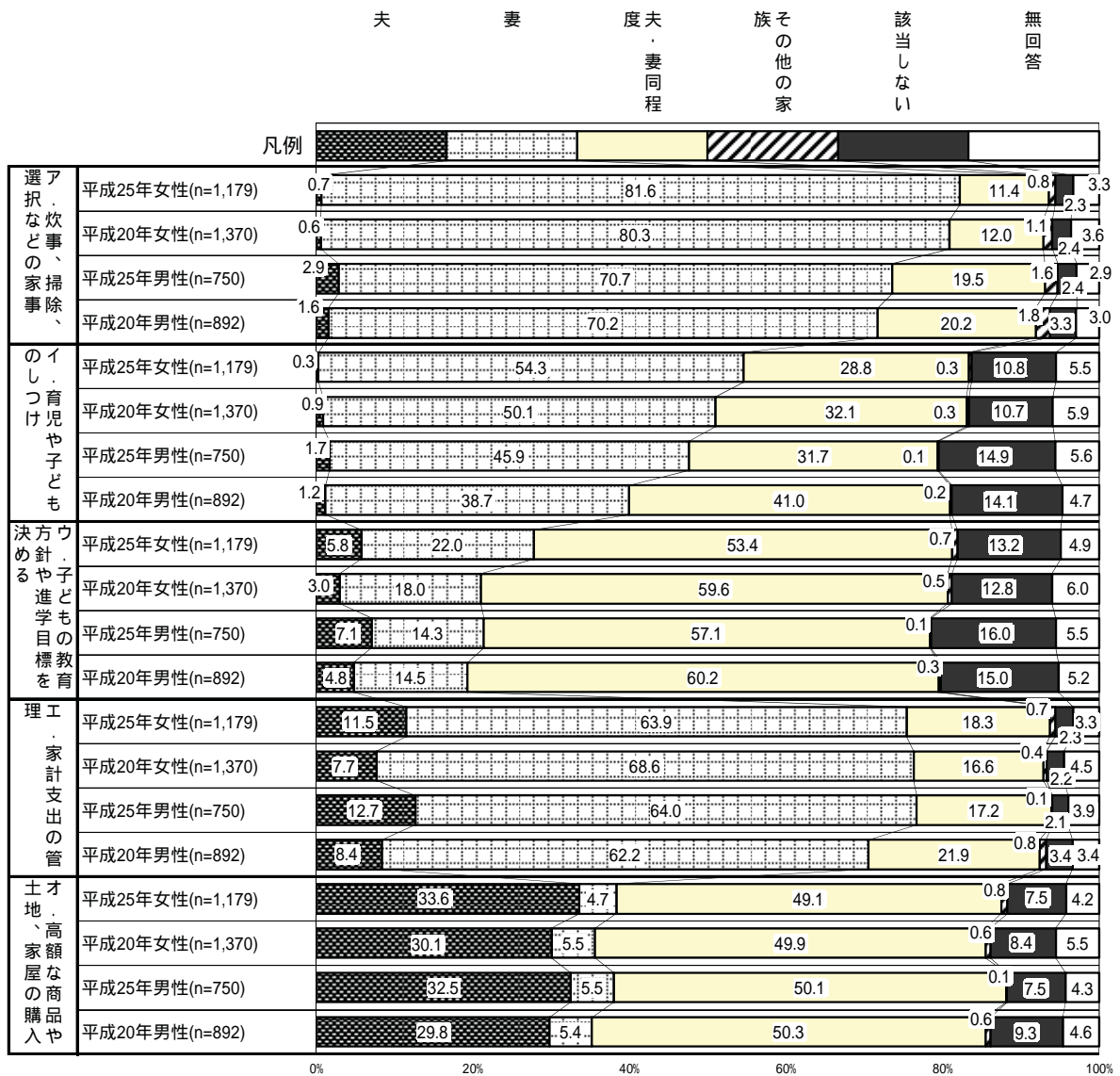
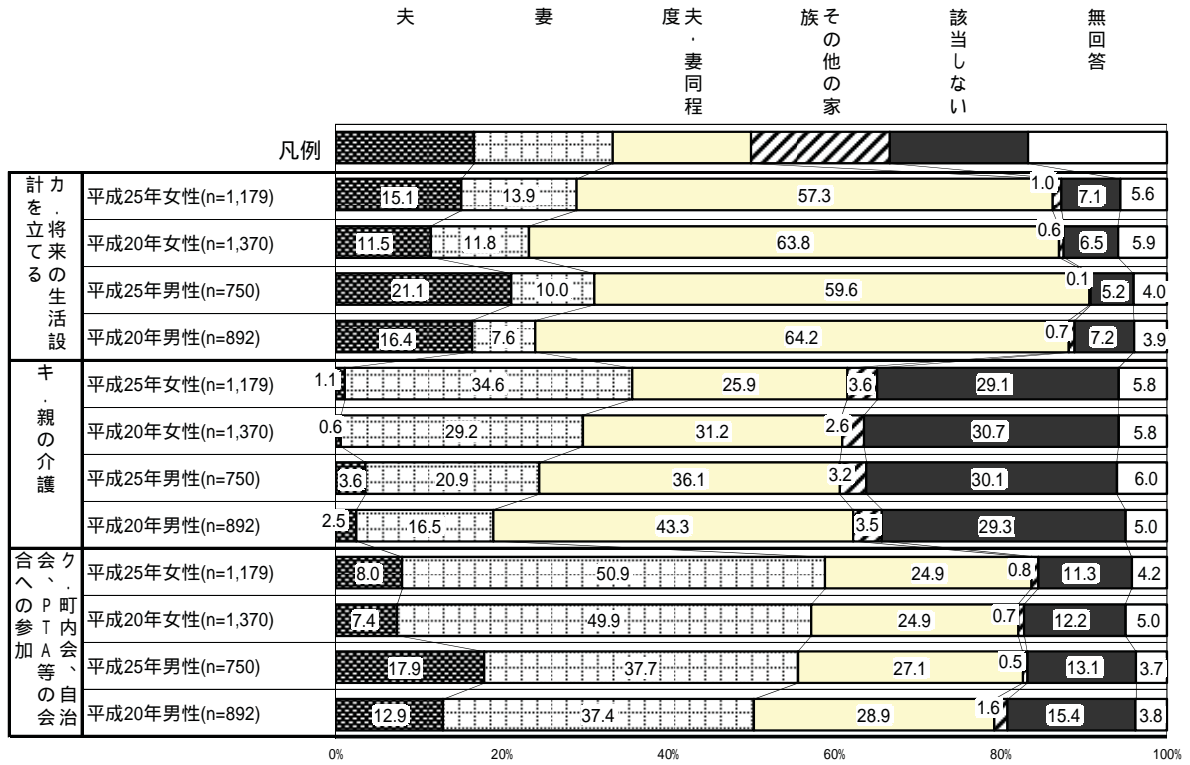


図 家庭内の役割分担状況【平成 20 年調査との比較】



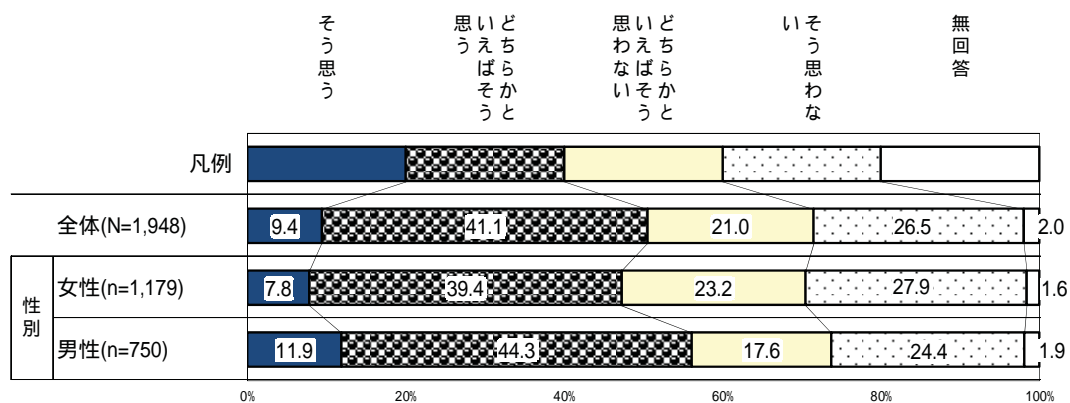
(2)「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について

問 10 .「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見をおうかがいします。
あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に をつけてください。

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方についてみると、「そう思う」(9.4%)と「どちらかといえばそう思う」(41.1%)を合わせた『そう思う』人の割合は 50.5%で、「そう思わない」(26.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(21.0%)を合わせた『そう思わない』人の割合 47.5%よりも若干上回っている。

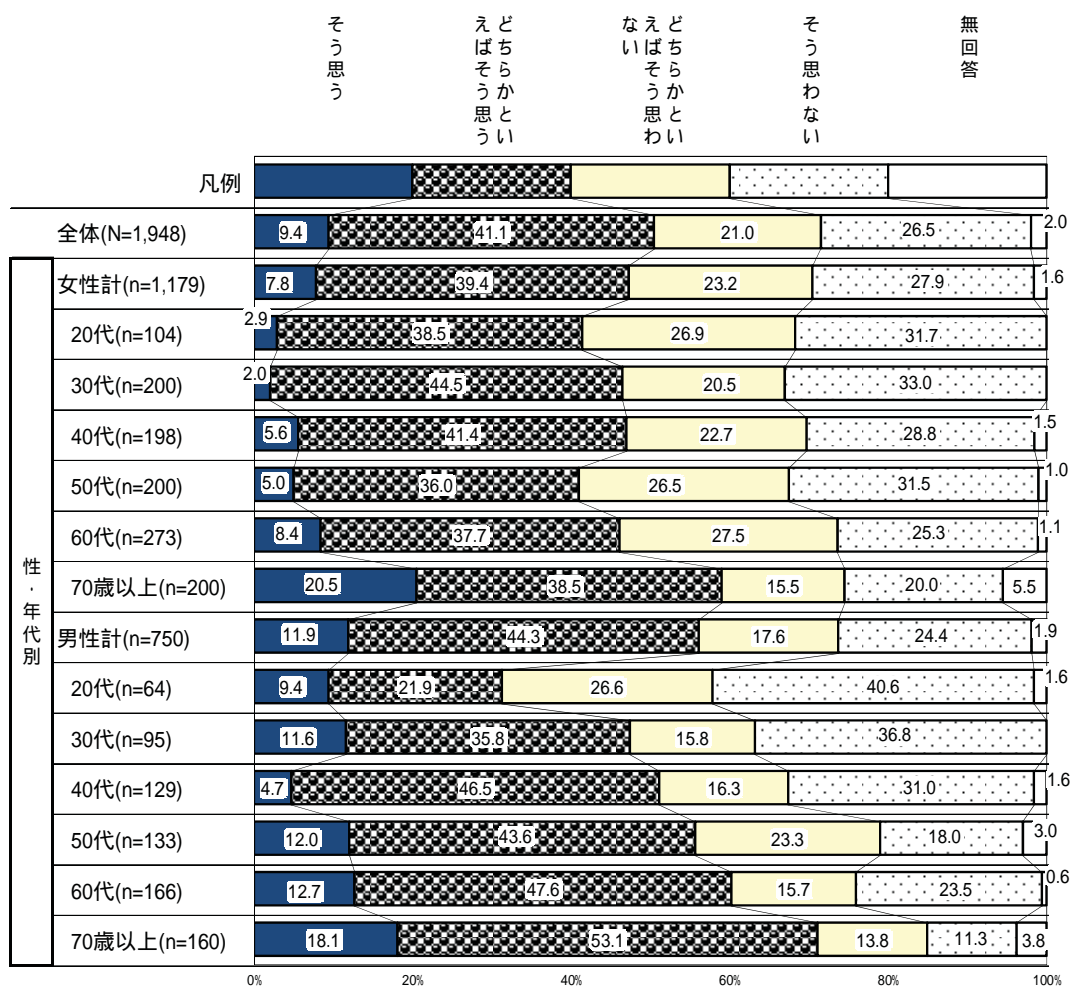
性別にみると、『そう思う』人は女性 47.2%、男性 56.2%で、男性の方が高くなっている。

図 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【性別】



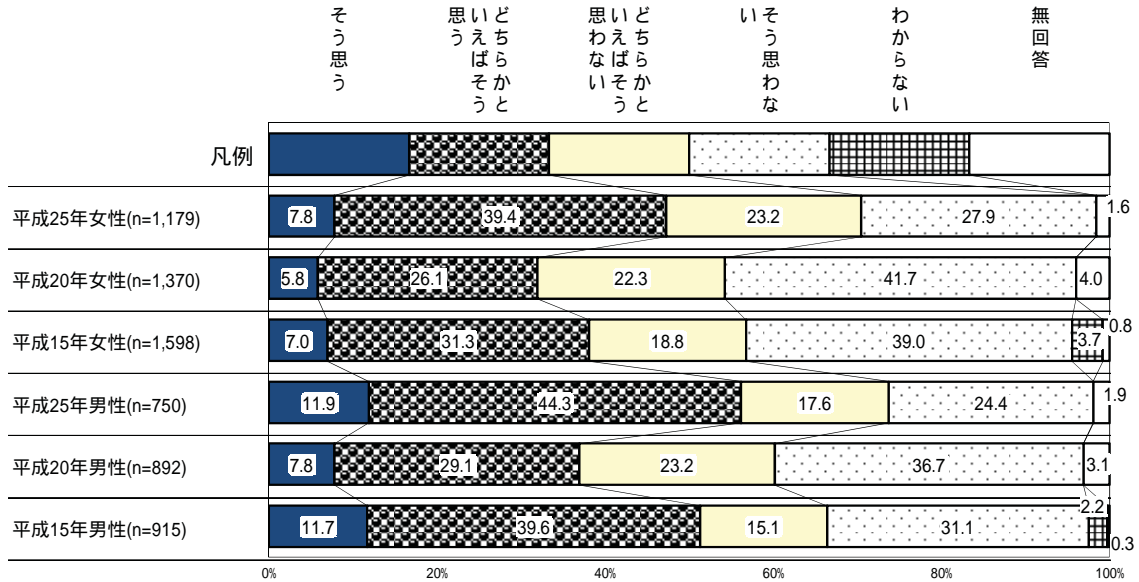
年代別にみると、女性は70歳以上を除いて『そう思わない』人の割合の方が『そう思う』人の割合よりも上回っている。なお、70歳以上は『そう思う』人が約6割を占めている。一方、男性は20代で『そう思わない』人が6割を超えているものの、年代が上がるにつれて『そう思わない』人の割合が減少しており、70歳以上は『そう思う』人が7割を超えている。

図 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【性・年代別】



平成15年調査、20年調査の結果と比較すると、男女ともに、性別による固定的な役割分担に肯定的な人の割合が平成20年に比べて増えて、平成15年の割合よりも上回っている。

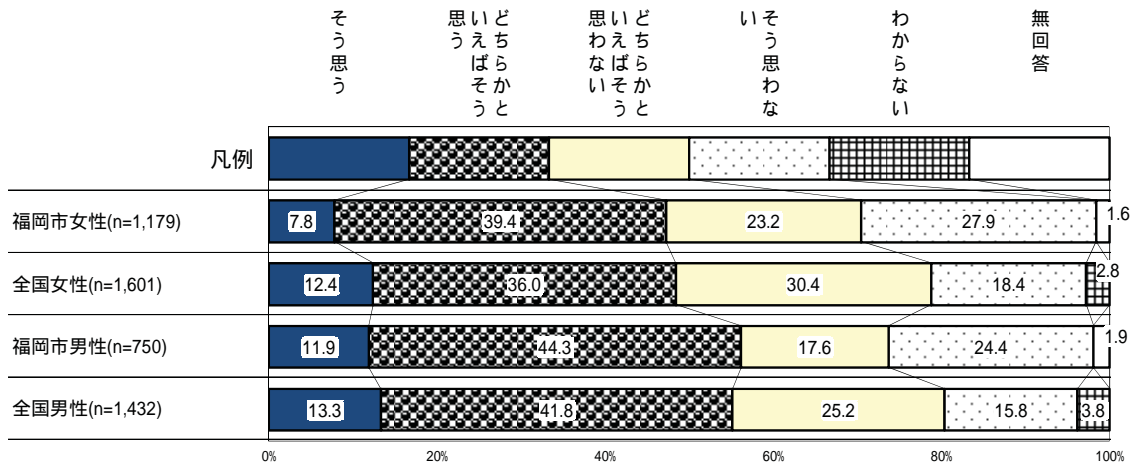
図 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【平成15年、20年調査との比較】



注)「わからない」の選択肢は平成15年調査のみの項目

全国調査の結果と比較すると、男女ともに全国調査結果よりも『そう思わない』と考える人の割合が高くなっている。

図 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【全国との比較】



注)「わからない」の選択肢は全国のみ項目

4. 子どものしつけや教育についての意識

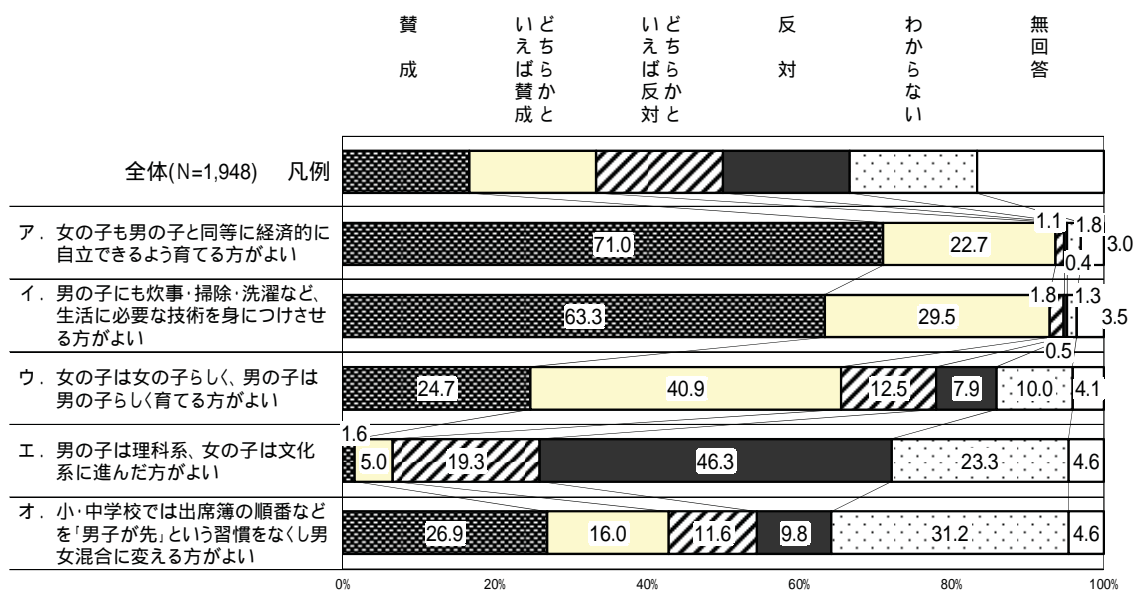
問 11. あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をもちですか。
 次のア～オまでのそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、
 番号に をつけてください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。

子どものしつけや教育についての意識について以下5つの分野についてそれぞれきいたところ、『賛成』（『賛成』+『どちらかといえば賛成』）の割合は「ア. 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」（93.7%）が最も多く、次いで「イ. 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」（92.8%）、「ウ. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい」（65.6%）の順で、これら3つの項目はいずれも過半数を占めている。

一方、「エ. 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい」では、『反対』（『反対』+『どちらかといえば反対』）の割合の方が65.6%と高くなっている。

「オ. 小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい」では『賛成』42.9%、『反対』21.4%で、『賛成』の方が上回っているものの、「わからない」が31.2%を占めており、意見が分かれている。

図 子どものしつけや教育についての意識【全体】

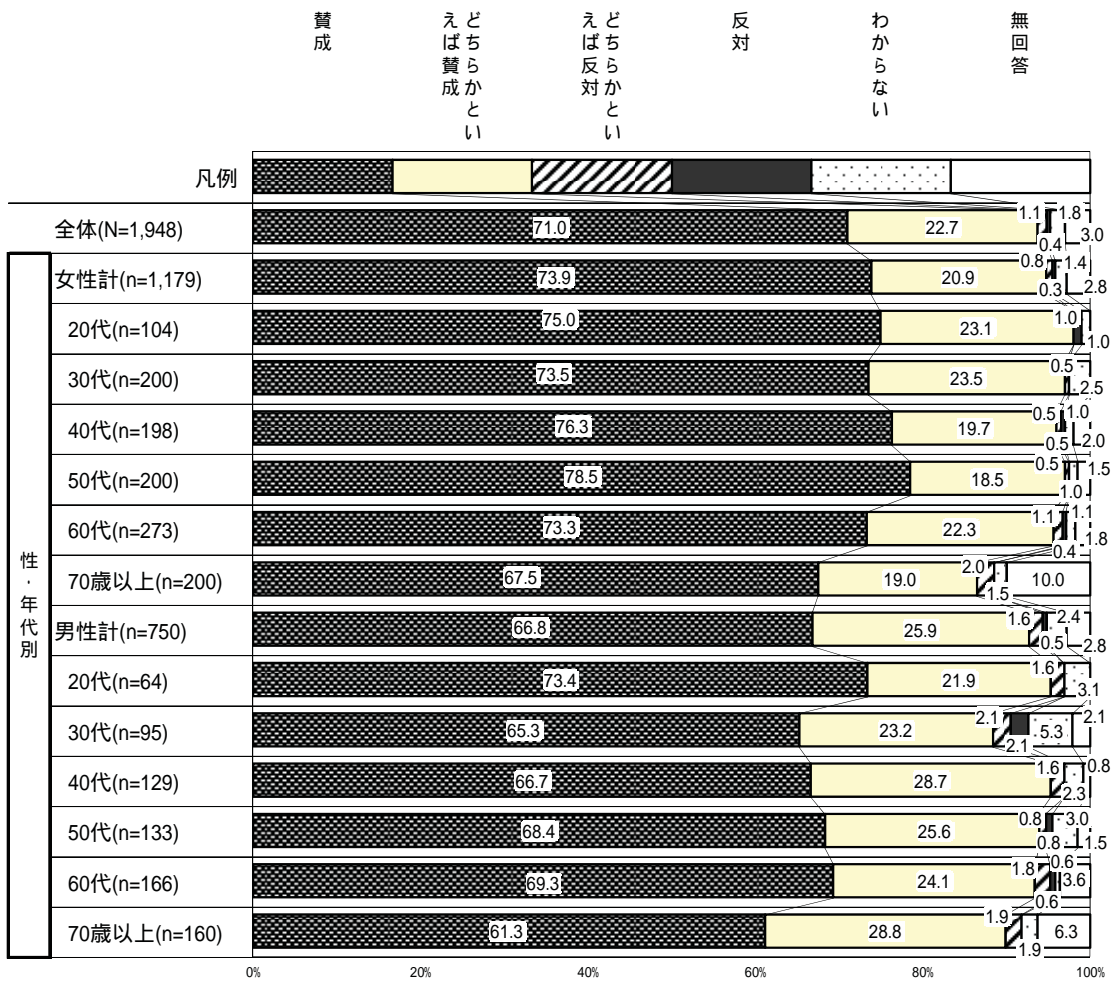


ア．女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい

性別にみると、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の割合は女性 94.8%、男性 92.7%で、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も『賛成』が大半を占めている。

図 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい【性・年代別】

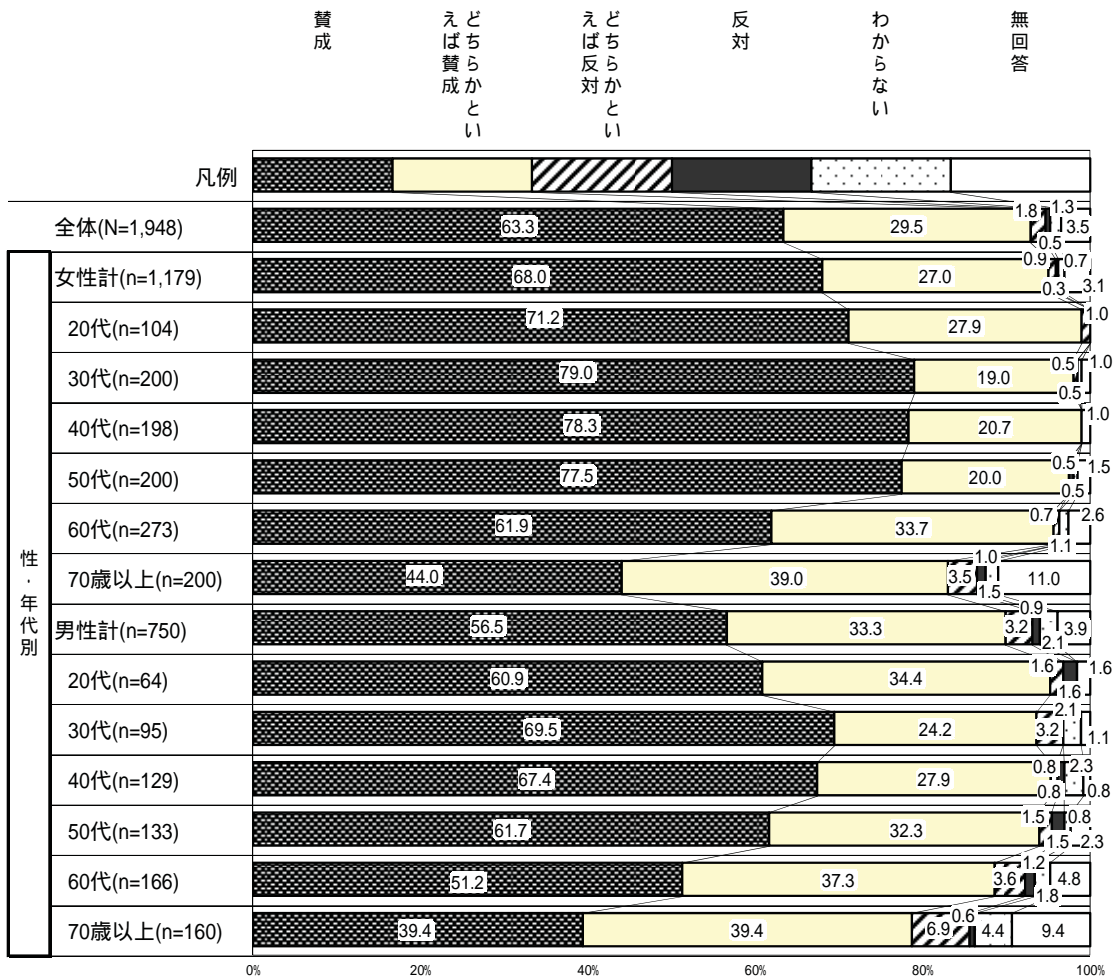


イ．男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

性別にみると、『賛成』の割合が女性 95.0%、男性 89.8%と、女性の方が高くなっているものの、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も『賛成』が大半を占めているが、男女とも 70 歳以上は『賛成』の割合が他の年代に比べて低くなっている。

図 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい【性・年代別】

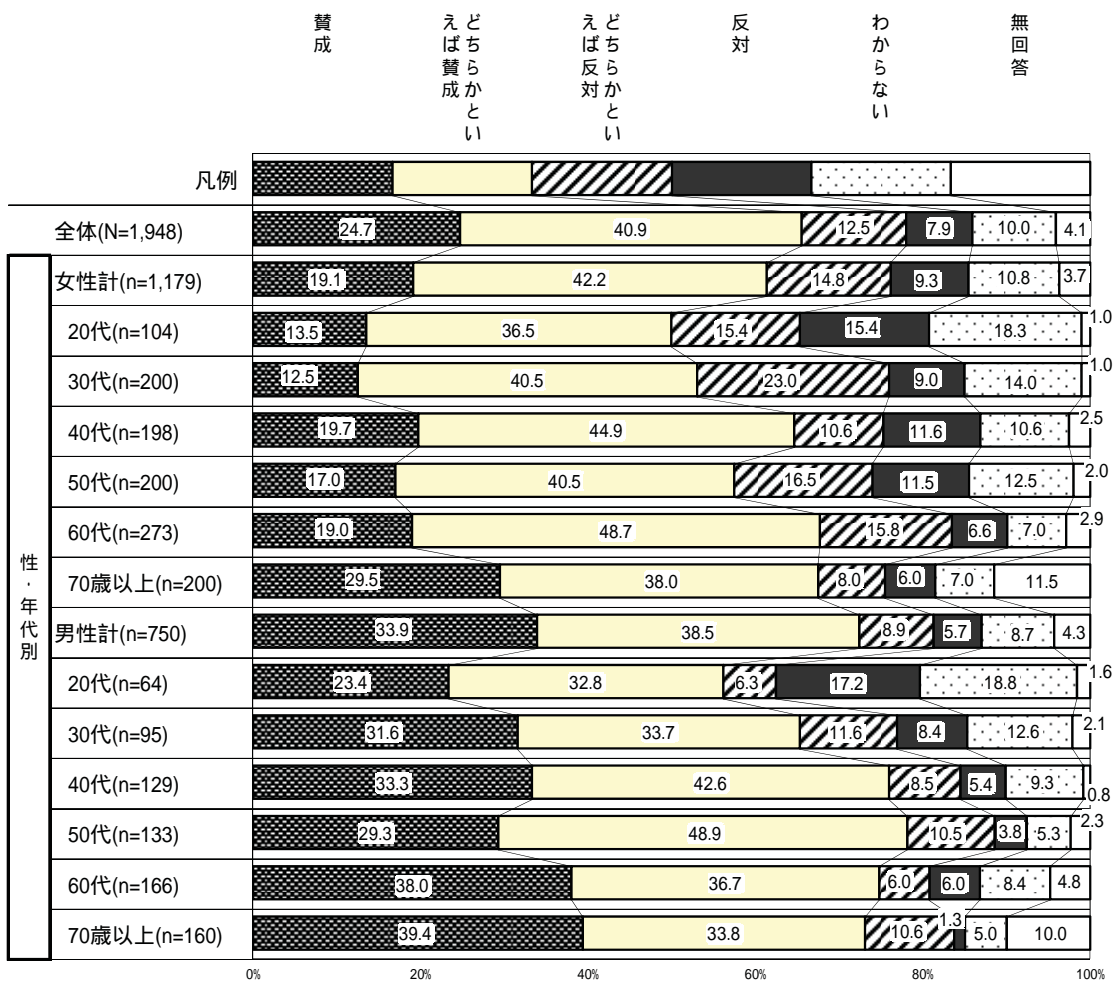


ウ．女の子は女の子らしく男の子は男の子らしく育てる方がよい

性別にみると、『賛成』の割合が女性 61.3%、男性 72.4%と、男性の方が上回っているものの、いずれも過半数を占めている。なお、『賛成』の割合をみると、女性 19.1%、男性 33.9%で、男性の方が高くなっている。

年代別にみると、『賛成』の割合が最も多いのは男性50代(78.2%)、次いで男性40代(75.9%)の順となっている。一方、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)の割合が最も多いのは女性30代(32.0%)となっている。なお、いずれの年代も『賛成』の割合は男性の方が女性よりも上回っている。

図 女の子は女の子らしく男の子は男の子らしく育てる方がよい【性・年代別】

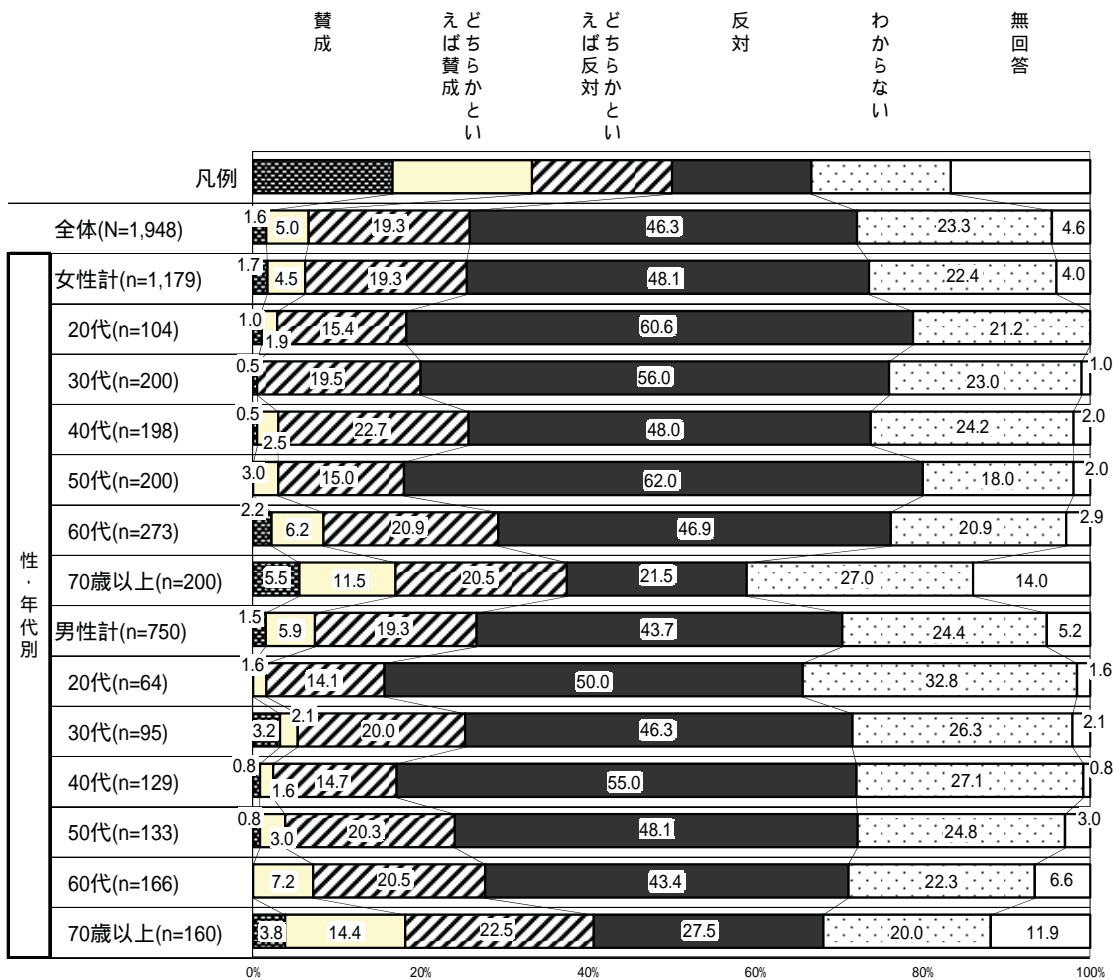


エ．男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい

性別にみると、『反対』の割合は女性 67.4%、男性 63.0%で、女性の方が上回っているものの、いずれも過半数を占めている。

年代別にみると、女性 70 歳以上を除いて『反対』の割合が過半数を占めている。なお、女性 70 歳以上は『賛成』17.0%、『反対』42.0%で、『反対』の割合の方が上回っており、性別による進路選択に対してはいずれの年代も否定する人が多い。

図 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい【性・年代別】

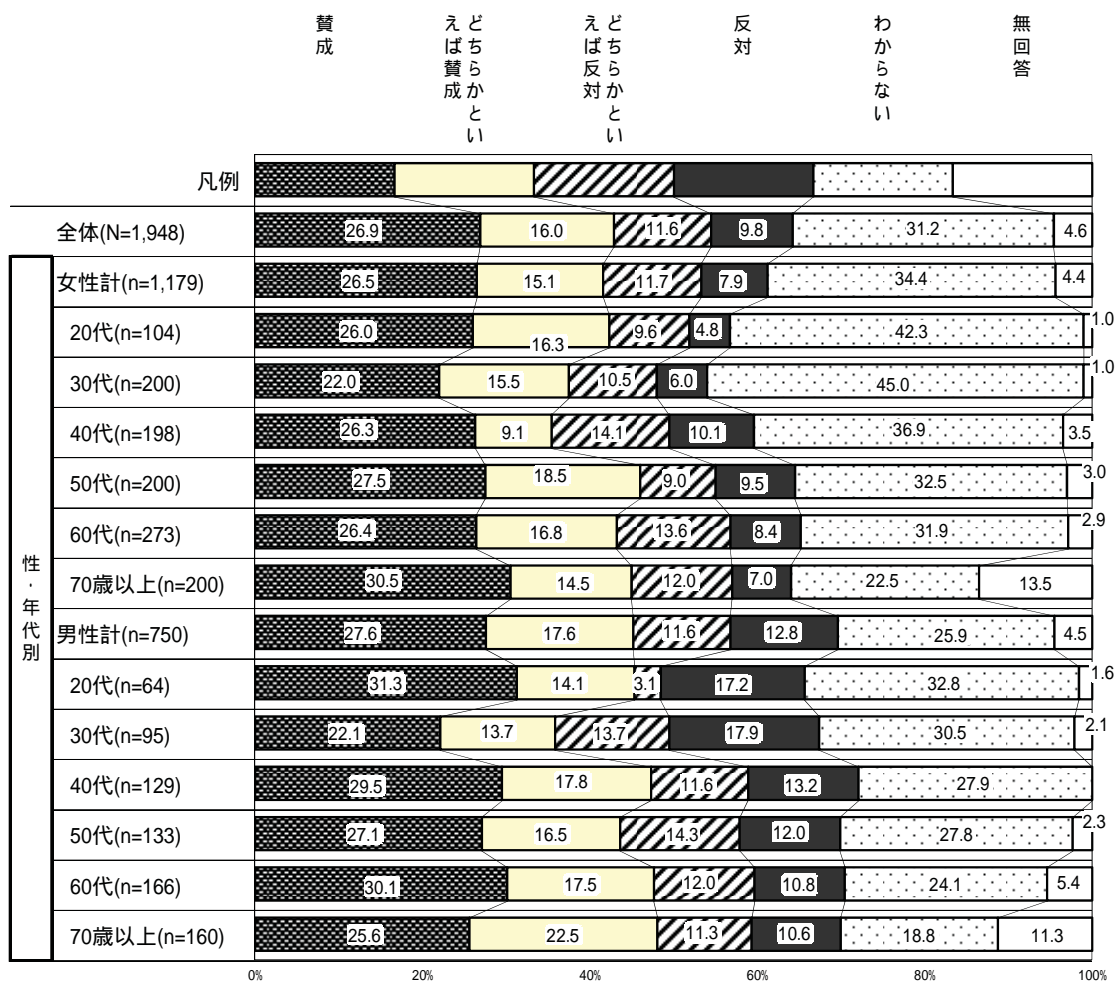


オ・小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい

性別にみると、『賛成』の割合は女性41.6%、男性45.2%に対して、『反対』の割合は女性19.6%、男性24.4%と、男女ともに『賛成』の方が『反対』よりも上回っている。

年代別にみると、いずれの年代も『賛成』の方が『反対』よりも上回っている。『賛成』の割合が最も多いのは男性70歳以上(48.1%)、次いで男性60代(47.6%)の順となっている。なお、女性30代は「わからない」が45.0%を占めており、『賛成』(37.5%)よりも多くなっている。

図 小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい〔性・年代別〕



子どもの教育としつけに対して、「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考えに否定的な人の方が性別で分ける教育やしつけに反対しており、固定的役割分担意識との関連性がみられる。

「ア．女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」、「イ．男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」では、「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考えについて、そう思わない人は、そう思う人よりも、「賛成」と考える割合が高い。

「ウ．女の子は女の子らしく男の子は男の子らしく育てる方がよい」では、「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考えについて、そう思う人は、そう思わない人よりも、「賛成」と考える割合が高い。

「エ．男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい」では、「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考えについて、そう思わない人は、そう思うよりも、「反対」と考える割合が高い。

「オ．小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい」では、「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考えについて、そう思わない人は、そう思う人よりも、「賛成」と考える割合が高い。

表 子どものしつけや教育についての意識【性・男は仕事、女は家庭を守るべきという意識別】

単位：％

	サンプル数	ア．女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい						イ．男の子にも炊事・洗濯・掃除など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい						
		賛成	えどちばら成かとい	えどち反らかとい	反対	わからない	無回答	賛成	えどちばら成かとい	えどち反らかとい	反対	わからない	無回答	
		全体	1,948	71.0	22.7	1.1	0.4	1.8	3.0	63.3	29.5	1.8	0.5	1.3
守るべき仕事、女は家庭を	女性計	1,179	73.9	20.9	0.8	0.3	1.4	2.8	68.0	27.0	0.9	0.3	0.7	3.1
	そう思う計	557	65.7	28.0	1.1	0.5	1.3	3.4	57.6	36.8	1.4	0.4	0.7	3.1
	そう思わない計	603	82.1	14.8	0.5	-	1.3	1.3	78.3	18.6	0.5	0.2	0.7	1.8
	男性計	750	66.8	25.9	1.6	0.5	2.4	2.8	56.5	33.3	3.2	0.9	2.1	3.9
	そう思う計	421	63.7	29.5	2.1	0.7	2.1	1.9	48.9	39.2	4.8	1.0	2.9	3.3
	そう思わない計	315	72.4	21.0	1.0	0.3	2.9	2.5	68.6	25.1	1.3	0.6	1.3	3.2

単位：％

	サンプル数	ウ．女の子は女の子らしく男の子は男の子らしく育てる方がよい						エ．男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい						
		賛成	えどちばら成かとい	えどち反らかとい	反対	わからない	無回答	賛成	えどちばら成かとい	えどち反らかとい	反対	わからない	無回答	
		全体	1,948	24.7	40.9	12.5	7.9	10.0	4.1	1.6	5.0	19.3	46.3	23.3
守るべき仕事、女は家庭を	女性計	1,179	19.1	42.2	14.8	9.3	10.8	3.7	1.7	4.5	19.3	48.1	22.4	4.0
	そう思う計	557	26.2	51.0	8.6	2.5	7.7	3.9	2.9	7.2	20.8	37.2	27.8	4.1
	そう思わない計	603	12.4	34.8	20.9	15.9	13.8	2.2	0.3	1.8	18.2	59.4	17.7	2.5
	男性計	750	33.9	38.5	8.9	5.7	8.7	4.3	1.5	5.9	19.3	43.7	24.4	5.2
	そう思う計	421	42.3	41.6	5.7	1.7	5.9	2.9	1.2	8.6	21.4	38.0	26.8	4.0
	そう思わない計	315	23.8	35.6	13.3	10.8	12.1	4.4	1.9	2.2	16.8	52.4	21.9	4.8

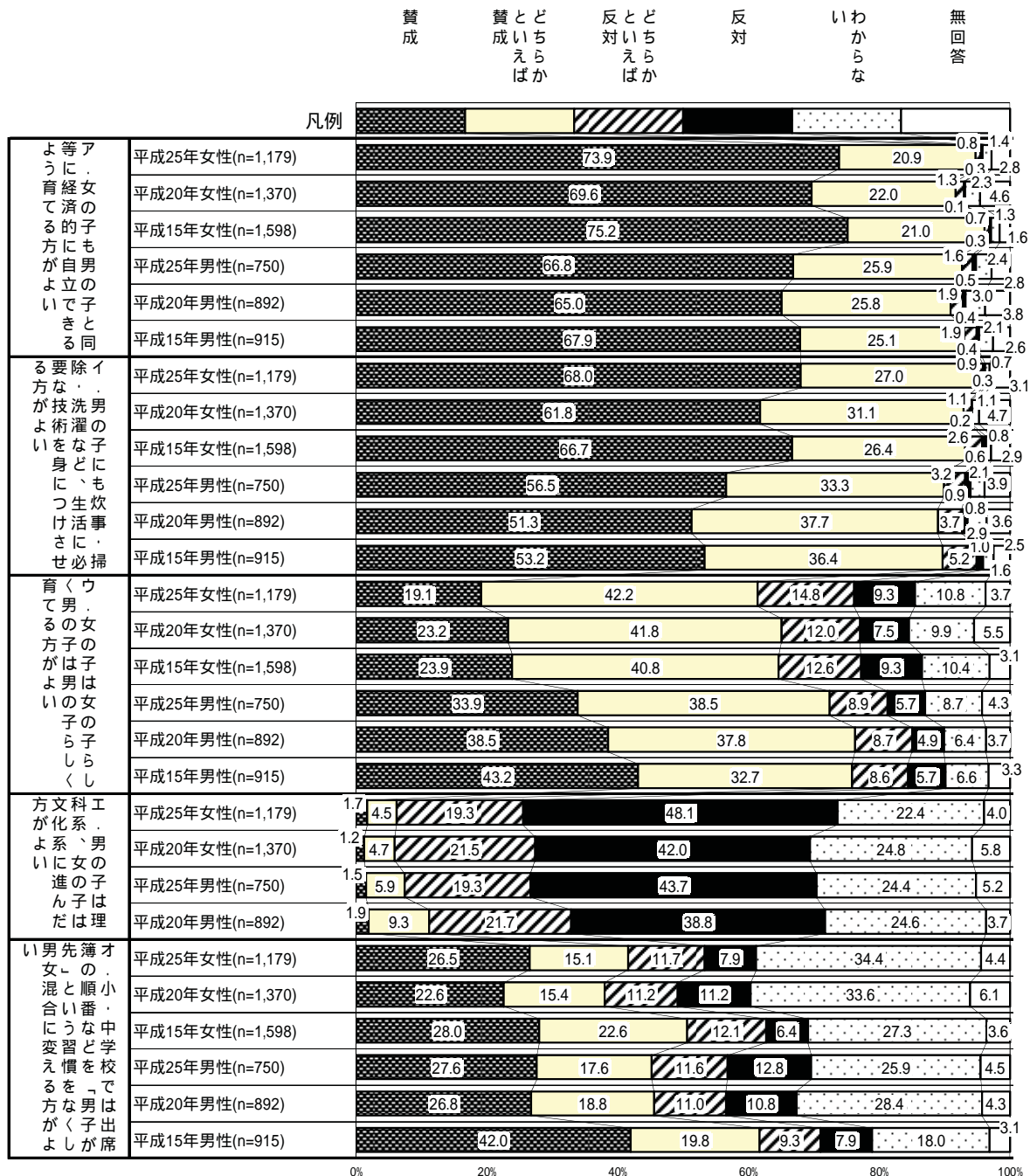
表 子どものしつけや教育についての意識【性・男は仕事、女は家庭を守るべきという意識別】

単位：％

		サ ン プ ル 数	オ・小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい					
			賛 成	え ど ち ら か と い	え ど ち ら か と い	反 対	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,948	26.9	16.0	11.6	9.8	31.2	4.6
守男 るは べ仕 事、 女は う家 庭を 意識 別を	女性計	1,179	26.5	15.1	11.7	7.9	34.4	4.4
	そう思う計	557	22.6	15.1	13.8	10.1	33.2	5.2
	そう思わない計	603	30.2	15.4	9.8	6.1	36.2	2.3
	男性計	750	27.6	17.6	11.6	12.8	25.9	4.5
	そう思う計	421	22.1	19.7	14.0	15.0	26.1	3.1
	そう思わない計	315	35.6	15.2	8.6	9.8	26.3	4.4

平成 15 年調査、平成 20 年調査の結果と比較すると、「ア. 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」、「イ. 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」では、男女ともに『賛成』が大半を占めている傾向は変わっていない。「ウ. 女の子は女の子らしく男の子は男の子らしく育てる方がよい」は、女性の『反対』の割合が平成 15 年、20 年よりも高くなっており、「エ. 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい」についても、女性の『反対』の割合が平成 20 年よりも高くなっている。「オ. 小・中学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい」では、女性は『賛成』、男性は『反対』の割合が、それぞれ平成 20 年よりも高くなっている。

図 子どものしつけや教育についての意識【平成 15 年、20 年調査との比較】



注)「エ. 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい」は平成15年度調査にはない質問

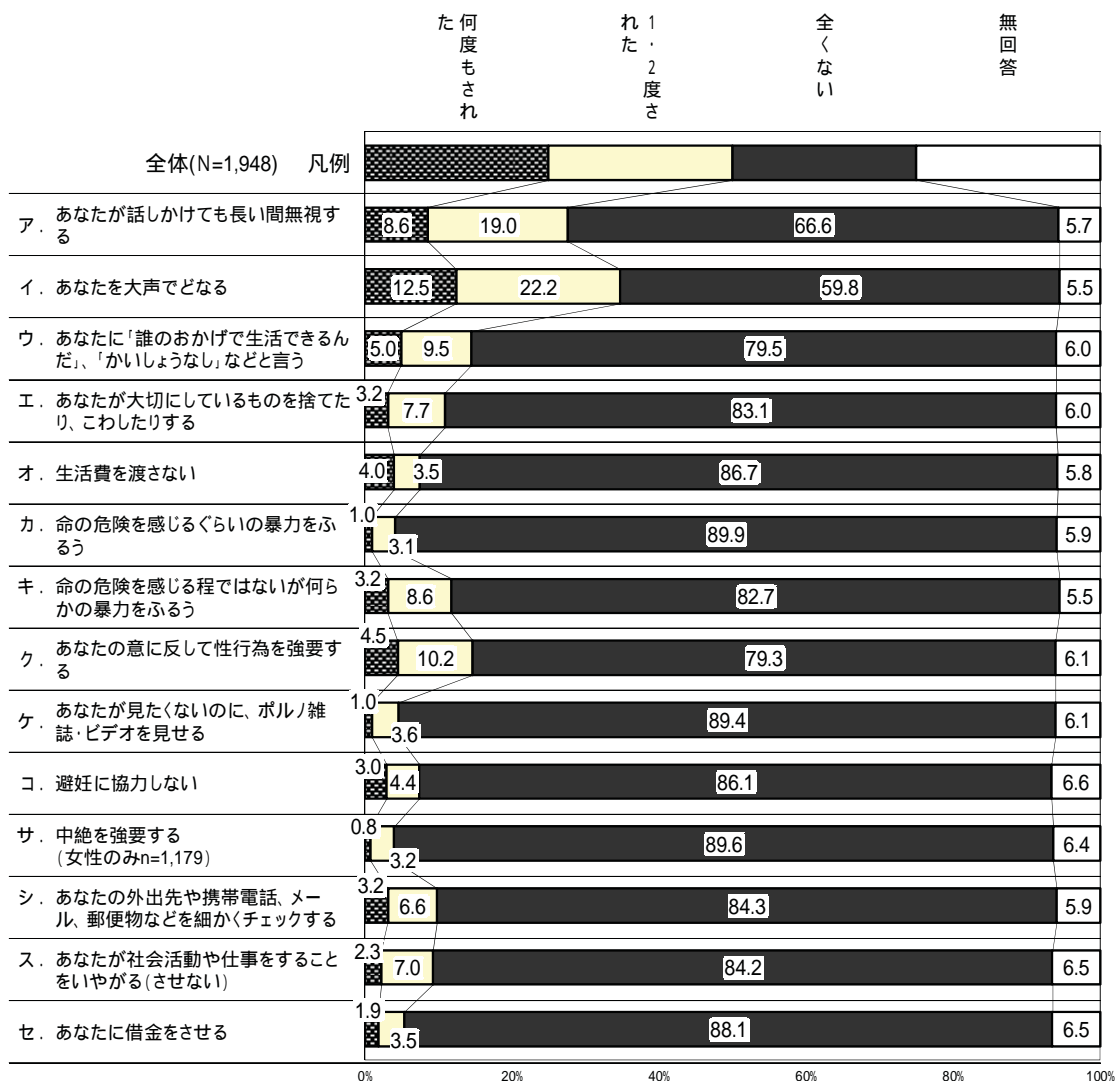
5. 暴力と人権について

(1) 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験

問 12. あなたは恋人、配偶者、パートナーから次のような行為をされたことがありますか。
ア～セまでのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つだけ選び、番号に をつけてください。

恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験について以下の14分野についてそれぞれきいたところ、「**受けた経験がある**」(=「**何度もされた**」+「**1・2度された**」)人の割合が最も高いのは「イ.あなたを大声でどなる」(34.7%)、次いで「ア.あなたが話しかけても長い間無視する」(27.6%)、「ク.あなたの意に反して性行為を強要する」(14.7%)、「ウ.あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしようなし」などと言う」(14.5%)、「キ.命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力をふるう」(11.8%)、「エ.あなたが大切にしているものを捨てたり、こわしたりする」(10.9%)、「シ.外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」(9.8%)、「ス.あなたが社会活動や仕事をするをいやがる(させない)」(9.3%)などの順となっている。

図 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【全体】



①精神的に追い詰めること

恋人、配偶者、パートナーから精神的に追い詰める暴力を『受けた経験がある』(=「何度もされた」+「1・2度された」と答えた人は、「エ. あなたが大切にしているものを捨てたり、こわしたりする」以外はすべて、女性が男性を上回る傾向がみられた。男女で特に差がみられたのは、「イ. あなたを大声でどなる」で、『受けた経験がある』と答えた人の割合が女性 40.4%、男性 26.3%と、女性の方が男性よりも10ポイント以上上回っている。

年代別にみると、「イ. あなたを大声でどなる」は、20代を除いて『受けた経験がある』と答えた人の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、特に60代、70歳以上は女性の方が男性よりも20ポイント以上上回っている。

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(精神的に追い詰めること)【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	ア. 話しかけても長い間無視する				イ. 大声でどなる				ウ. 「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
		全体	1,948	8.6	19.0	66.6	5.7	12.5	22.2	59.8	5.5	5.0	9.5	79.5
性・年代別	女性計	1,179	10.3	18.8	65.7	5.2	16.3	24.1	54.9	4.7	6.5	10.0	78.0	5.4
	20代	104	3.8	9.6	80.8	5.8	11.5	10.6	73.1	4.8	3.8	2.9	88.5	4.8
	30代	200	7.0	18.0	74.5	0.5	17.0	19.5	63.0	0.5	5.5	8.0	85.5	1.0
	40代	198	13.1	19.2	64.6	3.0	18.2	23.7	55.1	3.0	8.6	12.1	76.3	3.0
	50代	200	13.0	19.0	64.5	3.5	19.0	27.0	51.0	3.0	10.0	9.0	78.5	2.5
	60代	273	11.7	25.6	59.0	3.7	15.8	31.5	49.5	3.3	6.2	15.8	74.7	3.3
	70歳以上	200	9.5	15.0	60.0	15.5	14.0	23.0	48.5	14.5	4.0	7.0	70.5	18.5
	男性計	750	6.0	19.6	68.4	6.0	6.8	19.5	67.6	6.1	2.7	8.7	82.4	6.3
	20代	64	4.7	17.2	73.4	4.7	4.7	21.9	68.8	4.7	3.1	7.8	84.4	4.7
	30代	95	5.3	18.9	71.6	4.2	9.5	18.9	68.4	3.2	3.2	7.4	86.3	3.2
	40代	129	9.3	16.3	71.3	3.1	9.3	21.7	65.1	3.9	2.3	8.5	85.3	3.9
	50代	133	10.5	21.8	64.7	3.0	11.3	19.5	66.2	3.0	6.8	10.5	78.2	4.5
	60代	166	4.8	22.9	66.3	6.0	4.8	21.7	68.7	4.8	1.8	11.4	81.3	5.4
70歳以上	160	1.9	17.5	68.1	12.5	2.5	14.4	68.8	14.4	-	5.6	81.3	13.1	

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(精神的に追い詰めること) [性・年代別]

単位：%

	サンプル数	エ．大切にしているものを捨てたり、こわしたりする				オ．生活費を渡さない				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
全体	1,948	3.2	7.7	83.1	6.0	4.0	3.5	86.7	5.8	
性・年代別	女性計	1,179	4.0	7.1	83.6	5.3	5.8	4.7	84.5	5.1
	20代	104	3.8	5.8	85.6	4.8	1.9	4.8	87.5	5.8
	30代	200	4.0	6.5	89.0	0.5	5.5	5.0	89.0	0.5
	40代	198	4.5	6.1	86.4	3.0	8.1	3.5	85.4	3.0
	50代	200	4.5	7.5	85.0	3.0	8.0	4.5	84.5	3.0
	60代	273	4.4	8.4	83.5	3.7	4.0	7.0	85.7	3.3
	70歳以上	200	2.5	7.5	73.0	17.0	5.5	2.5	76.0	16.0
	男性計	750	2.1	8.7	82.8	6.4	1.2	1.9	90.7	6.3
	20代	64	3.1	4.7	87.5	4.7	-	3.1	92.2	4.7
	30代	95	1.1	10.5	85.3	3.2	-	3.2	94.7	2.1
	40代	129	1.6	10.9	82.9	4.7	0.8	1.6	93.0	4.7
	50代	133	4.5	10.5	82.0	3.0	3.0	3.8	90.2	3.0
	60代	166	1.2	6.6	87.3	4.8	2.4	0.6	92.2	4.8
70歳以上	160	1.9	7.5	75.6	15.0	-	0.6	84.4	15.0	

身体への直接の攻撃等

恋人、配偶者、パートナーから身体への直接の攻撃等の暴力を『受けた経験がある』と答えた人は、いずれも女性が男性を上回る傾向がみられた。

年代別にみると、「キ・命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力をふるう」は、『受けた経験がある』と答えた人の割合は女性の方が男性よりも高く、70歳以上は女性の方が男性よりも10ポイント以上上回っている。「カ・命の危険を感じるぐらいの暴力をふるう」も、割合は低いものの『受けた経験がある』と答えた人の割合はいずれも女性の方が男性よりも高くなっている。

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(身体への直接の攻撃等)【性・年代別】

単位：％

	サンプル数	カ・命の危険を感じるぐらいの暴力をふるう				キ・命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力をふるう				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
全体	1,948	1.0	3.1	89.9	5.9	3.2	8.6	82.7	5.5	
性・年代別	女性計	1,179	1.4	4.2	88.8	5.7	4.4	10.9	79.9	4.7
	20代	104	2.9	1.9	90.4	4.8	4.8	6.7	83.7	4.8
	30代	200	2.0	2.5	95.0	0.5	3.0	13.5	83.0	0.5
	40代	198	0.5	3.0	93.9	2.5	4.0	10.1	83.3	2.5
	50代	200	2.0	4.0	90.5	3.5	6.5	9.0	82.0	2.5
	60代	273	0.4	5.5	88.6	5.5	4.0	11.7	79.9	4.4
	70歳以上	200	1.0	6.5	75.5	17.0	4.0	12.5	69.5	14.0
	男性計	750	0.5	1.6	92.3	5.6	1.3	4.8	87.7	6.1
	20代	64	1.6	1.6	92.2	4.7	4.7	4.7	85.9	4.7
	30代	95	-	2.1	93.7	4.2	2.1	7.4	85.3	5.3
	40代	129	0.8	1.6	93.8	3.9	-	2.3	93.0	4.7
	50代	133	0.8	0.8	95.5	3.0	2.3	3.0	91.0	3.8
	60代	166	0.6	2.4	92.2	4.8	1.2	6.6	88.6	3.6
70歳以上	160	-	1.3	87.5	11.3	-	5.0	81.9	13.1	

性に関すること

恋人、配偶者、パートナーから性に関する暴力を『受けた経験がある』と答えた人は、いずれも女性が男性を上回る傾向がみられた。男女で特に差がみられたのは、「ク.意に反して性行為を強要する」で、『受けた経験がある』と答えた人の割合が女性 20.8%、男性 5.2%と、女性の方が男性よりも約 16 ポイント上回っている。

年代別にみると、いずれも『受けた経験がある』と答えた人の割合は女性の方が男性よりも高くなっている。特に、「ク.意に反して性行為を強要する」は女性の 50 代、60 代で『受けた経験がある』と答えた人が 2 割を超えて高くなっているほか、70 歳以上も『受けた経験がある』人が 18.5%と高くなっている。

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(性に関すること)【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	ク.意に反して性行為を強要する				ケ.見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる				コ.避妊に協力しない				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
全体	1,948	4.5	10.2	79.3	6.1	1.0	3.6	89.4	6.1	3.0	4.4	86.1	6.6	
性・年代別	女性計	1,179	6.6	14.2	73.5	5.8	1.4	5.3	88.0	5.3	4.6	5.9	83.8	5.8
	20代	104	1.9	13.5	79.8	4.8	-	2.9	92.3	4.8	4.8	8.7	81.7	4.8
	30代	200	6.5	9.0	83.5	1.0	1.5	2.0	96.0	0.5	8.0	5.5	86.0	0.5
	40代	198	6.6	9.6	80.8	3.0	1.0	4.5	91.9	2.5	5.1	5.6	86.9	2.5
	50代	200	9.0	17.5	70.0	3.5	3.0	8.5	85.0	3.5	5.5	4.5	86.5	3.5
	60代	273	7.3	20.1	68.1	4.4	1.8	5.9	87.9	4.4	2.2	8.1	85.3	4.4
	70歳以上	200	6.0	12.5	63.5	18.0	0.5	6.5	76.5	16.5	3.0	3.5	74.5	19.0
	男性計	750	1.1	4.1	89.1	5.7	0.3	1.1	92.3	6.4	0.5	2.1	90.4	6.9
	20代	64	4.7	6.3	84.4	4.7	1.6	3.1	90.6	4.7	3.1	4.7	87.5	4.7
	30代	95	-	2.1	93.7	4.2	-	-	95.8	4.2	-	1.1	95.8	3.2
	40代	129	0.8	2.3	92.2	4.7	-	0.8	95.3	3.9	-	3.1	93.0	3.9
	50代	133	0.8	3.8	91.7	3.8	-	-	96.2	3.8	-	2.3	94.0	3.8
	60代	166	1.2	4.8	90.4	3.6	0.6	3.0	91.6	4.8	1.2	1.8	90.4	6.6
70歳以上	160	0.6	5.6	81.9	11.9	-	-	85.6	14.4	-	1.3	83.1	15.6	

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(性に関すること) [性・年代別]

単位：%

	サンプル数	サ・中絶を強要する				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
全 体	1,179	0.8	3.2	89.6	6.4	
性・年代別	女性計	1,179	0.8	3.2	89.6	6.4
	20 代	104	-	1.9	92.3	5.8
	30 代	200	0.5	1.5	97.5	0.5
	40 代	198	1.5	2.5	92.9	3.0
	50 代	200	1.0	2.5	91.0	5.5
	60 代	273	0.7	4.8	88.6	5.9
	70歳以上	200	-	5.0	77.0	18.0
	男性計	-	-	-	-	-
	20 代	-	-	-	-	-
	30 代	-	-	-	-	-
	40 代	-	-	-	-	-
	50 代	-	-	-	-	-
	60 代	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-

その他、行動の束縛など

恋人、配偶者、パートナーから行動の束縛などの暴力を『受けた経験がある』と答えた人は、「ス．社会活動や仕事をするをいやがる(させない)」、「セ．借金をさせる」は女性が男性を上回る傾向がみられたが、「シ．外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」は『受けた経験がある』と答えた人の割合が女性 10.4%、男性 9.2%と、ほぼ同程度となっている。

年代別にみると、「ス．社会活動や仕事をするをいやがる(させない)」は女性の50代、60代で『受けた経験がある』と答えた人が男性よりも10ポイント以上上回っている。一方、「シ．外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」は男性の20代、30代で『受けた経験がある』人の割合が女性よりも高くなっている。

表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験(その他、行動の束縛など)【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	シ．外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする				ス．社会活動や仕事をするをいやがる(させない)				セ．借金をさせる				
		何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	た1・2度された	全くない	無回答	
全体	1,948	3.2	6.6	84.3	5.9	2.3	7.0	84.2	6.5	1.9	3.5	88.1	6.5	
性・年代別	女性計	1,179	3.3	7.1	84.3	5.3	3.1	9.2	82.0	5.7	2.7	4.7	86.9	5.7
	20代	104	5.8	5.8	83.7	4.8	2.9	6.7	85.6	4.8	1.0	1.0	93.3	4.8
	30代	200	5.0	5.5	89.0	0.5	2.5	8.0	88.5	1.0	3.5	3.5	91.5	1.5
	40代	198	3.0	7.1	86.9	3.0	4.5	8.1	83.8	3.5	4.0	3.5	89.4	3.0
	50代	200	4.5	8.5	84.0	3.0	4.5	12.0	81.0	2.5	3.5	6.0	87.0	3.5
	60代	273	2.2	7.7	86.4	3.7	2.6	10.6	82.8	4.0	1.5	7.7	87.2	3.7
	70歳以上	200	1.0	7.0	75.0	17.0	2.0	8.0	71.5	18.5	2.0	4.0	76.0	18.0
	男性計	750	3.2	6.0	84.8	6.0	1.1	3.7	88.3	6.9	0.7	1.6	90.8	6.9
	20代	64	6.3	9.4	79.7	4.7	3.1	3.1	89.1	4.7	-	1.6	93.8	4.7
	30代	95	4.2	12.6	78.9	4.2	1.1	3.2	91.6	4.2	-	-	95.8	4.2
	40代	129	1.6	7.0	88.4	3.1	0.8	6.2	89.1	3.9	1.6	0.8	93.0	4.7
50代	133	3.0	4.5	89.5	3.0	2.3	1.5	92.5	3.8	0.8	3.8	91.7	3.8	
60代	166	2.4	5.4	86.7	5.4	0.6	3.0	89.8	6.6	1.2	0.6	91.6	6.6	
70歳以上	160	3.8	1.9	81.3	13.1	-	5.0	80.0	15.0	-	2.5	83.1	14.4	

平成 20 年調査の結果と比較すると、「ア. あなたが話しかけても長い間無視する」、「イ. あなたを大声でどなる」、「ウ. あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしようなし」などと言う」、「エ. あなたが大切にしているものを捨てたり、こわしたりする」、「オ. 生活費を渡さない」、「キ. 命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力をふるう」、「ク. 意に反して性行為を強要する」は、女性の『受けた経験がある』(=「何度もされた」+「1・2度された」)と答えた人の割合が平成 20 年よりも高くなっている。

図 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【平成 20 年調査との比較】

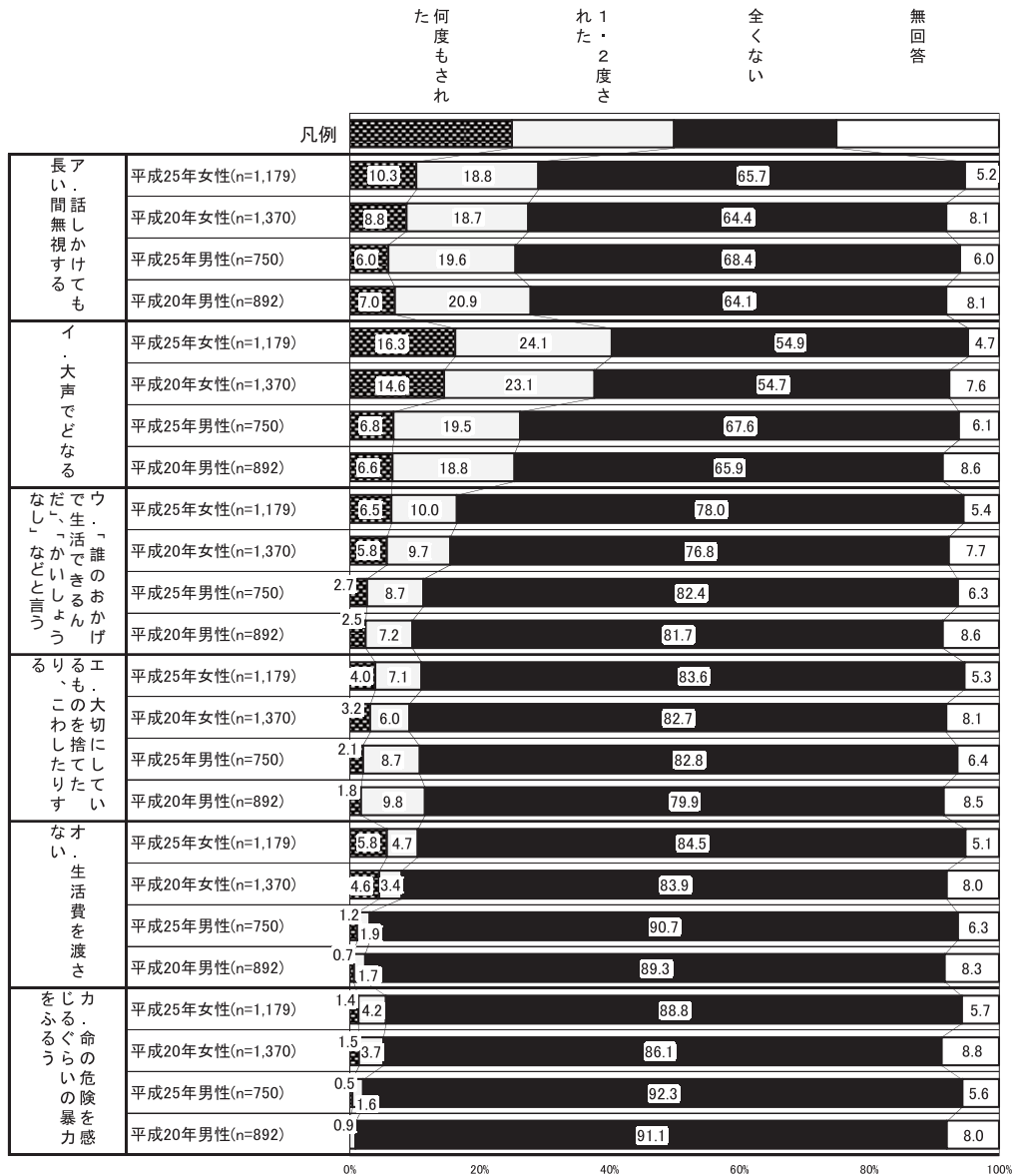


図 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【平成 20 年調査との比較】



注)「サ. 中絶を強要する」のは女性のみの質問

(2) 暴力を受けた際に考えたこと

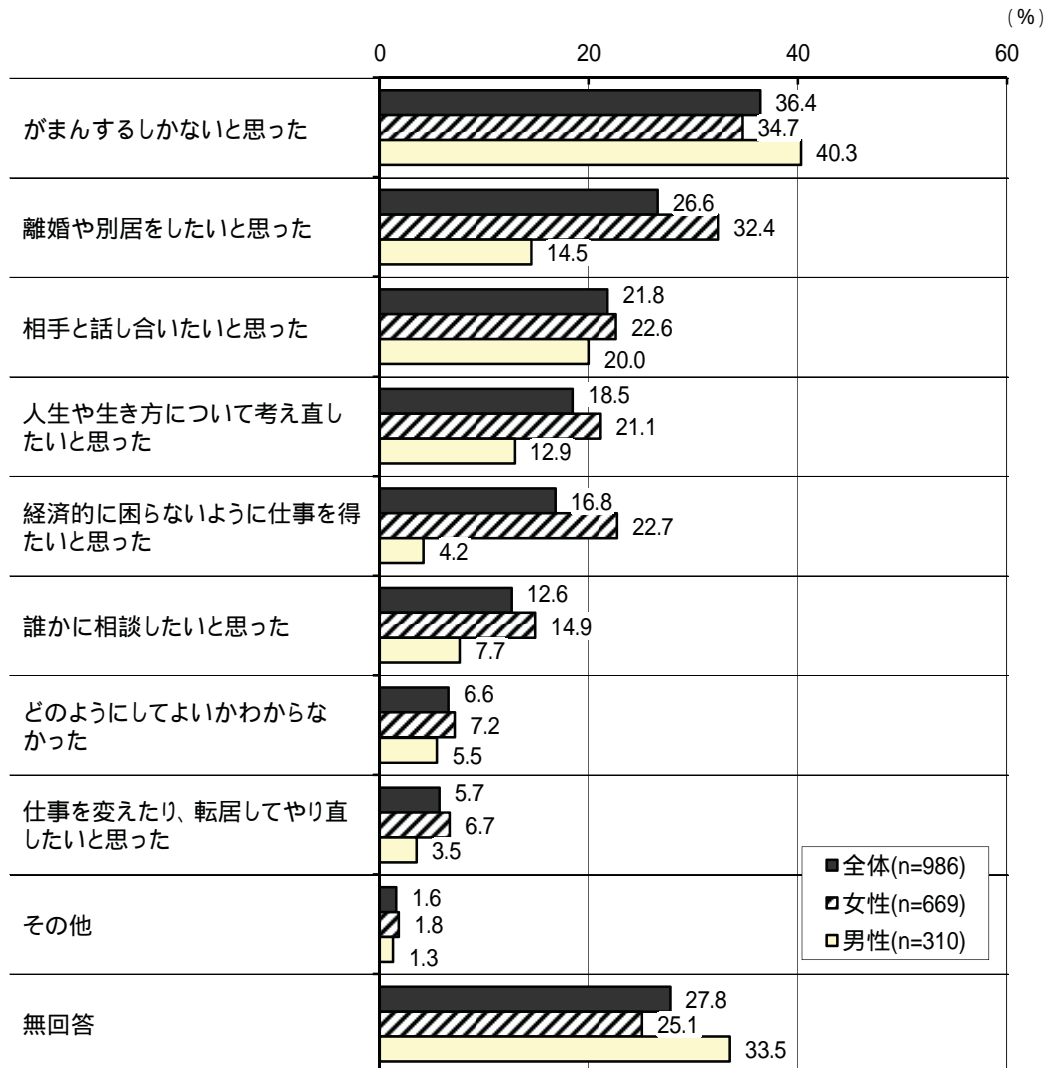
【問12で1つでも行為をされたと答えた方のみ】

問13. あなたは問12における行為をされたとき、どのようにしたいと思いましたか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

暴力を受けた際に考えたことについてみると、全体では「がまんするしかないと思った」(36.4%)の割合が最も多くなっている。

性別にみると、女性は「がまんするしかないと思った」(34.7%)の割合が最も多く、次いで「離婚や別居をしたいと思った」(32.4%)の順で、「離婚や別居をしたいと思った」は男性に比べて約18ポイント上回っている。また、「経済的に困らないように仕事を働きたいと思った」(22.7%)も男性に比べて約19ポイント上回っており、男性との意識の差が大きい。一方、男性も「がまんするしかないと思った」(40.3%)の割合が最も多く、女性よりも約6ポイント上回っている。次いで多いのは「相手と話し合いたいと思った」(20.0%)で、女性と順位が異なる。

図 暴力を受けた際に考えたこと【性別】



年代別にみると、女性の 20 代は「相手と話し合いあと思った」(39.1%)が最も多く、30～50 代は「離婚や別居をしたいと思った」、60 代以上は「がまんするしかないと思った」が最も多くなっている。一方、男性はいずれの年代も「がまんするしかないと思った」が最も多くなっている。なお、男性 30 代は「相手と話し合いあと思った」(27.3%)の割合が「がまんするしかないと思った」と同率となっている。

表 暴力を受けた際に考えたこと【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	いがまんするしかない	離婚や別居を考えた	相手と話し合いあと思った	人生活き方について考えた	経済的に仕事を不得たいように思った	誰かに相談したいと思った	たかのよからなかつよ	た転居してやり直した	仕事を変えたり、	その他	無回答
全体	986	36.4	26.6	21.8	18.5	16.8	12.6	6.6	5.7	1.6	27.8	
性・年代別	女性計	669	34.7	32.4	22.6	21.1	22.7	14.9	7.2	6.7	1.8	25.1
	20 代	46	23.9	10.9	39.1	6.5	13.0	23.9	10.9	-	2.2	30.4
	30 代	112	21.4	28.6	26.8	17.9	19.6	17.0	8.9	12.5	1.8	27.7
	40 代	111	37.8	39.6	26.1	25.2	27.9	17.1	8.1	9.0	0.9	23.4
	50 代	120	34.2	37.5	21.7	27.5	24.2	20.0	10.0	10.8	3.3	24.2
	60 代	172	39.0	32.0	19.2	20.3	27.3	8.7	2.3	2.3	1.7	22.1
	70歳以上	106	43.4	33.0	14.2	19.8	15.1	11.3	7.5	3.8	0.9	27.4
	男性計	310	40.3	14.5	20.0	12.9	4.2	7.7	5.5	3.5	1.3	33.5
	20 代	28	35.7	7.1	17.9	3.6	3.6	3.6	3.6	-	-	42.9
	30 代	44	27.3	13.6	27.3	11.4	2.3	11.4	4.5	2.3	4.5	29.5
	40 代	52	48.1	15.4	30.8	17.3	3.8	13.5	3.8	7.7	1.9	30.8
	50 代	58	37.9	17.2	15.5	10.3	-	8.6	8.6	1.7	1.7	39.7
	60 代	72	38.9	13.9	16.7	18.1	4.2	2.8	8.3	5.6	-	31.9
70歳以上	54	51.9	16.7	14.8	11.1	11.1	7.4	1.9	1.9	-	27.8	

配偶関係別にみると、女性では、「がまんするしかないと思った」が最も多いのは未婚者(ただし「相手と話し合いたいと思った」と同率)、共働きでない既婚者(39.7%)、死別者(37.5%)で、「離婚や別居をしたいと思った」が最も多いのは共働き既婚者(33.1%)、離婚者(69.5%)となっている。一方、男性はいずれも「がまんするしかないと思った」が最も多くなっている。

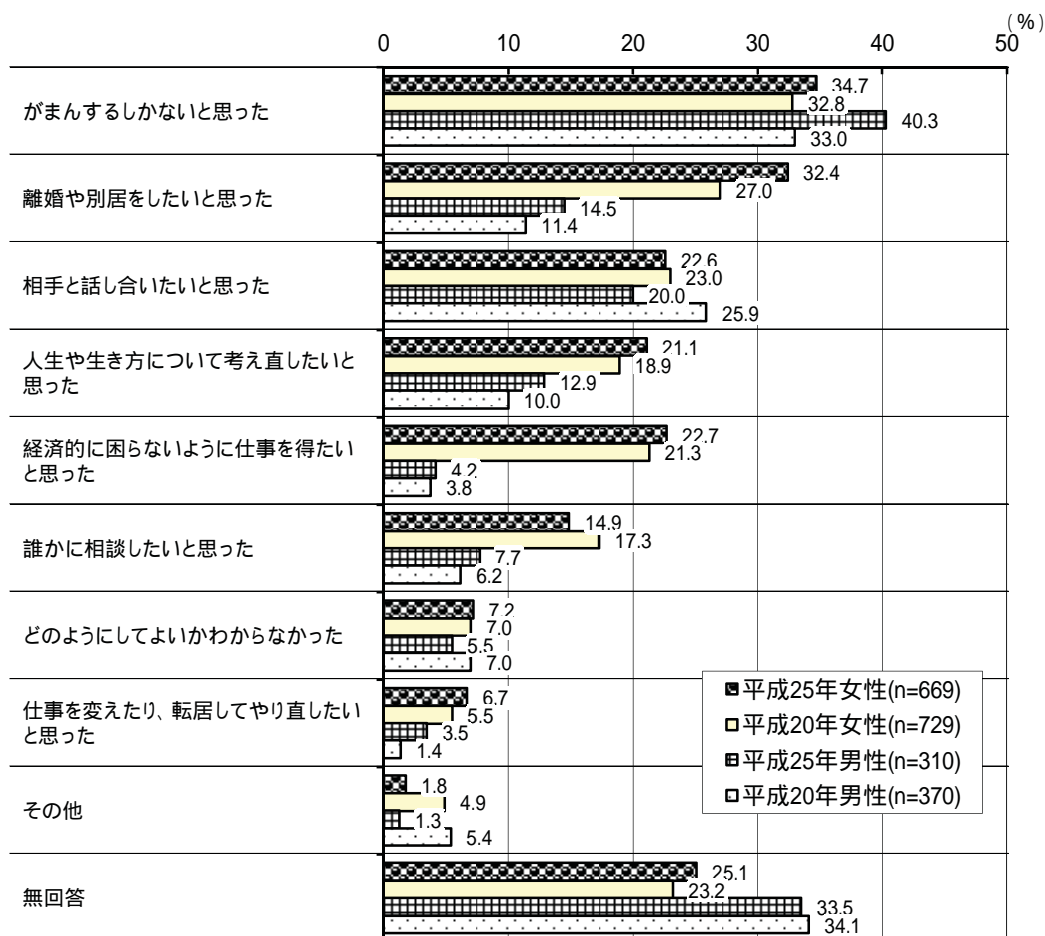
表 暴力を受けた際に考えたこと〔性・配偶関係別〕

単位：%

		サンプル数	いがまんするしかない	離婚や別居をした	相手と話し合いた	人生や生き方について考えた	経済的に仕事をもらえないと思った	誰かに相談したい	たかかわらなかつた	どのようになつた	転居してやり直し	仕事をえたり直し	その他	無回答
全体		986	36.4	26.6	21.8	18.5	16.8	12.6	6.6	5.7	1.6	27.8		
性・配偶関係別	女性計	669	34.7	32.4	22.6	21.1	22.7	14.9	7.2	6.7	1.8	25.1		
	未婚	95	26.3	9.5	26.3	10.5	8.4	14.7	8.4	5.3	1.1	31.6		
	既婚(共働きである)	178	28.7	33.1	19.7	24.2	25.8	13.5	5.1	7.9	3.9	29.2		
	既婚(共働きでない)	239	39.7	26.8	23.0	14.2	20.9	13.0	7.5	3.3	1.7	25.5		
	離婚	95	42.1	69.5	28.4	40.0	33.7	25.3	9.5	17.9	-	6.3		
	死別	48	37.5	31.3	16.7	27.1	20.8	14.6	8.3	2.1	-	29.2		
	男性計	310	40.3	14.5	20.0	12.9	4.2	7.7	5.5	3.5	1.3	33.5		
	未婚	49	36.7	12.2	28.6	10.2	4.1	12.2	10.2	6.1	-	32.7		
	既婚(共働きである)	85	34.1	18.8	21.2	15.3	3.5	5.9	1.2	4.7	-	40.0		
	既婚(共働きでない)	150	45.3	11.3	18.7	12.0	4.0	7.3	6.7	1.3	2.7	28.7		
離婚	21	38.1	19.0	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	9.5	-	42.9			
死別	4	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0			

平成20年調査の結果と比較すると、「がまんするしかないと思った」の割合が最も多くなっている傾向は変わっていないものの、女性は「離婚や別居をしたいと思った」の割合が平成20年から約5ポイント増加している。一方、男性は「がまんするしかないと思った」の割合が平成20年から約7ポイント増加しているほか、「相手と話し合いたいと思った」が平成20年から約6ポイント減少している。

図 暴力を受けた際に考えたこと[平成20年調査との比較]



(3) 暴力を受けた際に実際に取った行動

【問12で1つでも行為をされたと答えた方のみ】

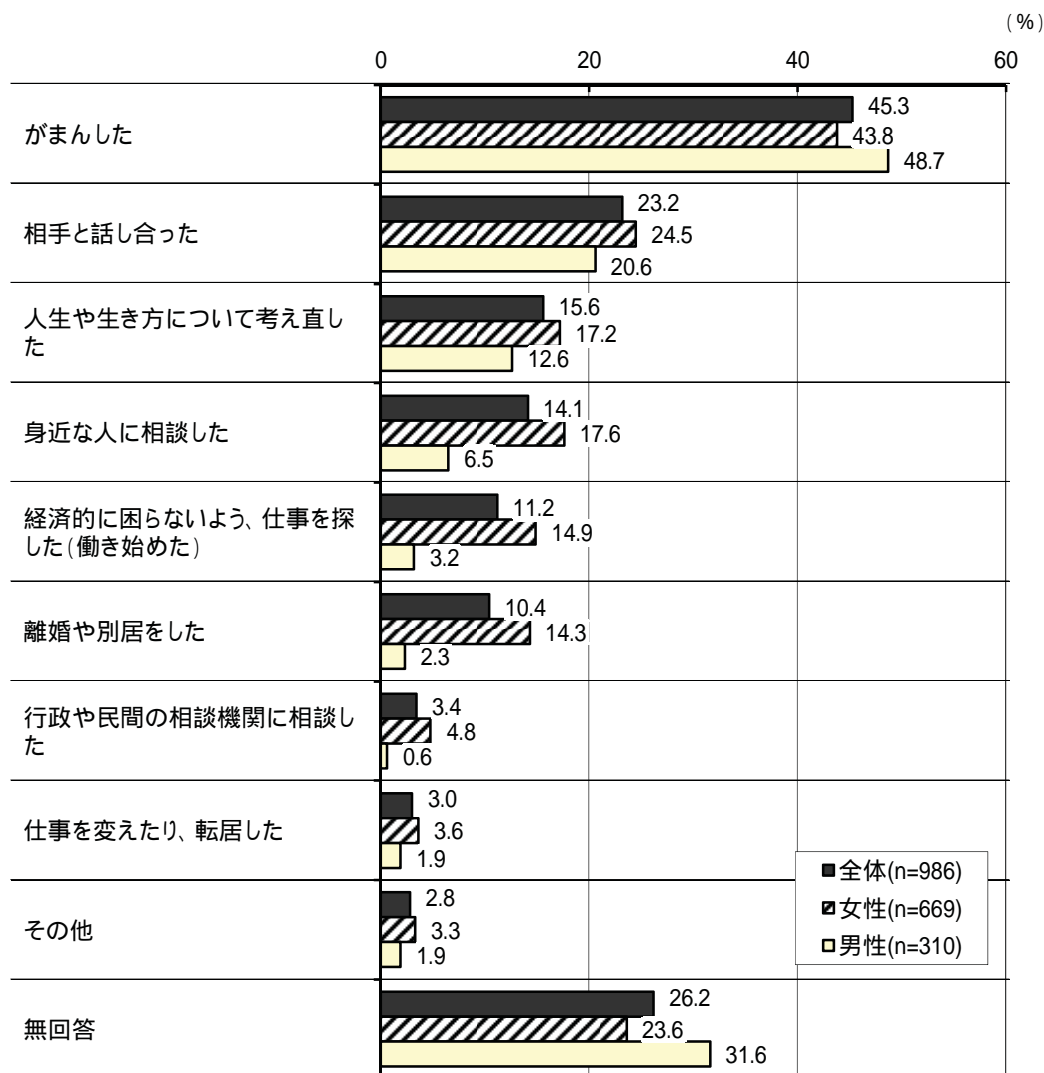
問14. 問13のように思って、実際には、どのように行動しましたか。あてはまるものをすべて選び、番号にをつけてください。

暴力を受けた際に実際に取った行動について性別にみると、男女ともに「がまんした」(女性43.8%、男性48.7%)の割合が最も高く、次いで「相手と話し合った」(女性24.5%、男性20.6%)の順となっている。

また、「身近な人に相談した」では、女性が17.6%に対して、男性が6.5%となっており、男性は女性に比べ、誰かに相談するのではなく、相手と話し合う傾向が強い。一方、女性は「離婚や別居をした」(14.3%)や「経済的に困らないよう、仕事を探した(働き始めた)」(14.9%)が男性よりも10ポイント以上高くなっており、恋人、配偶者、パートナーから離れて自立する傾向は女性の方が男性よりも強い。

なお、相談先としては、男女ともに行政や民間の相談機関よりも、身近な人の方が多くなっている。

図 暴力を受けた際に実際に取った行動【性別】



年代別にみると、いずれの年代も「がまんした」人の割合が最も多くなっている。なお、「相手と話し合った」人は女性の20～40代、および男性30代、40代で3割程度みられる。また、「離婚や別居をした」人は女性40代、50代で2割みられ、他の年代よりも高くなっている。

表 暴力を受けた際に実際に取った行動【性・年代別】

単位：％

		サンプル数	がまんした	相手と話し合った	いんてんや生き方について考えた	身近な人に相談した	よう、経済的に困らない（働き始めた）	離婚や別居をした	機関や民間の相談	転居した	仕事をえたり、	その他	無回答
全体		986	45.3	23.2	15.6	14.1	11.2	10.4	3.4	3.0	2.8	26.2	
性・年代別	女性計	669	43.8	24.5	17.2	17.6	14.9	14.3	4.8	3.6	3.3	23.6	
	20代	46	30.4	30.4	4.3	21.7	-	10.9	2.2	-	2.2	30.4	
	30代	112	34.8	34.8	10.7	17.0	5.4	9.8	4.5	8.0	3.6	25.0	
	40代	111	42.3	31.5	26.1	25.2	20.7	24.3	4.5	5.4	1.8	22.5	
	50代	120	46.7	23.3	19.2	20.8	19.2	20.0	7.5	6.7	4.2	20.8	
	60代	172	48.3	22.1	18.0	14.5	18.0	11.6	3.5	0.6	4.1	20.3	
	70歳以上	106	50.0	9.4	16.0	9.4	15.1	8.5	5.7	-	2.8	28.3	
	男性計	310	48.7	20.6	12.6	6.5	3.2	2.3	0.6	1.9	1.9	31.6	
	20代	28	39.3	14.3	3.6	7.1	-	-	3.6	-	3.6	39.3	
	30代	44	40.9	38.6	6.8	11.4	-	4.5	-	2.3	4.5	25.0	
	40代	52	55.8	30.8	11.5	9.6	3.8	1.9	-	1.9	-	28.8	
	50代	58	44.8	12.1	13.8	5.2	-	1.7	-	-	5.2	39.7	
	60代	72	54.2	15.3	18.1	1.4	4.2	2.8	1.4	5.6	-	30.6	
70歳以上	54	51.9	16.7	14.8	7.4	9.3	1.9	-	-	-	25.9		

配偶関係別にみると、女性は離婚者で「離婚や別居をした」(71.6%)人の割合が最も多くなっている
 以外は、「がまんした」が最も多くなっている。一方、男性はいずれも「がまんした」人の割合が最も多
 くなっている。

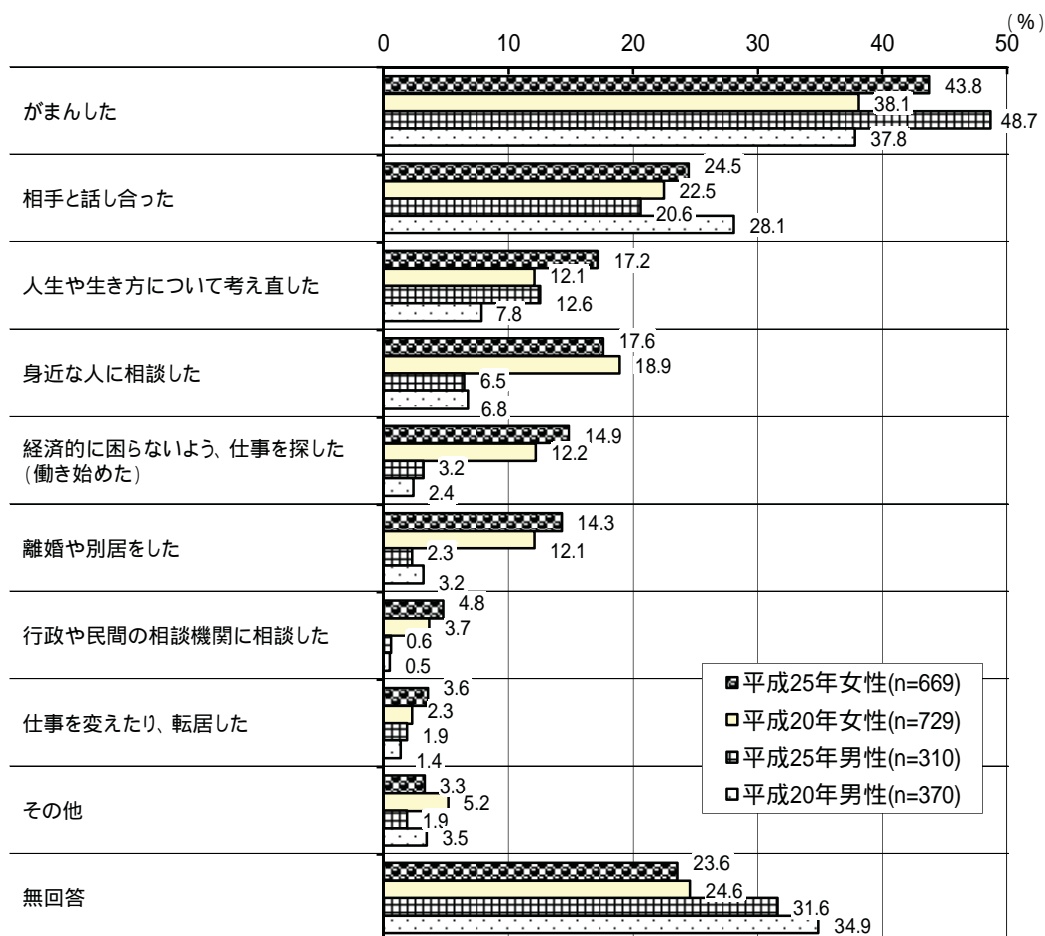
表 暴力を受けた際に実際に取った行動【性・配偶関係別】

単位：%

		サ ン プ ル 数	が ま ん し た	相 手 と 話 し 合 っ た	い ん し や え ま し 方 に つ	た 身 近 な 人 に 相 談 し	た よ う 、 （ 働 き 始 め た ）	経 済 的 に 困 ら な い 仕 事 を 探 し	離 婚 や 別 居 を し た	機 関 に や 民 間 の 相 談 し た	転 居 し た 仕 事 を 変 え た り、	そ の 他	無 回 答
全 体		986	45.3	23.2	15.6	14.1	11.2	10.4	3.4	3.0	2.8	26.2	
性・ 配 偶 関 係 別	女性計	669	43.8	24.5	17.2	17.6	14.9	14.3	4.8	3.6	3.3	23.6	
	未 婚	95	31.6	24.2	11.6	14.7	1.1	12.6	1.1	4.2	2.1	30.5	
	既婚（共働きである）	178	47.2	25.8	20.8	18.5	13.5	4.5	2.2	2.2	5.6	24.2	
	既婚（共働きでない）	239	50.2	25.1	10.9	16.7	11.3	1.7	2.5	1.3	2.9	26.4	
	離 婚	95	34.7	23.2	30.5	24.2	37.9	71.6	17.9	11.6	3.2	5.3	
	死 別	48	45.8	20.8	16.7	12.5	14.6	4.2	6.3	2.1	-	29.2	
	男性計	310	48.7	20.6	12.6	6.5	3.2	2.3	0.6	1.9	1.9	31.6	
	未 婚	49	42.9	22.4	4.1	14.3	2.0	-	2.0	-	2.0	30.6	
	既婚（共働きである）	85	47.1	22.4	15.3	3.5	3.5	-	-	2.4	1.2	38.8	
	既婚（共働きでない）	150	52.7	21.3	13.3	6.0	3.3	-	0.7	0.7	2.7	26.0	
離 婚	21	42.9	9.5	19.0	4.8	4.8	23.8	-	14.3	-	42.9		
死 別	4	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	25.0		

平成 20 年調査の結果と比較すると、「がまんした」人の割合が最も多くなっている傾向は変わっていないものの、男女ともに平成 20 年から増加している。なお、女性は「人生や生き方について考えなおした」の割合が平成 20 年から約 5 ポイント増加している。一方、男性は「相手と話し合った」が平成 20 年から約 8 ポイント減少している。

図 暴力を受けた際に実際に取った行動[平成 20 年調査との比較]



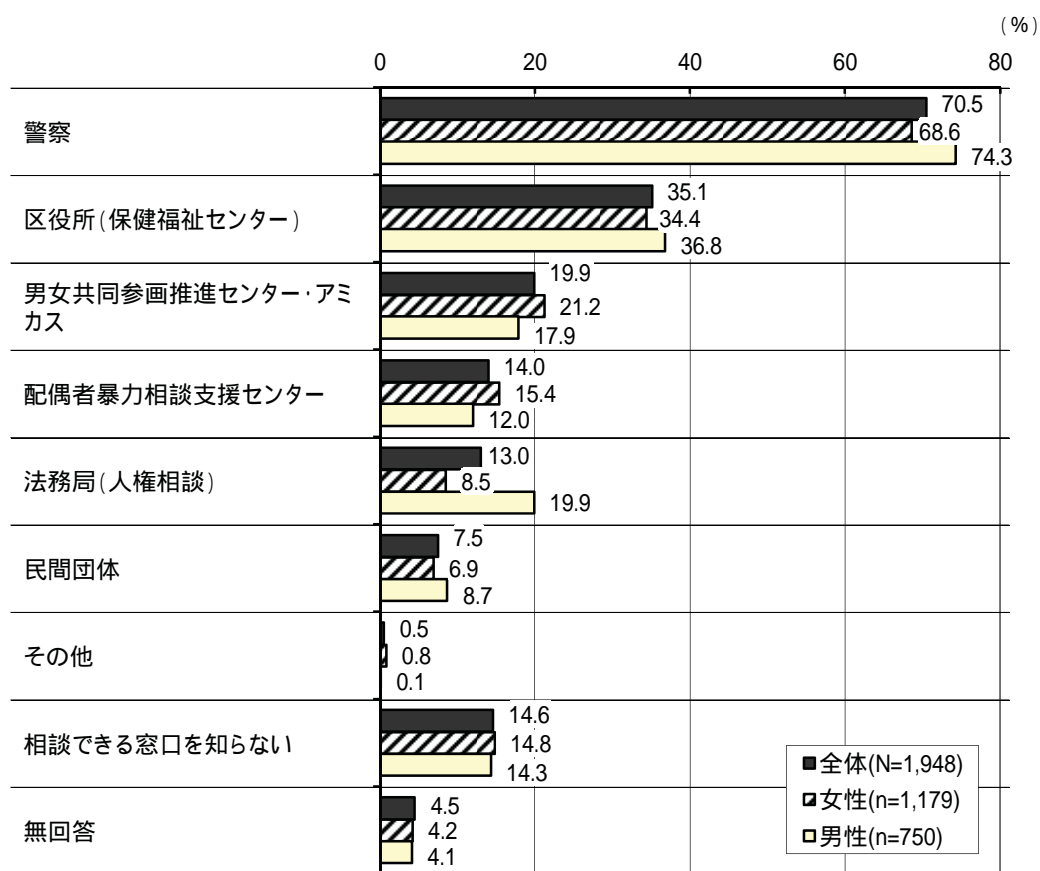
(4) 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について相談できる窓口

問15. あなたは恋人、配偶者、パートナーからの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。あてはまるものをすべて選び、番号につけてください。

恋人、配偶者、パートナーからの暴力について相談できる窓口の認知についてみると、全体では「警察」(70.5%)の割合が最も多く、次いで「区役所(保健福祉センター)」(35.1%)、「男女共同参画推進センター・アミカス」(19.9%)の順となっている。

性別にみると、男女いずれも「警察」の割合が最も多く、他に比べて抜きん出ている。

図 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について相談できる窓口【性別】



年代別にみると、いずれの年代も「警察」の割合が最も多く、他に比べて抜きん出ている。なお、40代は男女いずれも「区役所(保健福祉センター)」の割合が4割と、他の年代に比べて高くなっているほか、男性の50代以上は「法務局(人権相談)」の割合が2割を超えて高くなっている。

表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について相談できる窓口【性・年代別】

単位：%

		サンプル数	警察	区役所(保健福祉センター)	セ男女 スセ ンタ ー 共 同 参 画 推 力 進	援配 セ偶 ン者 タ暴 ー力 相 談 支	談法)務 (局 人 権 相 談)	民間 団 体	その他	相 談 で き る 窓 口 を 知 ら な い	無 回 答
全 体		1,948	70.5	35.1	19.9	14.0	13.0	7.5	0.5	14.6	4.5
性・ 年 代 別	女性計	1,179	68.6	34.4	21.2	15.4	8.5	6.9	0.8	14.8	4.2
	20代	104	74.0	32.7	14.4	15.4	2.9	6.7	1.0	15.4	1.9
	30代	200	75.5	32.5	17.5	16.0	1.5	6.5	1.0	15.0	-
	40代	198	76.3	40.9	29.8	18.2	7.1	8.6	-	11.1	2.5
	50代	200	76.5	37.0	25.0	16.5	10.5	11.0	2.0	10.0	2.5
	60代	273	67.0	32.2	22.3	13.2	11.4	4.8	-	16.1	3.3
	70歳以上	200	45.0	30.5	14.5	13.5	14.0	4.0	1.0	21.5	14.0
	男性計	750	74.3	36.8	17.9	12.0	19.9	8.7	0.1	14.3	4.1
	20代	64	75.0	39.1	10.9	9.4	10.9	12.5	-	18.8	3.1
	30代	95	70.5	27.4	14.7	6.3	7.4	8.4	-	18.9	1.1
	40代	129	80.6	41.1	17.8	10.1	13.2	10.1	0.8	10.9	2.3
	50代	133	76.7	39.8	21.1	15.0	23.3	11.3	-	13.5	3.0
	60代	166	78.9	34.9	14.5	10.2	27.1	6.0	-	12.7	4.2
70歳以上	160	63.8	37.5	22.5	16.9	25.6	6.3	-	15.0	8.8	

配偶関係別にみると、いずれも「警察」の割合が最も多く、他に比べて抜きん出ている。なお、男性の離婚者は「区役所(保健福祉センター)」が50.0%と、他に比べて高くなっている

表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について相談できる窓口【性・配偶関係別】

単位：%

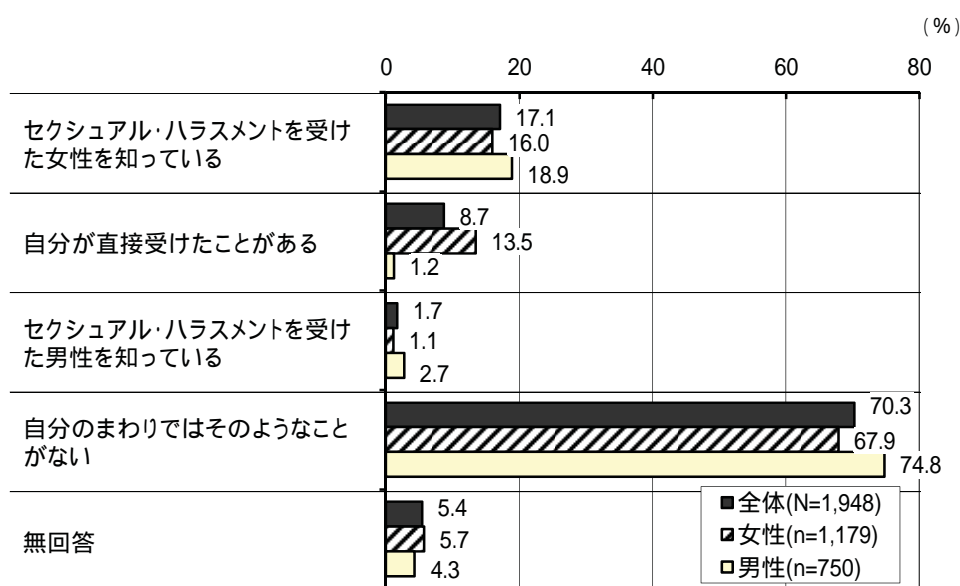
		サンプル数	警察	区役所(保健福祉センター)	男女共同参画推進センター	配偶者暴力相談支援センター	談法務局(人権相談)	民間団体	その他	相談できない窓口を	無回答
全体		1,948	70.5	35.1	19.9	14.0	13.0	7.5	0.5	14.6	4.5
性・配偶関係別	女性計	1,179	68.6	34.4	21.2	15.4	8.5	6.9	0.8	14.8	4.2
	未婚	217	75.6	30.4	18.4	14.7	5.5	6.9	0.9	15.7	0.5
	既婚(共働きである)	303	76.9	38.9	26.4	19.5	7.6	8.6	0.7	10.6	1.7
	既婚(共働きでない)	424	66.5	34.0	20.3	13.7	10.6	6.1	0.5	15.3	6.4
	離婚	119	59.7	37.0	24.4	16.8	10.9	6.7	1.7	16.8	2.5
	死別	98	52.0	28.6	14.3	10.2	6.1	5.1	1.0	21.4	9.2
	男性計	750	74.3	36.8	17.9	12.0	19.9	8.7	0.1	14.3	4.1
	未婚	135	74.1	29.6	14.1	8.1	12.6	10.4	0.7	17.8	4.4
	既婚(共働きである)	207	79.7	40.1	23.2	12.1	18.4	8.7	-	9.2	2.9
	既婚(共働きでない)	349	71.6	36.1	15.8	11.5	22.1	7.4	-	16.3	4.0
離婚	34	76.5	50.0	17.6	20.6	26.5	17.6	-	11.8	2.9	
死別	18	72.2	38.9	27.8	33.3	38.9	5.6	-	5.6	11.1	

(5) セクシュアル・ハラスメントを受けた(見聞きした)経験

問 16 . あなたは、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたり見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

セクシュアル・ハラスメントを受けた(見聞きした)経験について性別にみると、男女ともに「自分のまわりではそのようなことがない」(女性 67.9%、男性 74.8%)の割合が最も多くなっているものの、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」をあげた人が女性は 16.0%、男性も 18.9%みられる。また、女性は「自分が直接受けたことがある」が 13.5%となっている。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた(見聞きした)経験【性別】



年代別にみると、女性は「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」人の割合が20～50代で2割前後みられるほか、「自分が直接受けたことがある」人は20～40代で2割前後みられる。なお、男性も60代までは「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」人の割合が2割前後みられる。

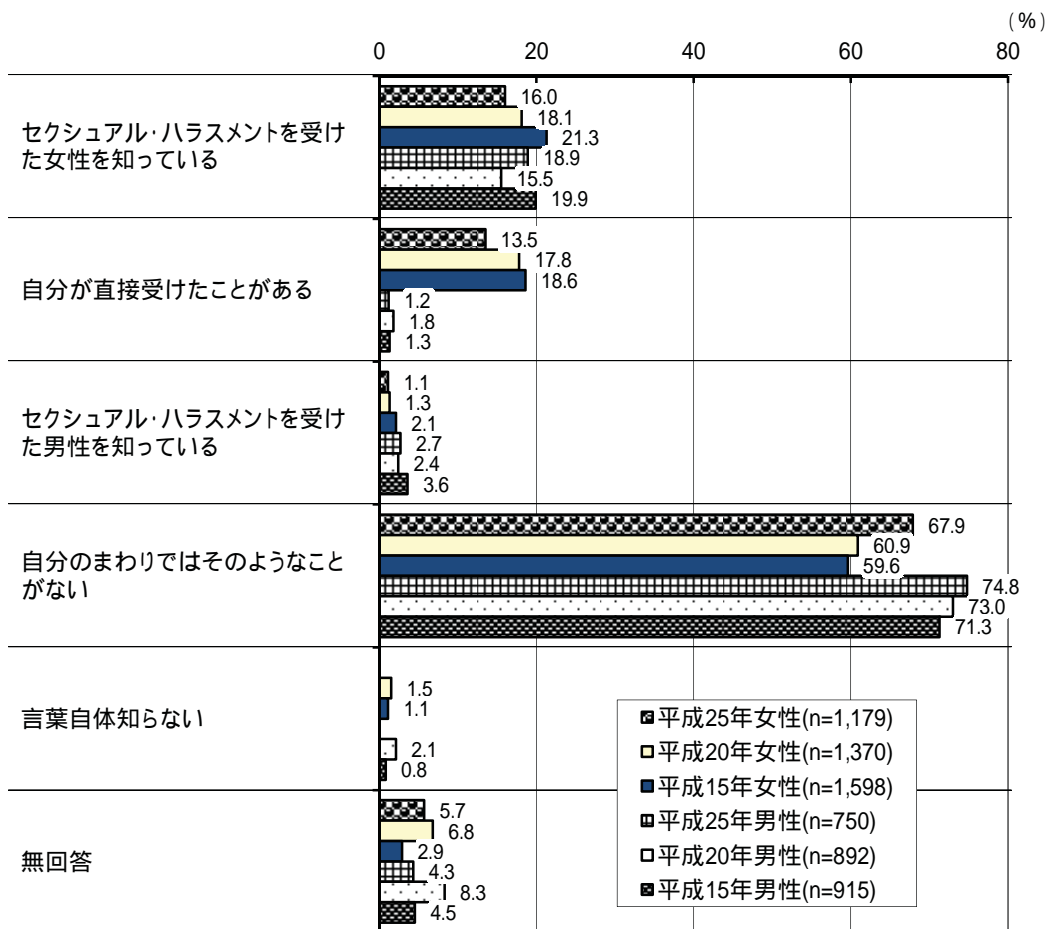
表 セクシュアル・ハラスメントを受けた(見聞きした)経験[性・年代別]

単位：%

		サンプル数	見た女性を知っている割合	自分が直接受けたことがある割合	見た男性を知っている割合	それ以外の割合	無回答
全体		1,948	17.1	8.7	1.7	70.3	5.4
性・年代別	女性計	1,179	16.0	13.5	1.1	67.9	5.7
	20代	104	24.0	20.2	3.8	58.7	1.0
	30代	200	25.5	21.5	2.0	58.5	1.0
	40代	198	18.2	18.7	1.0	66.7	1.0
	50代	200	20.5	14.5	1.0	65.5	3.0
	60代	273	8.8	8.1	0.4	76.6	8.1
	70歳以上	200	6.0	3.5	-	74.0	16.5
	男性計	750	18.9	1.2	2.7	74.8	4.3
	20代	64	26.6	3.1	4.7	68.8	-
	30代	95	22.1	2.1	4.2	71.6	2.1
	40代	129	25.6	-	1.6	73.6	0.8
	50代	133	19.5	0.8	3.8	74.4	3.8
60代	166	19.3	1.8	3.0	74.7	4.2	
70歳以上	160	8.1	-	0.6	80.6	10.6	

平成15年調査、20年調査の結果と比較すると、男女ともに「自分のまわりではそのようなことがない」が最も多くなっている傾向は変わっていない。なお、女性の「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」人の割合が減少しているほか、「自分が直接受けたことがある」人の割合も減少している。一方、男性は「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」人の割合が平成20年よりも上回っている。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた(見聞きした)経験[平成15年、20年調査との比較]



6. 女性の地域リーダーと男女共同参画に関する知識について

(1) 地域におけるリーダーに女性のリーダーが少ない理由

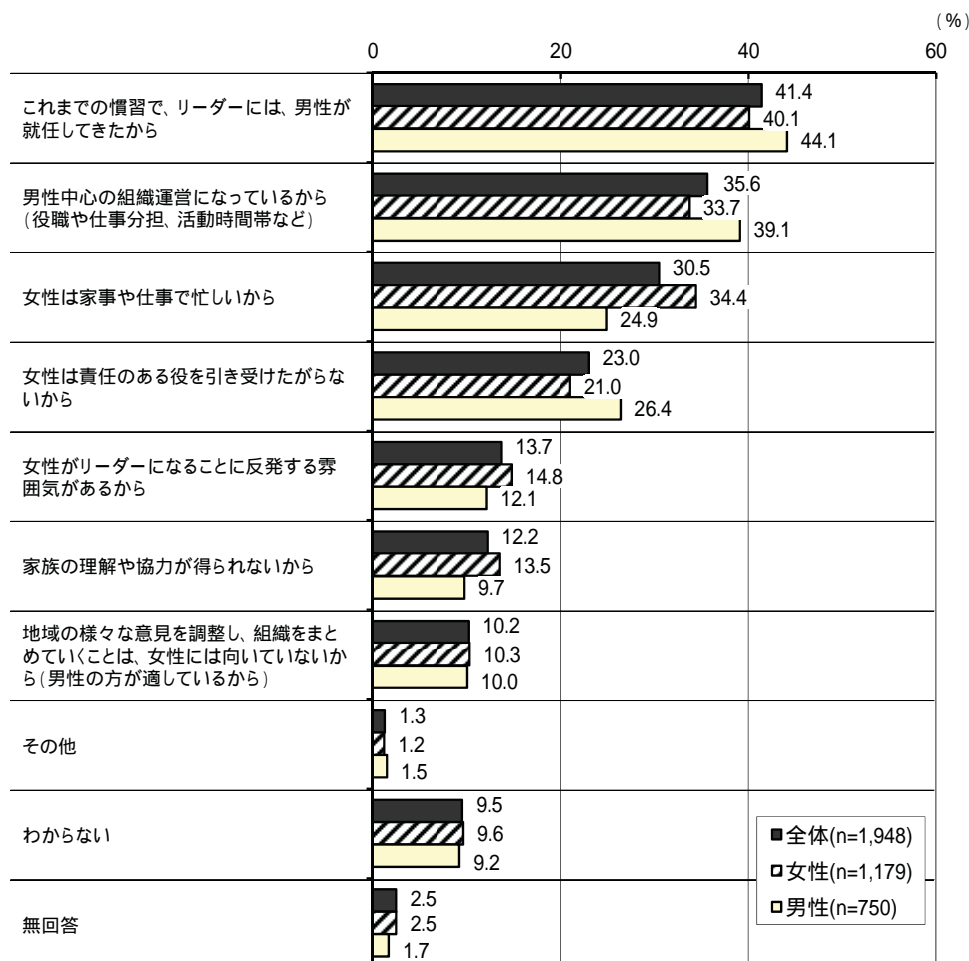
問 17. 現在福岡市では、地域における諸団体の長等（自治協議会会長など）への女性の参画状況は 16.8%となっています。（平成 25 年 7 月 1 日現在）

あなたは、地域における活動に女性のリーダーが少ない理由はなぜだと思えますか。あなたの考えに最も近いものを **2つまで** 選び、番号に をつけてください。

地域におけるリーダーに女性のリーダーが少ない理由についてみると、全体では「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」（41.4%）の割合が最も多く、次いで「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」（35.6%）、「女性は家事や仕事で忙しいから」（30.5%）、「女性は責任のある役を引き受けたがらないから」（23.0%）の順となっている。

性別にみると、男女とも「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」（女性 40.1%、男性 44.1%）の割合が最も多いものの、次いで多いのは女性が「女性は家事や仕事で忙しいから」（34.4%）、一方、男性は「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」（39.1%）となっている。

図 地域におけるリーダーに女性のリーダーが少ない理由【性別】



年代別にみると、「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」の割合が最も多いのは女性の40～60代、男性の50代以上で、「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」が最も多いのは女性20代、男性の20～40代となっている。なお、女性の30代と70歳以上は「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が最も多くなっている。

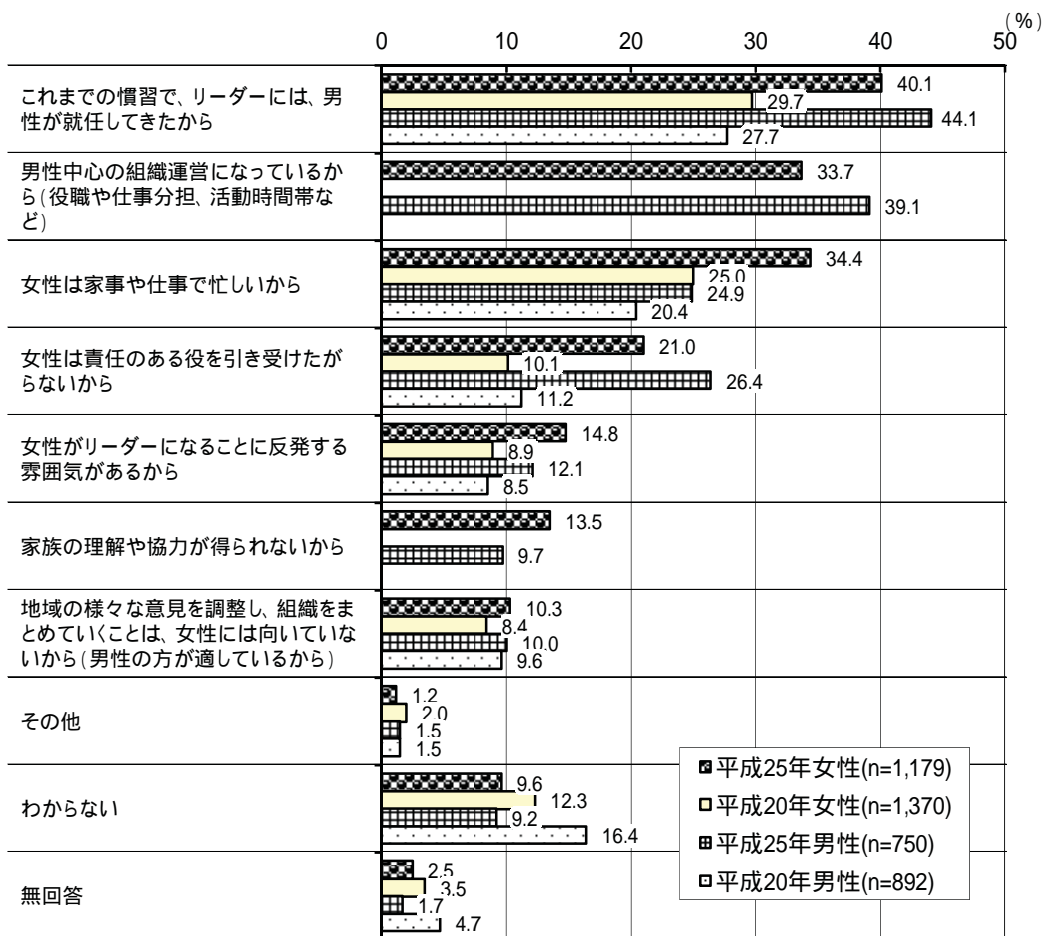
表 地域におけるリーダーに女性のリーダーが少ない理由【性・年代別】

単位：％

	サンプル数	これまでの慣習で、男性が就任してきたから	男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）	女性は家事や仕事で忙しいから	女性は責任のある役を引き受けられないから	女性がリーダーになることに反発する雰囲気があるから	家族の理解や協力が得られないから	向いているから（地域の人々の意見を調整し、組織に適した人材を確保すること）	その他	わからない	無回答	
全体	1,948	41.4	35.6	30.5	23.0	13.7	12.2	10.2	1.3	9.5	2.5	
性・年代別	女性計	1,179	40.1	33.7	34.4	21.0	14.8	13.5	10.3	1.2	9.6	2.5
	20代	104	50.0	51.0	30.8	11.5	19.2	10.6	6.7	-	6.7	1.0
	30代	200	39.0	39.0	40.0	16.0	19.5	14.0	11.5	1.5	4.0	-
	40代	198	41.4	31.8	39.4	17.2	17.2	17.7	7.6	1.0	10.6	0.5
	50代	200	38.0	33.0	31.0	27.5	15.5	19.5	9.0	1.5	8.5	1.5
	60代	273	43.6	32.2	31.5	27.5	11.4	9.5	12.8	0.7	9.5	2.9
	70歳以上	200	32.5	23.5	33.5	20.0	9.5	9.5	12.0	2.0	16.5	8.0
	男性計	750	44.1	39.1	24.9	26.4	12.1	9.7	10.0	1.5	9.2	1.7
	20代	64	50.0	53.1	17.2	10.9	18.8	9.4	6.3	1.6	9.4	-
	30代	95	38.9	44.2	24.2	16.8	15.8	5.3	6.3	3.2	14.7	-
	40代	129	44.2	45.7	26.4	24.0	17.8	6.2	3.9	3.1	10.1	-
	50代	133	49.6	39.8	24.8	27.8	11.3	10.5	9.8	-	6.8	1.5
	60代	166	44.0	36.1	21.1	36.7	8.4	13.9	13.9	0.6	6.0	1.2
	70歳以上	160	40.6	26.9	31.9	28.1	7.5	10.6	15.0	1.3	10.6	5.6

平成 20 年調査の結果と比較すると、回答方法は平成 20 年調査は選択肢から1つだけ選ぶ単数回答形式であったのに対して、今回の調査は選択肢から2つまで選ぶ複数回答形式としているため、調査結果の割合に関して一概に比較できないものの、「これまでの慣習で、リーダーには男性が就任してきたから」、「女性は家事や仕事で忙しいから」などの割合が多くなっている傾向は、平成 20 年と同様といえる。

図 地域におけるリーダーに女性のリーダーが少ない理由[平成 20 年調査との比較]



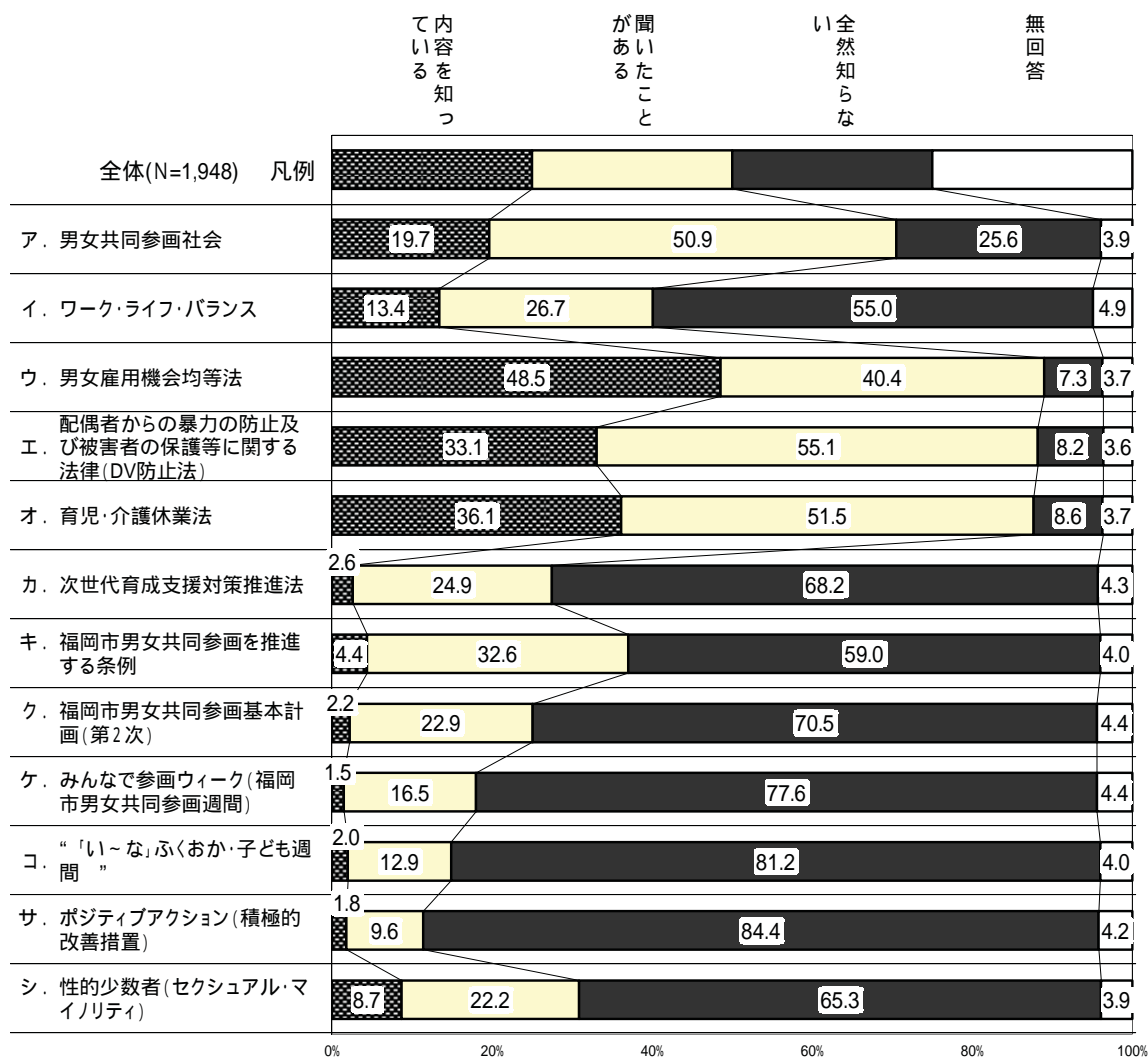
注)「男性中心の組織運営になっているから(役職や仕事分担、活動時間帯など)」、「家族の理解や協力が得られないから」は、平成20年度調査にはない項目

(2) 男女共同参画に関するキーワードの認知状況

問 18 . 下記のア～シの言葉について、あなたはどの程度ご存じですか。ア～シまでのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つだけ選び、番号に をつけてください。

男女共同参画関連用語・事業の認知状況についてそれぞれきいたところ、「内容を知っている」+「聞いたことがある」では「ウ. 男女雇用機会均等法」(88.9%)の割合が最も多く、次いで「エ. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV 防止法)」(88.2%)、「オ. 育児・介護休業法」(87.6%)、「ア. 男女共同参画社会」(70.6%)の順となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況【全体】

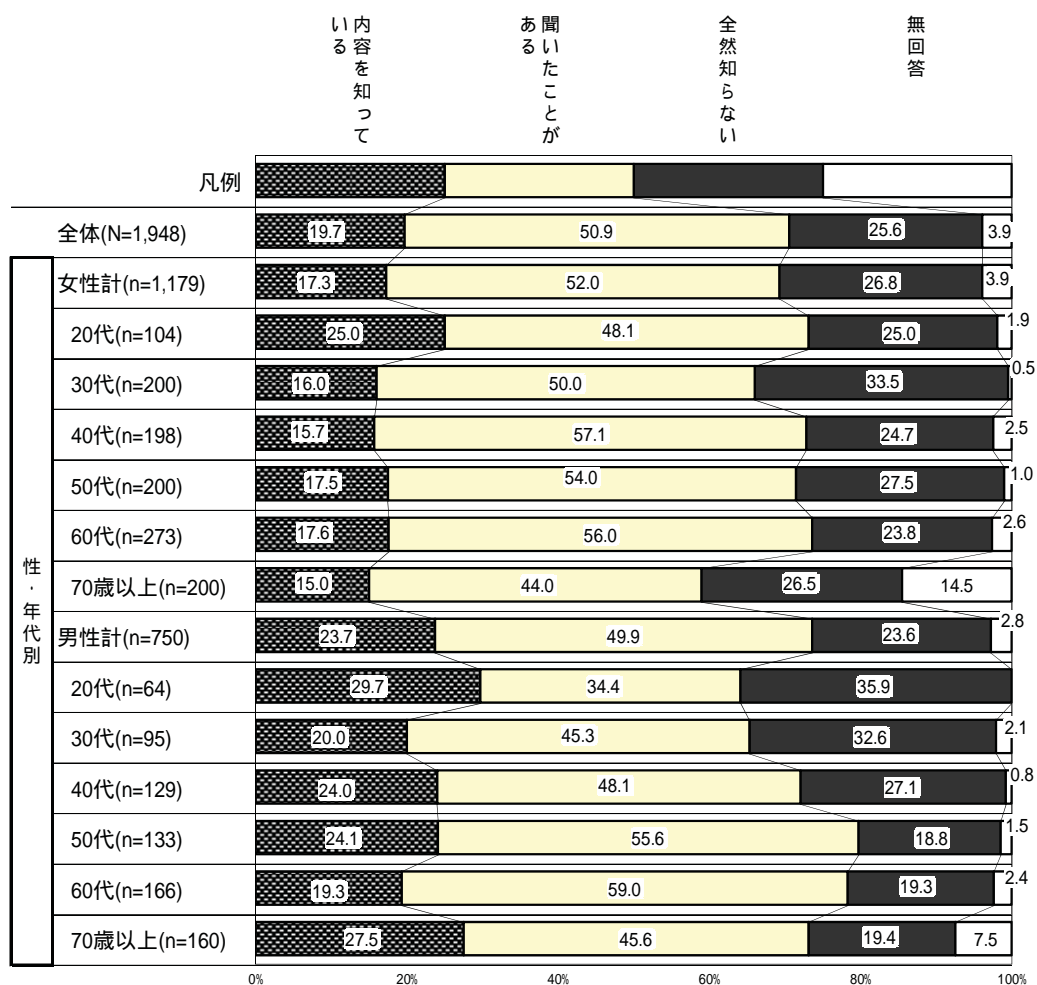


ア．男女共同参画社会

「男女共同参画社会」の言葉の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 69.3%、男性 73.6%で、男性の方が高いものの、いずれも過半数を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が過半数を占めており、最も多いのは男性 50代(79.7%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(男女共同参画社会)【性・年代別】

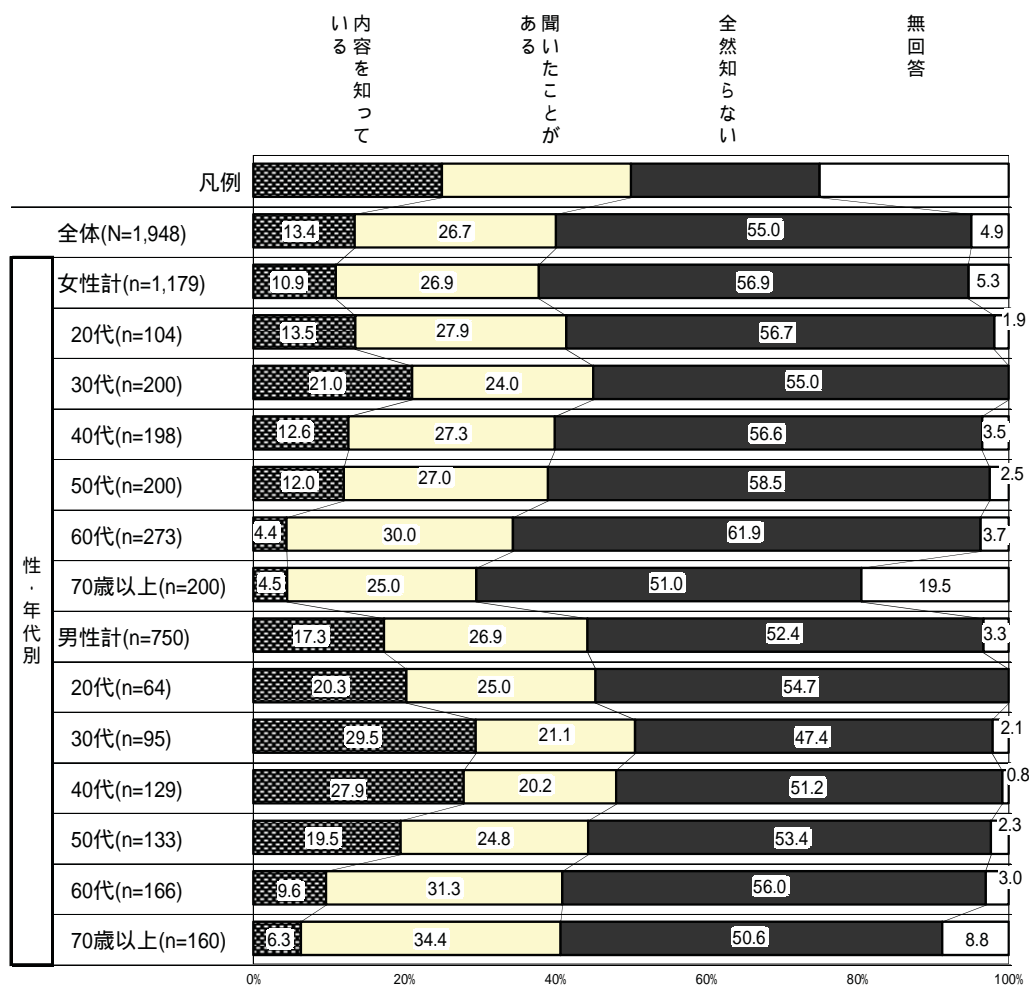


イ．ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」の言葉の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 37.8%、男性 44.2%で、男性の方が高くなっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 56.9%、男性 52.4%と、男女とも半数を占めて最も多くなっている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは男性 30代(50.6%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(ワーク・ライフ・バランス)【性・年代別】

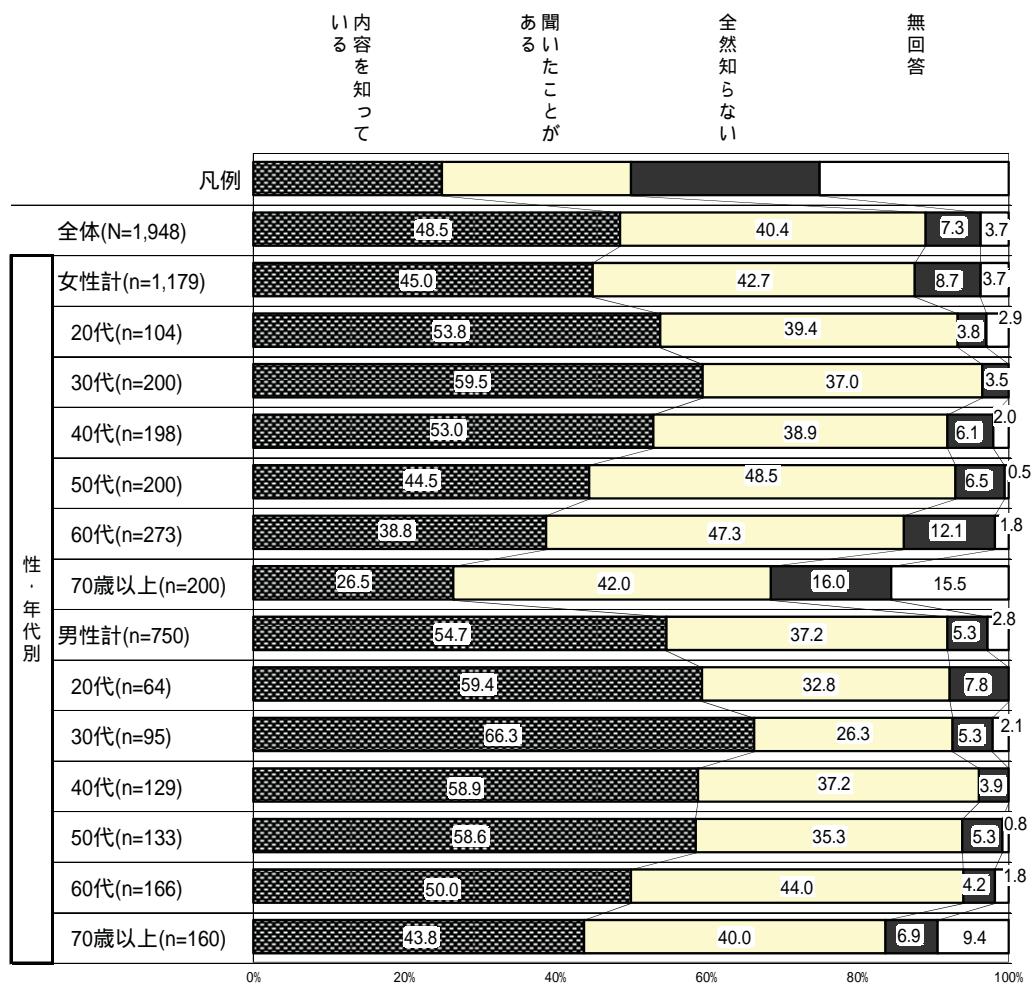


ウ．男女雇用機会均等法

「男女雇用機会均等法」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 87.7%、男性 91.9%で、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が大半を占めている。なお、「内容を知っている」人の割合が最も多いのは男性 30代(66.3%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(男女雇用機会均等法)【性・年代別】

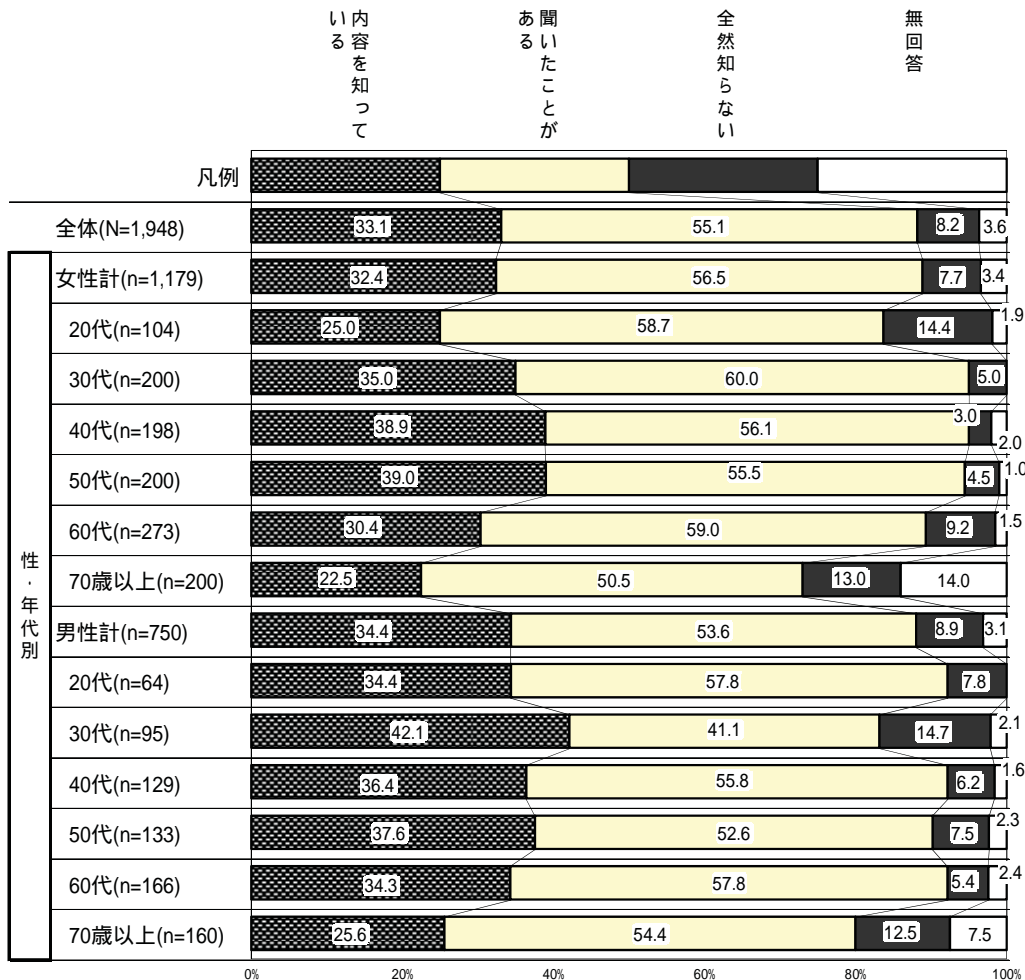


エ．配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性88.9%、男性88.0%で、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が大半を占めている。なお、「内容を知っている」人の割合が最も多いのは男性30代(42.1%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(DV防止法)【性・年代別】

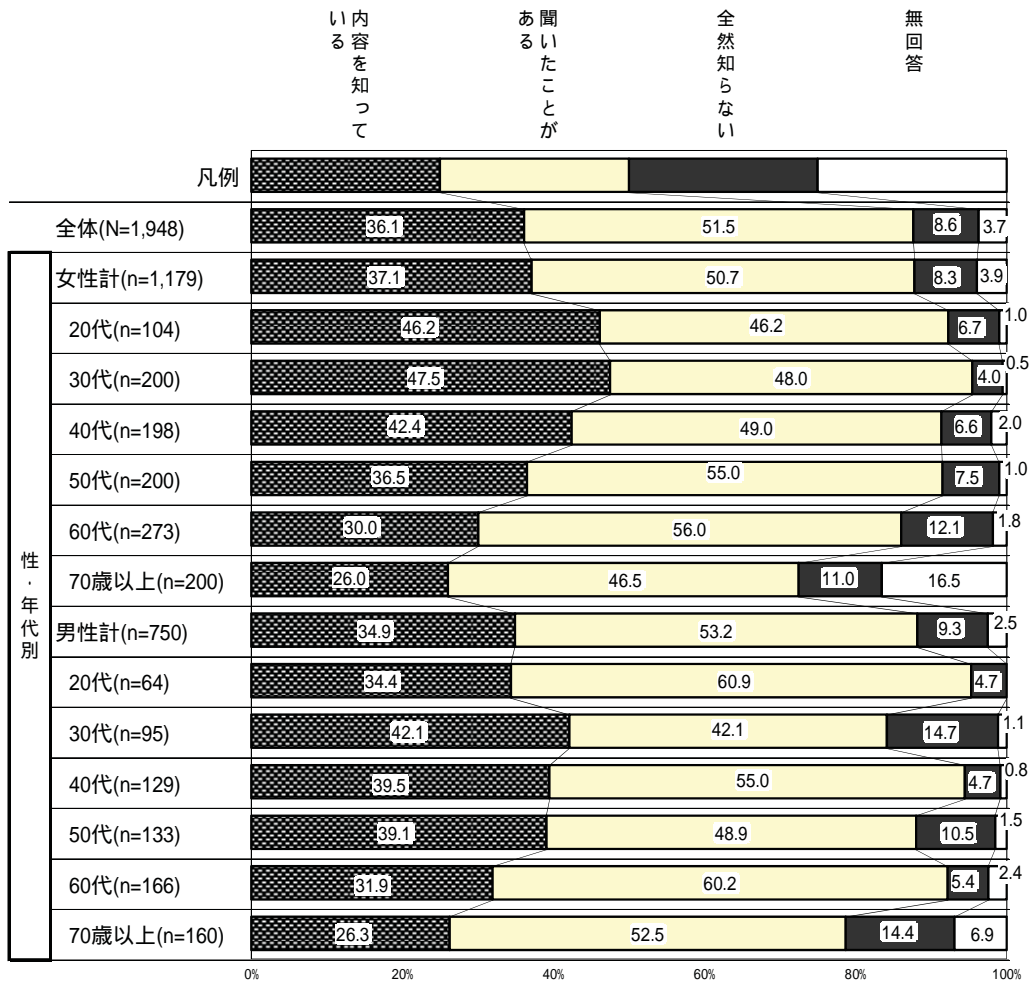


オ．育児・介護休業法

「育児・介護休業法」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 87.8%、男性 88.1%で、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が大半を占めている。なお、「内容を知っている」人の割合が最も多いのは女性 30 代(47.5%)、次いで女性 20 代(46.2%)の順となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(育児・介護休業法)〔性・年代別〕

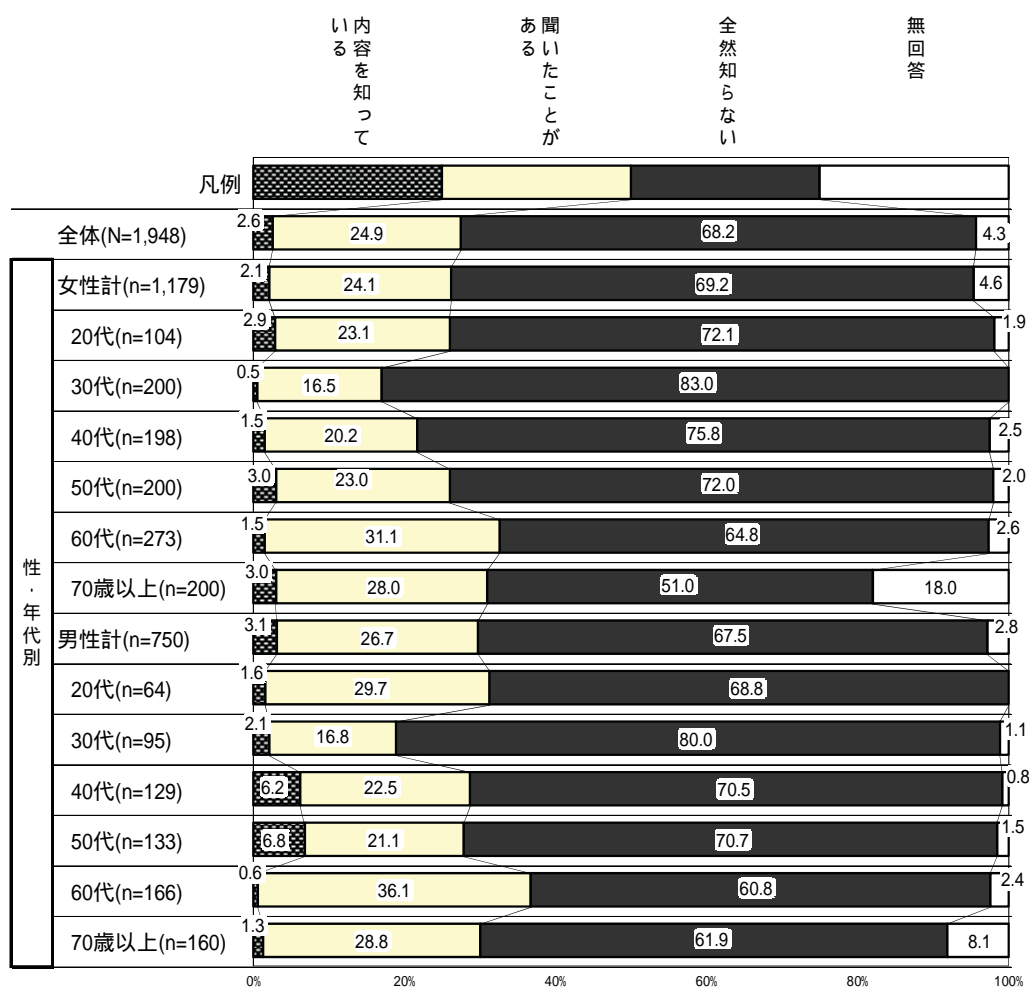


カ．次世代育成支援対策推進法

「次世代育成支援対策推進法」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 26.2%、男性 29.8%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 69.2%、男性 67.5%と、男女とも過半数を占めて最も多くなっている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは男性 60代(36.7%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(次世代育成支援対策推進法)【性・年代別】

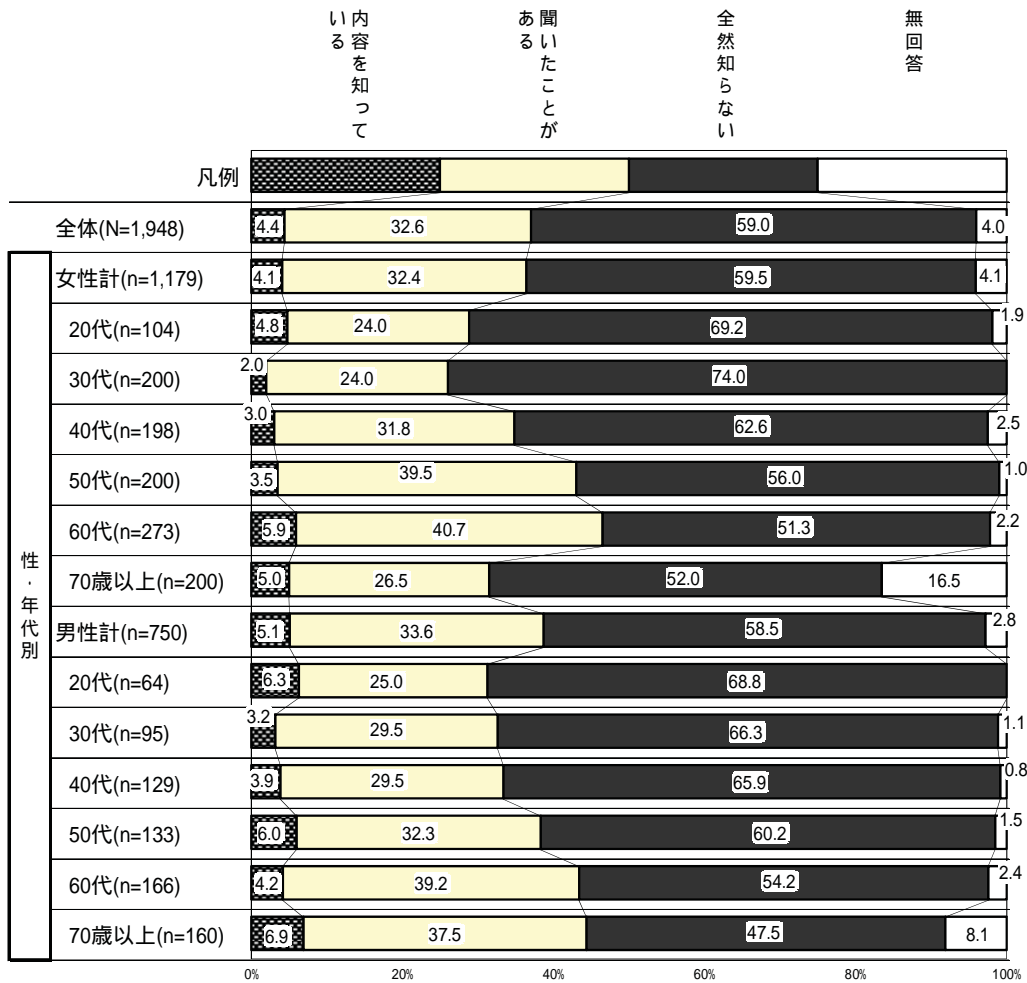


キ．福岡市男女共同参画を推進する条例

「福岡市男女共同参画を推進する条例」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性36.5%、男性38.7%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性59.5%、男性58.5%と、男女とも過半数を占めて最も多くなっている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは女性60代(46.6%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(福岡市男女共同参画を推進する条例)【性・年代別】

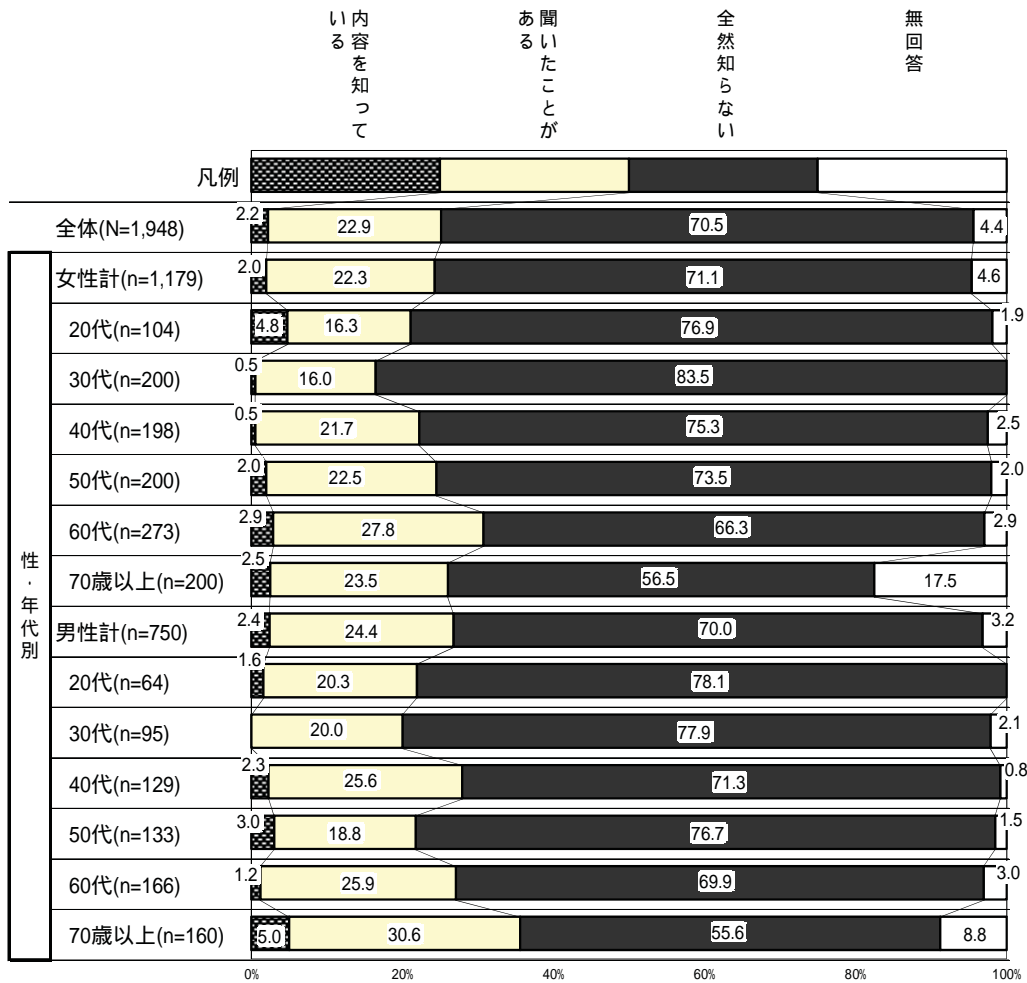


ク．福岡市男女共同参画基本計画（第2次）

「福岡市男女共同参画基本計画(第2次)」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性24.3%、男性26.8%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性71.1%、男性70.0%と、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは男性70歳以上(35.6%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(福岡市男女共同参画基本計画(第2次)) [性・年代別]

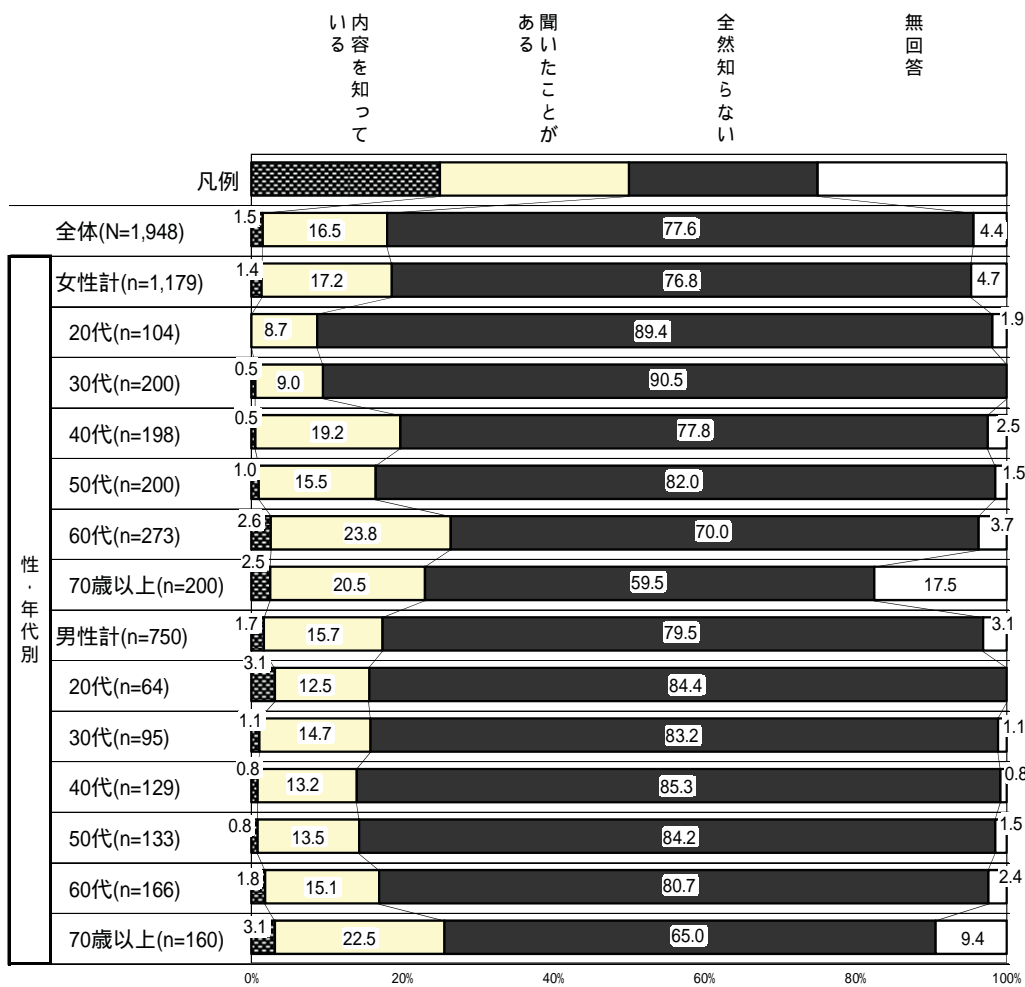


ケ．みんなで参画ウィーク（福岡市男女共同参画週間）

「みんなで参画ウィーク(福岡市男女共同参画週間)」の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 18.6%、男性 17.4%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 76.8%、男性 79.5%と、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは女性 60代(26.4%)、次いで男性 70歳以上(25.6%)の順となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(みんなで参画ウィーク(福岡市男女共同参画週間))【性・年代別】

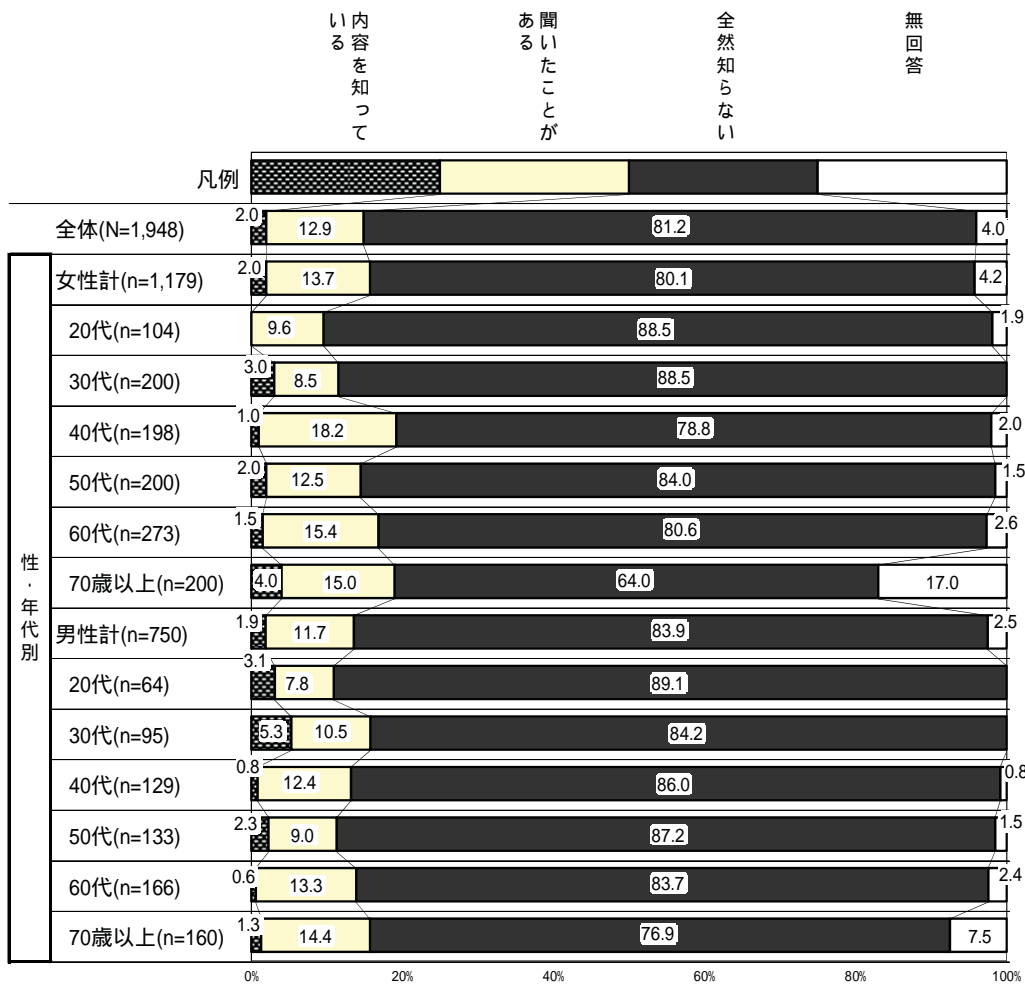


コ. “ 「い～な」ふくおか・子ども週間 ”

“ 「い～な」ふくおか・子ども週間 ”の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 15.7%、男性 13.6%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 80.1%、男性 83.9%と、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは女性 40代(19.2%)、次いで女性 70歳以上(19.0%)の順となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(“ 「い～な」ふくおか・子ども週間 ”)【性・年代別】

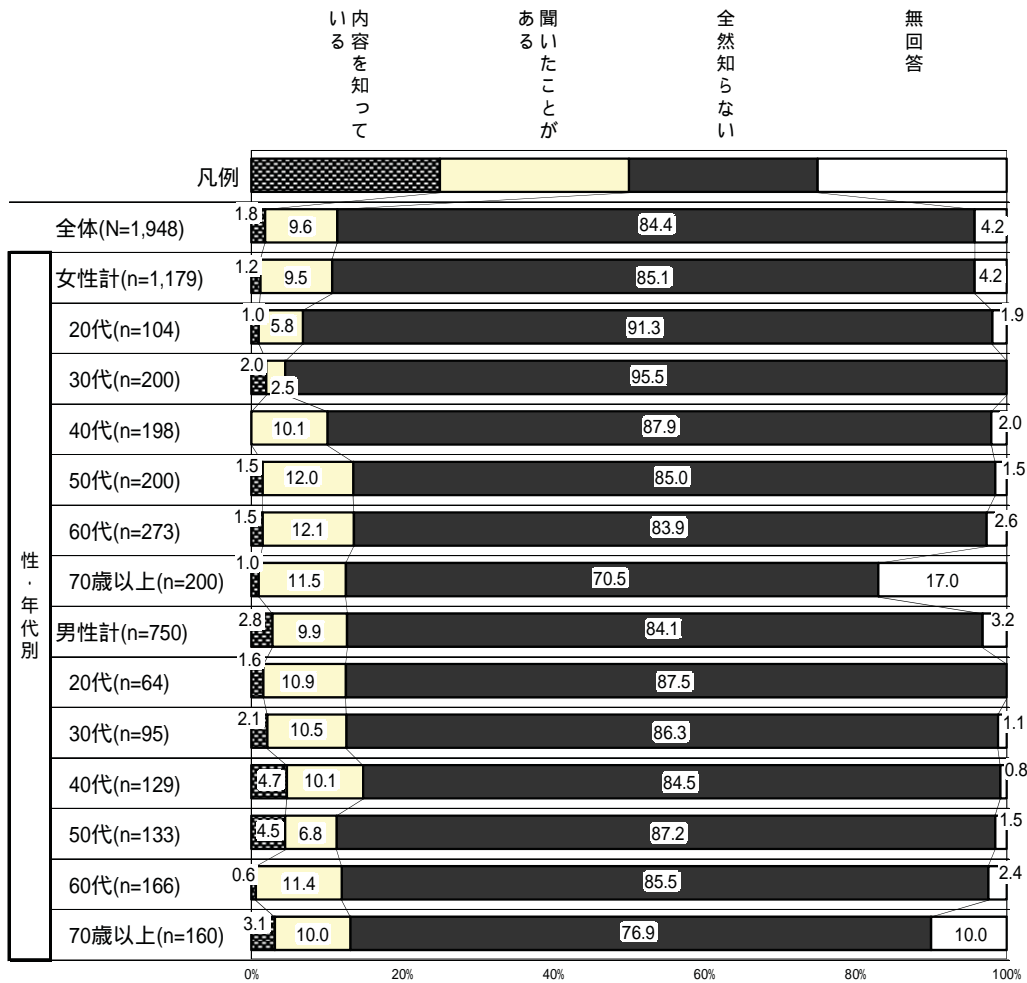


サ．ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」の言葉の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 10.7%、男性 12.7%となっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 85.1%、男性 84.1%と、男女とも大半を占めている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは男性 40代(14.8%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(ポジティブ・アクション(積極的改善措置))【性・年代別】

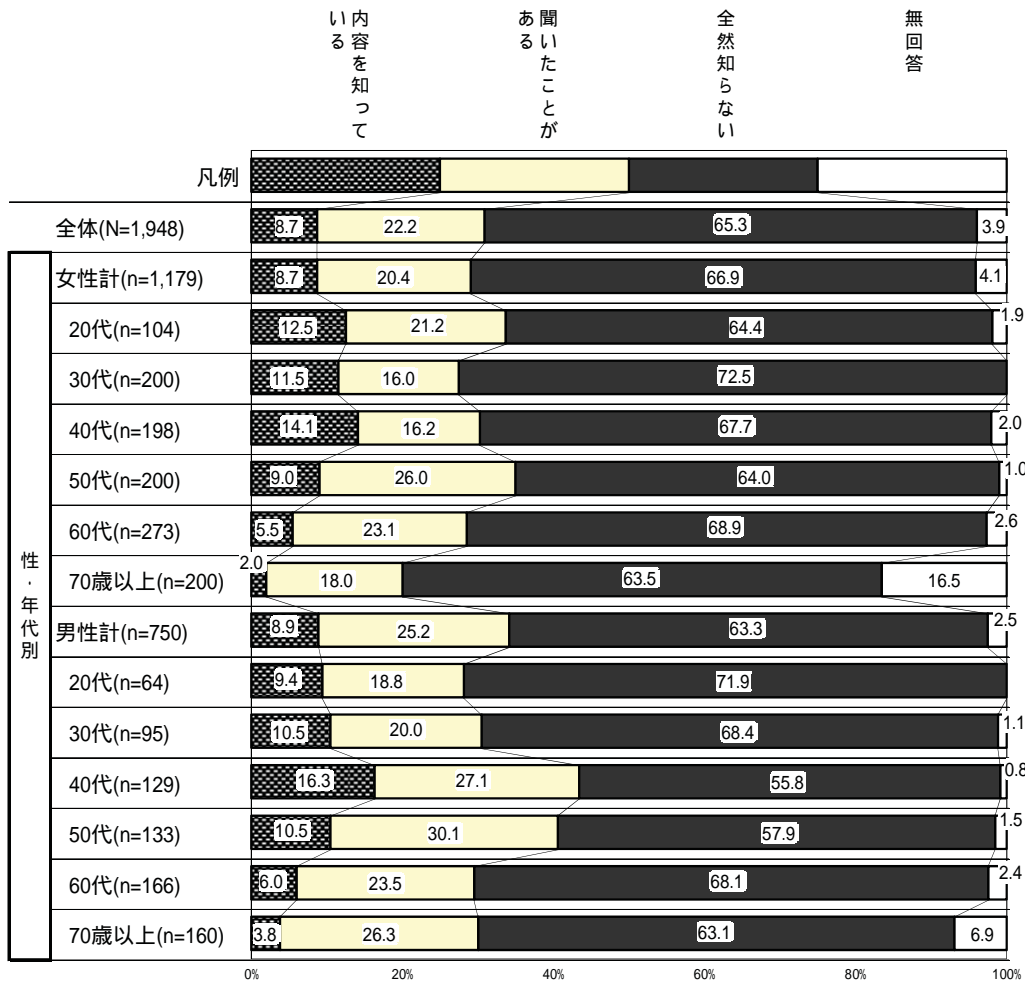


シ．性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）

「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)」の言葉の認知状況について性別にみると、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合は女性 29.1%、男性 34.1%で、男性の方が高くなっている。なお、「全然知らない」人の割合が女性 66.9%、男性 63.3%と、男女とも過半数を占めて最も多くなっている。

年代別にみると、いずれの年代も「全然知らない」の割合が最も多くなっている。なお、「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が最も多いのは男性 40代(43.4%)となっている。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況(性的少数者(セクシュアル・マイノリティ))【性・年代別】



男女共同参画に関するキーワードのうち、過去の調査と比較できるア～ク、コについて平成 15 年調査、平成 20 年調査と比較してみる(ただしイ、カ、キ、ク、コは平成 20 年調査のみ)。

「ア. 男女共同参画社会」、「ウ. 男女雇用機会均等法」、「エ. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV 防止法)」、「オ. 育児・介護休業法」については、男女とも「内容を知っている」の割合は平成 20 年よりも下回っているものの、「聞いたことがある」が平成 20 年よりも高くなっている。「イ. ワーク・ライフ・バランス」については、男女とも「内容を知っている」の割合が平成 20 年よりも高くなっている。「キ. 福岡市男女共同参画を推進する条例」は「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が平成 20 年よりも高くなっているものの、「全然知らない」が過半数を占めている傾向は変わらない。「カ. 次世代育成支援対策推進法」、「ク. 福岡市男女共同参画基本計画 (第 2 次)」は「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が平成 20 年よりも低くなっている。なお、“「い～な」ふくおか・子ども週間 ”は、男性の「内容を知っている」+「聞いたことがある」の割合が平成 20 年よりも高くなっているものの、「全然知らない」が男女とも 8 割前後を占め、他のキーワードに比べて認知度が低い傾向は、平成 20 年と変わっていない。

図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況【平成 15 年調査、平成 20 年調査との比較】

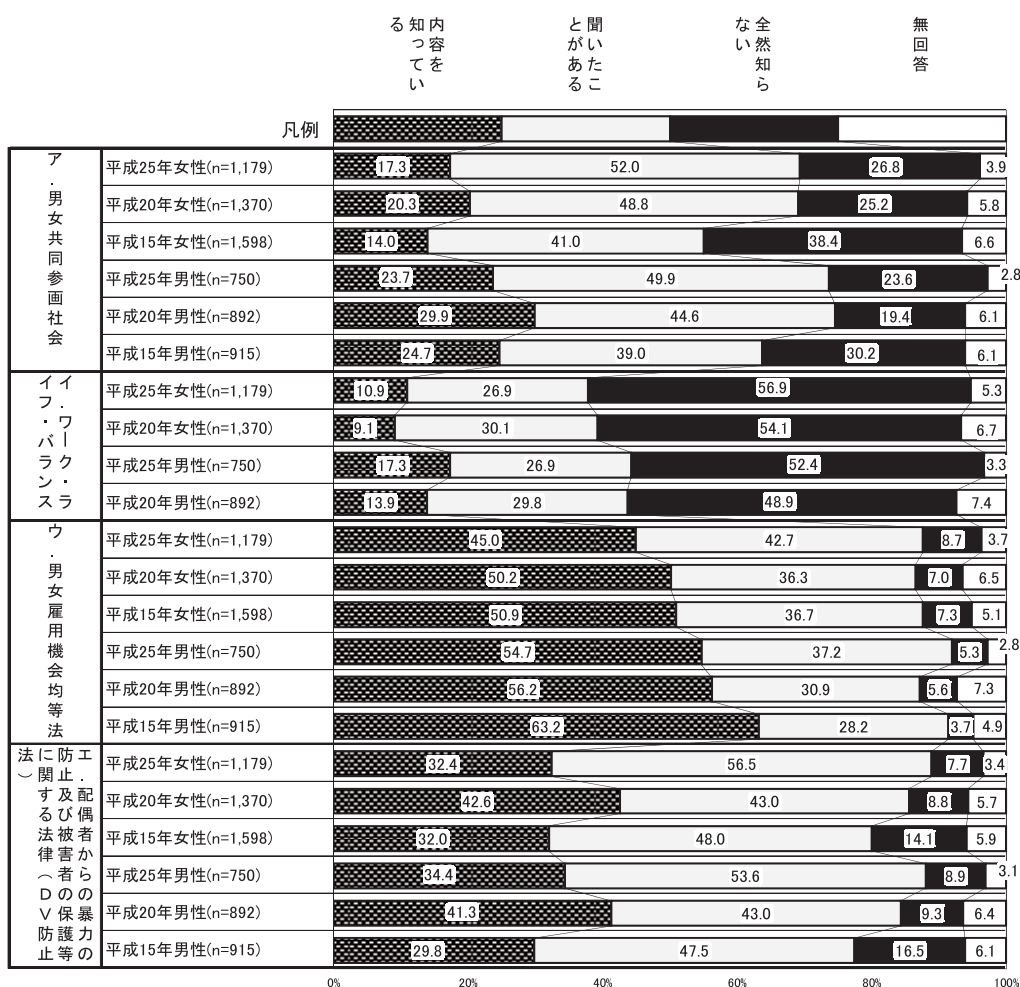
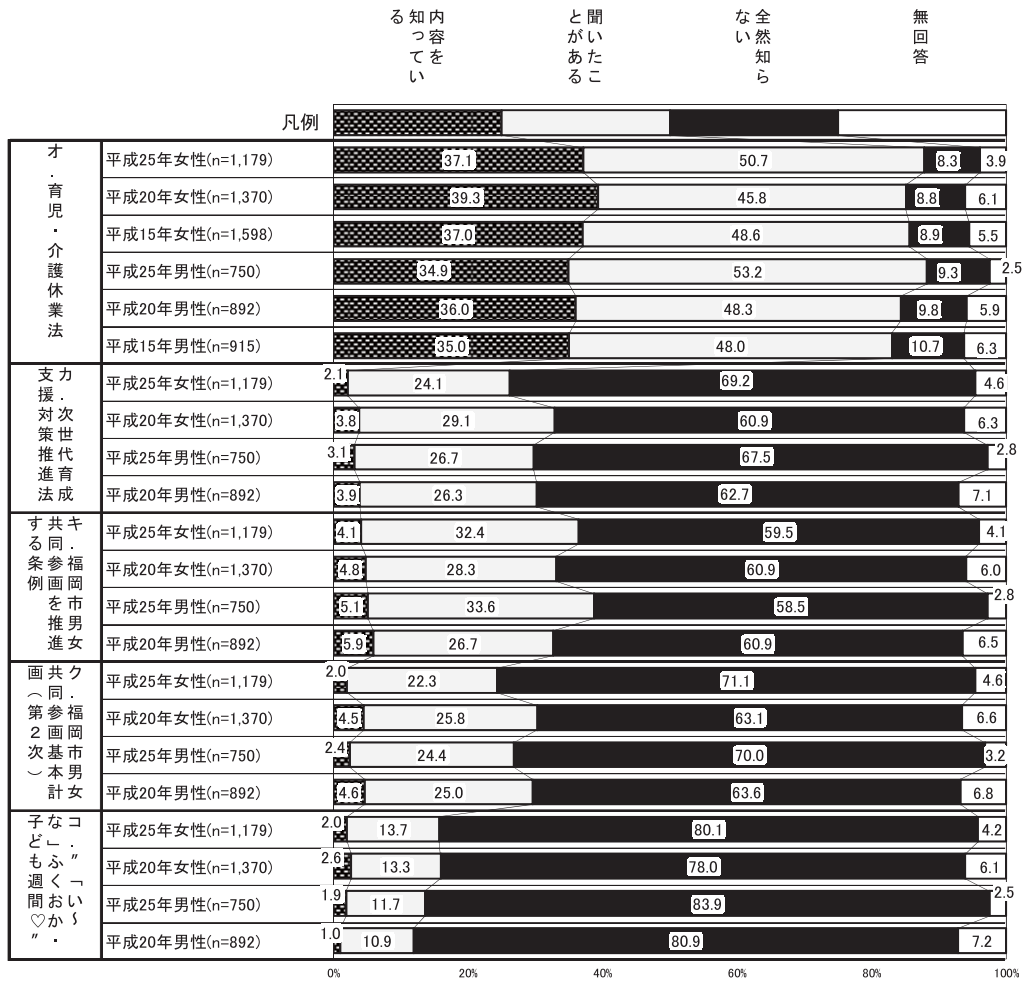


図 男女共同参画関連用語・事業の認知状況【平成15年調査、平成20年調査との比較】



7. 福岡市の男女共同参画推進の取組について

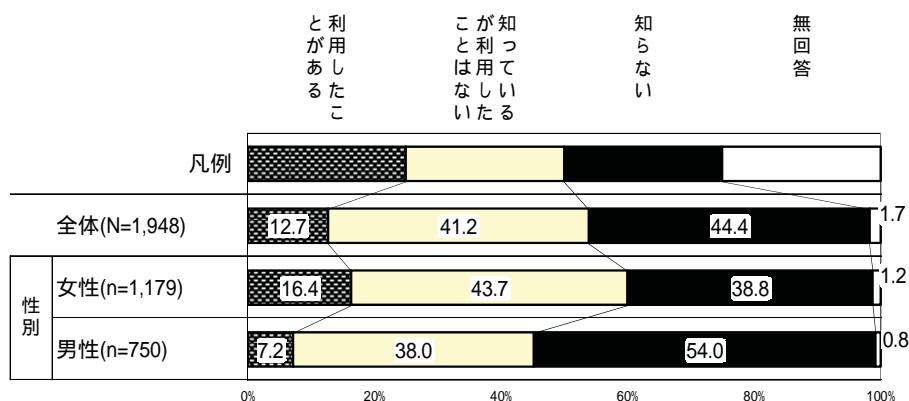
(1) 福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの認知状況

問 19 . あなたは福岡市男女共同参画推進センター・アミカス（以下アミカス）をご存じですか。

福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの認知状況についてきいたところ、全体では「利用したことがある」人の割合は 12.7%、「知っているが利用したことはない」は 41.2%で、「知らない」の割合が 44.4%で最も多くなっている。

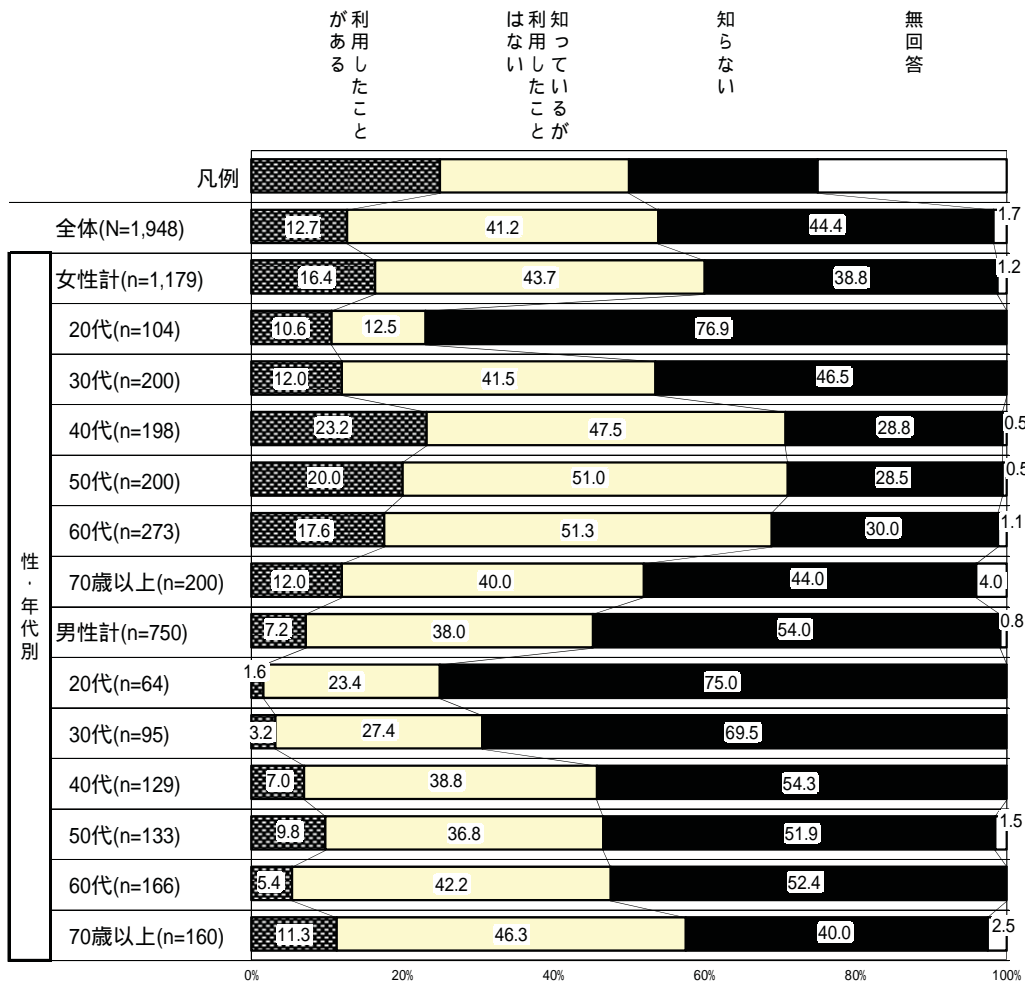
性別にみると、「利用したことがある」人は女性 16.4%、男性 7.2%で、女性の方が高くなっている。また、「利用したことがある」+「知っているが利用したことはない」の割合は女性 60.1%、男性 45.2%で、女性の方が認知率は高くなっている。なお、「知らない」の割合は女性が 38.8%に対して、男性は 54.0%と、男性は過半数を占めている。

図 福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの認知状況【性別】



年代別にみると、「利用したことがある」の割合が最も多いのは女性40代(23.2%)、次いで女性50代(20.0%)、女性60代(17.6%)の順となっている。また、「利用したことがある」+「知っているが利用したことはない」の割合が最も多いのは女性50代(71.0%)、次いで女性40代(70.7%)、女性60代(68.9%)の順となっている。なお、「知らない」の割合が最も多いのは女性20代(76.9%)、次いで男性20代(75.0%)、男性30代(69.5%)の順となっており、若い年代の認知率が低い。

図 福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの認知状況【性・年代別】



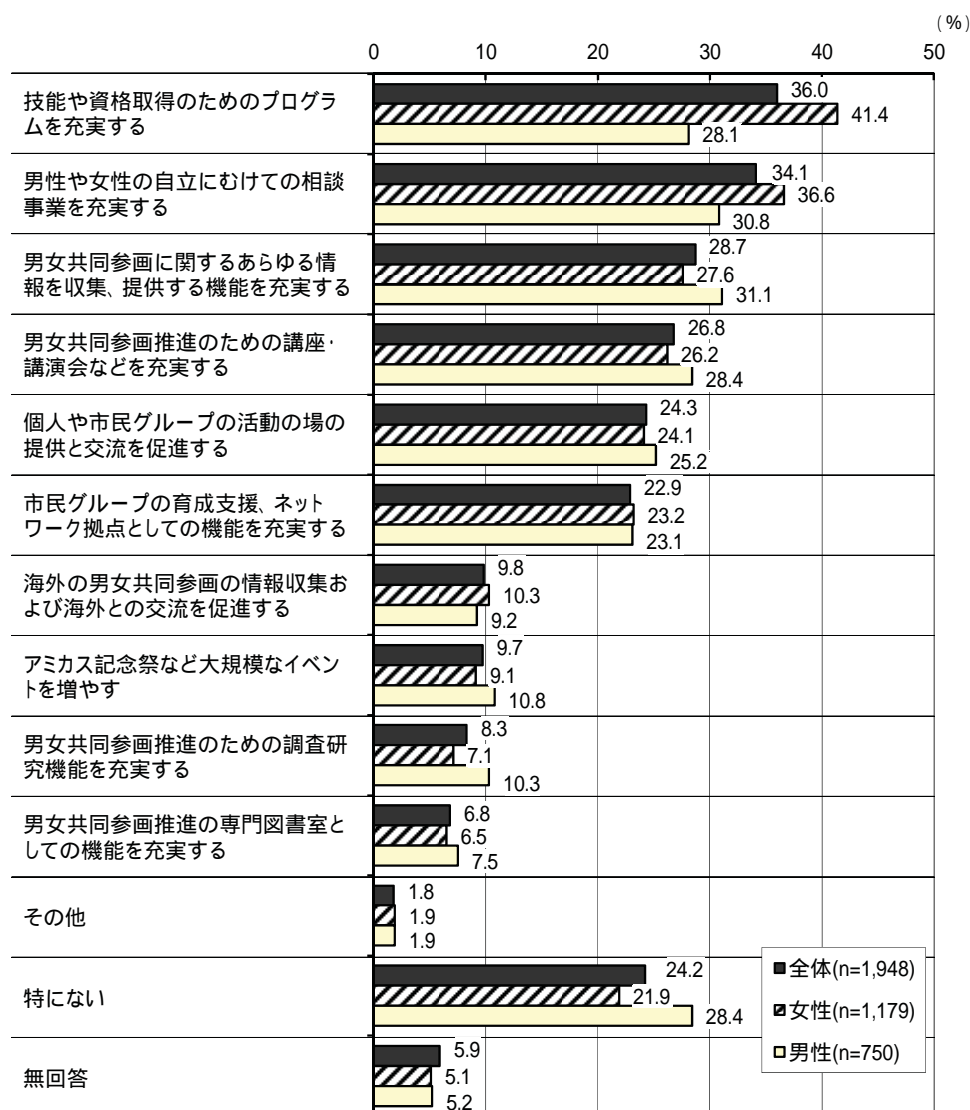
(2) 今後アミカスに期待すること

問 20 .あなたが今後アミカスに期待することはどんなことですか。あてはまるものをすべて選び、番号に をつけてください。

今後アミカスに期待することについてきいたところ、全体では「技能や資格取得のためのプログラムを充実する」の割合が 36.0%で最も多く、次いで「男性や女性の自立にむけての相談事業を充実する」(34.1%)の順となっている。

性別にみると、女性は「技能や資格取得のためのプログラムを充実する」(41.4%)の割合が最も多く、次いで「男性や女性の自立にむけての相談事業を充実する」(36.6%)の順となっている。一方、男性は「男女共同参画に関するあらゆる情報を収集、提供する機能を充実する」(31.1%)の割合が最も多く、次いで「男性や女性の自立にむけての相談事業を充実する」(30.8%)、「男女共同参画推進のための講座・講演会などを充実する」(28.4%)、「技能や資格取得のためのプログラムを充実する」(28.1%)などの順となっている。

図 今後アミカスに期待すること【性別】



年代別にみると、女性は20～50代で「技能や資格取得のためのプログラムを充実する」の割合が最も多く、60代以上は「男性や女性の自立にむけての相談事業を充実する」が最も多くなっている。一方、男性は20代、30代で「特になし」の割合が最も多くなっており、若い世代において女性に比べて関心が低い傾向がみられる。

表 今後アミカスに期待すること【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	技能や資格取得のためのプログラムを充実する	男性や女性の自立にむけての相談事業を充実する	男女共同参画に関する情報を収集、提供する機能を充実する	男女共同参画推進のための講座・講演会などを充実する	個人や市民グループの活動の提供と交流を促進する	市民グループの育成支援、ネットワーキングとしての機能を充実する	海外の男女共同参画の情報収集	アミカス記念祭など大規模なイベントを増やす	男女共同参画推進のための調査研究機能を充実する	男女共同参画推進の専門図書室としての機能を充実する	その他	特になし	無回答	
全体	1,948	36.0	34.1	28.7	26.8	24.3	22.9	9.8	9.7	8.3	6.8	1.8	24.2	5.9	
性・年代別	女性計	1,179	41.4	36.6	27.6	26.2	24.1	23.2	10.3	9.1	7.1	6.5	1.9	21.9	5.1
	20代	104	40.4	33.7	30.8	14.4	17.3	14.4	13.5	9.6	7.7	7.7	1.9	26.9	3.8
	30代	200	44.5	32.0	26.0	18.0	22.5	16.0	14.0	11.5	8.0	3.5	3.0	19.5	4.0
	40代	198	51.5	41.4	28.8	31.8	22.7	25.3	10.1	8.6	8.6	11.1	1.5	21.2	3.5
	50代	200	47.5	40.0	26.0	31.0	26.5	29.0	6.0	8.0	4.5	5.5	4.5	16.5	4.0
	60代	273	39.9	41.4	34.1	30.8	27.5	27.8	11.4	8.1	6.6	5.5	0.4	21.6	2.9
	70歳以上	200	24.5	28.5	18.5	24.5	24.0	21.0	8.5	9.5	8.0	7.0	0.5	28.0	12.0
	男性計	750	28.1	30.8	31.1	28.4	25.2	23.1	9.2	10.8	10.3	7.5	1.9	28.4	5.2
	20代	64	29.7	28.1	21.9	18.8	18.8	14.1	14.1	10.9	10.9	7.8	3.1	35.9	7.8
	30代	95	22.1	24.2	18.9	13.7	14.7	14.7	3.2	13.7	3.2	5.3	-	36.8	5.3
	40代	129	27.9	22.5	33.3	23.3	25.6	25.6	11.6	7.8	8.5	7.8	4.7	25.6	1.6
	50代	133	27.1	33.8	32.3	27.1	25.6	29.3	9.0	9.8	12.0	5.3	1.5	30.1	3.8
	60代	166	28.9	33.1	34.3	33.7	31.3	22.9	10.8	13.3	10.8	7.8	1.2	24.1	6.6
	70歳以上	160	31.3	36.9	36.3	41.3	26.9	24.4	7.5	10.0	13.8	9.4	1.3	26.3	6.9

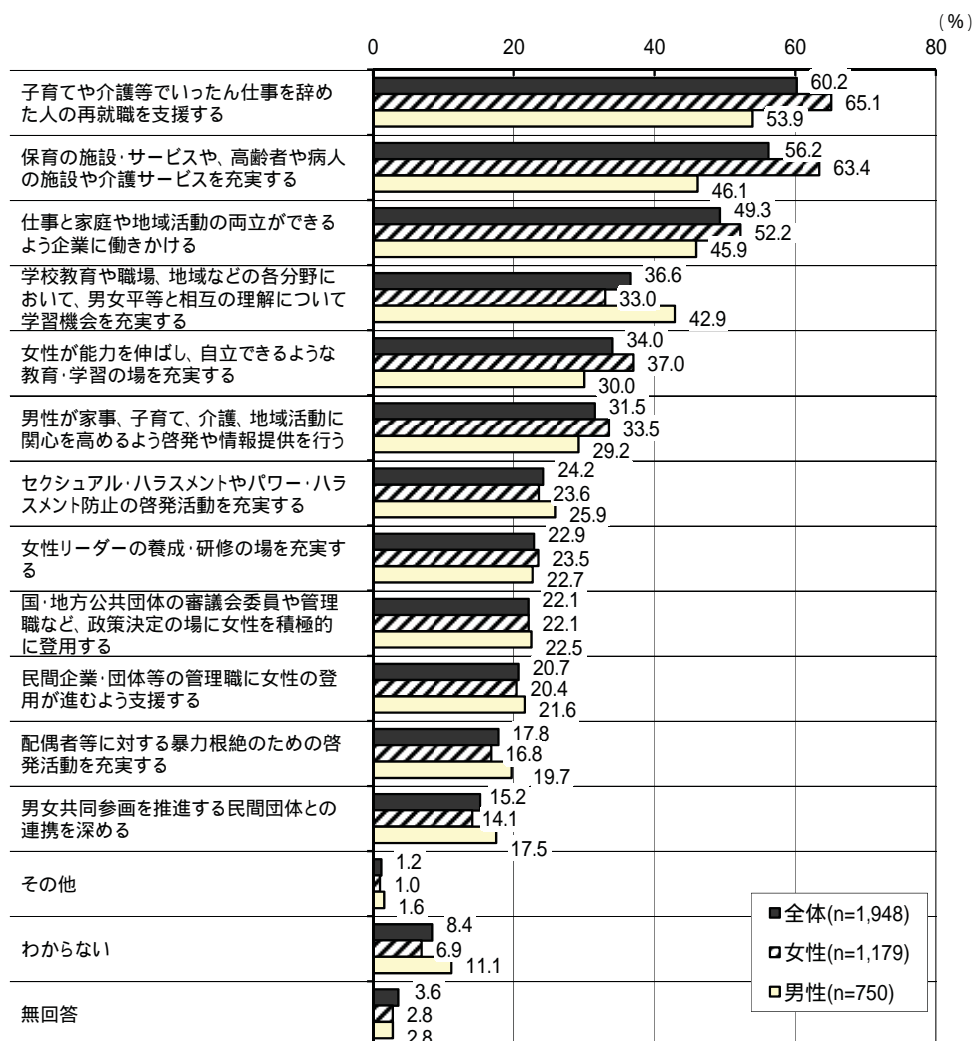
(3) 男女共同参画社会を実現するために、今後福岡市が力を入れていくべきこと

問 21 . あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、福岡市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号にをつけてください。

男女共同参画社会を実現するために、今後福岡市が力を入れていくべきことについてきいたところ、全体では「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が60.2%で最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(56.2%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の順となっているものの、女性の方が男性よりも割合が高くなっている。また、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」も女性の方が男性よりも割合が高い。一方、「学校教育や職場、地域などの各分野において、男女平等と相互の理解について学習機会を充実する」は男性の方が女性よりも高くなっている。

図 男女共同参画社会を実現するために、今後福岡市が力を入れていくべきこと【性別】



年代別にみると、女性は20～40代で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が最も多く、50代以上は「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっている。一方、男性は30代を除いて「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が最も多くなっている。なお、男性30代は「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(45.3%)が最も多くなっているほか、男性40代は「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(55.0%)の割合が「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(55.0%)と同率となっている。

表 男女共同参画社会を実現するために、今後福岡市が力を入れていくべきこと【性・年代別】

単位：%

	サンプル数	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける	学校教育や職場、地域などの各分野において、男女平等と相互の理解について学習機会を充実する	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する	活動が家事、子育て、介護、地域提供を行う	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関する心を高めるよう啓発や情報提供を行う	ワーク・ハラスメント防止の啓発や活動を充実する	女性リーダーの養成・研修の場を充実する	管理職などに登用する	国・地方公共団体の審議会委員や管理職などに登用する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	配偶者等に対する暴力根絶のための啓発活動を充実する	男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める	その他	わからない	無回答
全体	1,948	60.2	56.2	49.3	36.6	34.0	31.5	24.2	22.9	22.1	20.7	17.8	15.2	1.2	8.4	3.6		
性・年代別	女性計	1,179	65.1	63.4	52.2	33.0	37.0	33.5	23.6	23.5	22.1	20.4	16.8	14.1	1.0	6.9	2.8	
	20代	104	76.0	60.6	62.5	31.7	42.3	28.8	30.8	22.1	26.0	22.1	16.3	12.5	1.9	5.8	-	
	30代	200	72.5	68.0	64.0	32.0	37.5	33.0	22.5	24.0	18.0	17.5	17.5	8.0	1.0	3.0	0.5	
	40代	198	66.7	61.6	63.6	32.3	38.9	33.3	23.2	22.2	21.7	22.2	18.7	13.1	1.5	8.1	1.5	
	50代	200	68.5	69.5	58.0	36.0	36.5	44.5	27.5	26.0	24.0	22.5	18.5	16.0	1.0	3.5	2.5	
	60代	273	61.2	63.7	40.3	36.6	34.8	33.3	23.8	22.7	22.7	20.5	15.8	15.4	-	8.8	2.6	
	70歳以上	200	52.0	55.5	35.0	28.0	36.0	26.5	17.5	24.0	21.5	18.5	14.5	18.5	1.5	11.0	8.0	
	男性計	750	53.9	46.1	45.9	42.9	30.0	29.2	25.9	22.7	22.5	21.6	19.7	17.5	1.6	11.1	2.8	
	20代	64	60.9	43.8	56.3	39.1	26.6	28.1	32.8	28.1	15.6	12.5	18.8	15.6	1.6	10.9	1.6	
	30代	95	44.2	30.5	45.3	33.7	23.2	20.0	21.1	17.9	11.6	11.6	10.5	8.4	6.3	14.7	3.2	
	40代	129	55.0	45.7	55.0	39.5	22.5	31.0	24.0	17.8	22.5	18.6	17.8	12.4	0.8	7.8	1.6	
	50代	133	54.1	51.9	50.4	39.1	27.1	29.3	25.6	19.5	18.8	17.3	19.5	22.6	1.5	12.0	2.3	
60代	166	54.2	47.6	42.2	47.0	34.9	30.7	28.9	21.7	26.5	28.9	24.7	21.1	0.6	10.8	3.6		
70歳以上	160	55.6	50.0	35.0	51.3	39.4	31.9	24.4	31.3	31.3	30.0	21.9	20.0	0.6	11.3	3.8		

